

# 男女平等参画に関する 市民意識調査報告書

平成28年9月

苫小牧市

# 目 次

## I 調査の概要

1 調査の目的 .....	1
2 調査項目 .....	1
3 調査方法 .....	1
4 回収結果 .....	1
5 結果の表示方法 .....	1

## II 調査結果

(1) 調査対象者の属性について .....	2
(2) 男女平等に関する意識について .....	6
(3) 女性の就労について .....	24
(4) 育児休業制度について .....	34
(5) 介護について .....	36
(6) パートナーからの暴力等について .....	41
(7) 性的少数者（セクシャルマイノリティ）について .....	47
(8) 男女平等参画社会の推進について .....	48

## III 意見・要望

男女平等参画社会の推進についての意見・要望 .....	53
-----------------------------	----

IV 調査票 .....	61
--------------	----

# I 調査の概要

## 1 調査の目的

男女平等参画に関する市民の意識や考え方の現状を調査し、「苫小牧市男女平等参画基本計画（第2次）が平成29年度で終了することから、後継計画策定の基礎資料とすることを目的に実施しました。

## 2 調査項目

- (1) 調査対象者の属性について
- (2) 男女平等に関する意識について
- (3) 女性の就労について
- (4) 育児休業制度について
- (5) 介護について
- (6) パートナーからの暴力等について
- (7) 性的少数者（セクシャルマイノリティ）について
- (8) 男女平等参画社会の推進について

## 3 調査方法

- (1) 調査対象 市内に居住する満20歳～70歳代の男女  
(平成28年1月31日現在)
- (2) 標本数 2,000人（男女各1,000人）
- (3) 抽出方法 層化無作為抽出法
- (4) 調査方法 郵送（往復）による調査  
督促なし
- (5) 調査時期 平成28年2月15日（月）～3月18日（金）

## 4 回収結果

回収数（率）	698件（回収率：34.9%）
男 性	308件（回収率：30.8%）
女 性	385件（回収率：38.5%）
性別無回答	5件（回収率：0.3%）

## 5 結果の表示方法

- (1) nとは、回答者数を表しています。
- (2) 比率は、各設問の「無回答」を含む、集計対象者数に対する百分率(%)で表示しています。
- (3) 比率は、小数点第二位を四捨五入し、小数点第一位まで表示しています。  
このため、比率の合計が100%にならない場合があります。
- (4) 複数回答が可能な設問では、比率の合計が100%を超える場合があります。
- (5) 【問6】の「学生」回答者については、少数のため「その他」と合算して表示しています。

## Ⅱ 調査結果

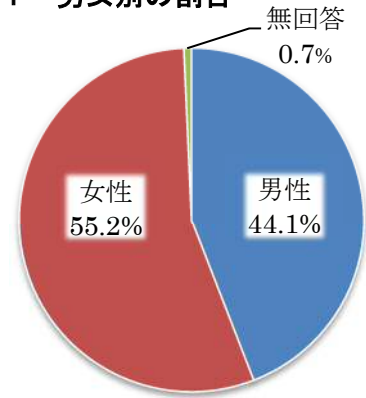
### (1) 調査対象者の属性について

[図1~10]

【問1】 あなたの性別はどちらですか。

	件数 (人)	割合 (%)
男性	308	44.1
女性	385	55.2
無回答	5	0.7
合計	698	100.0

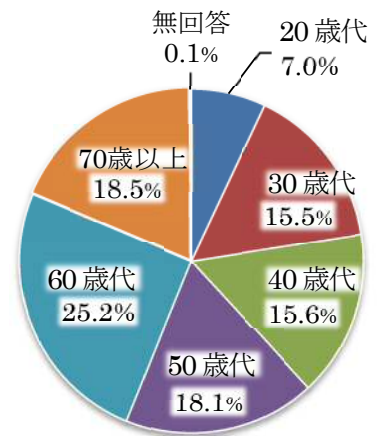
■ 図1 男女別の割合



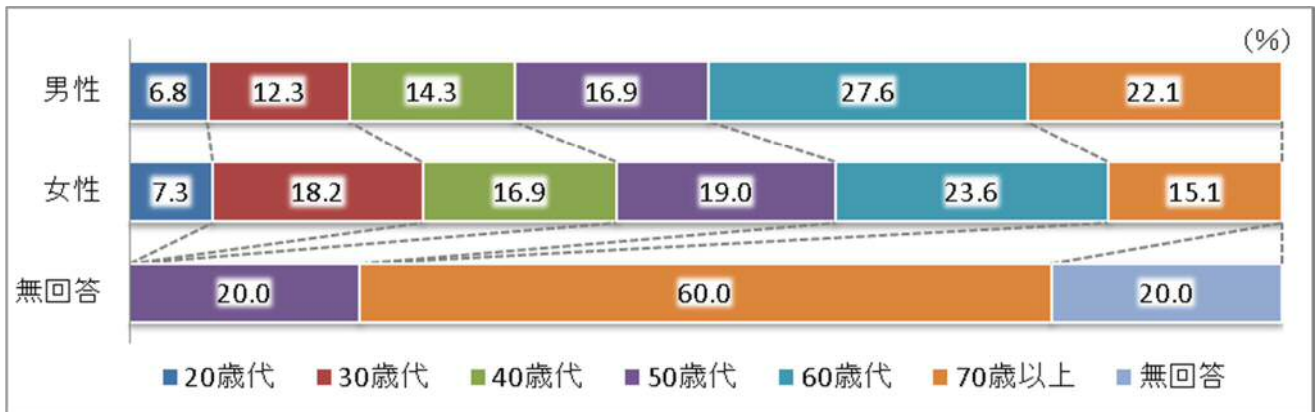
【問2】 あなたの年齢はどれにあたりますか。

	件数 (人)	割合 (%)
20歳代	49	7.0
30歳代	108	15.5
40歳代	109	15.6
50歳代	126	18.1
60歳代	176	25.2
70歳以上	129	18.5
無回答	1	0.1
合計	698	100.0

■ 図2 年齢別の割合



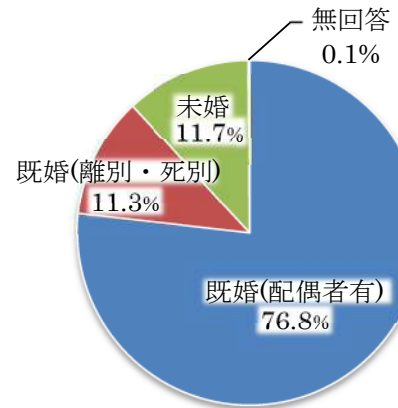
■ 図3 男女別×年齢別の割合



【問3】あなたは結婚（事実婚含む）をしていますか。

	件数（人）	割合（%）
既婚（配偶者有）	536	76.8
既婚（離別・死別）	79	11.3
未婚	82	11.7
無回答	1	0.1
合計	698	100.0

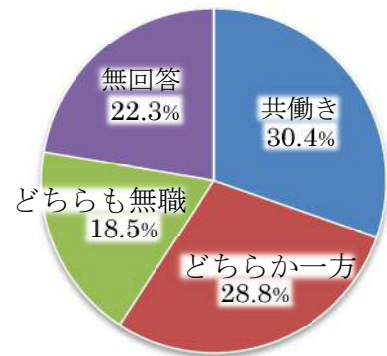
■図4 未既婚別の割合



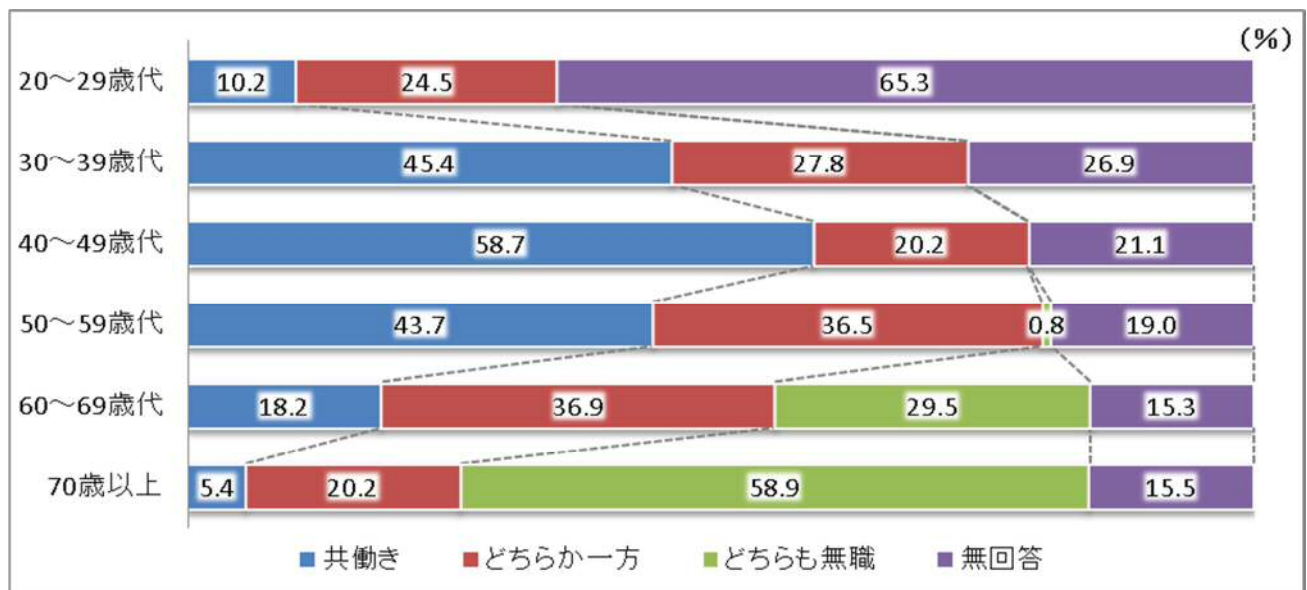
【問4】問3で「結婚している」を選択した方にうかがいます。  
夫婦（パートナー）はともに働いていますか。  
（非常勤・パート・アルバイトなどを含む）

	件数（人）	割合（%）
共働き	212	30.4
どちらか一方	201	28.8
どちらも無職	129	18.5
無回答	156	22.3
合計	698	100.0

■図5 夫婦の就業状態別の割合



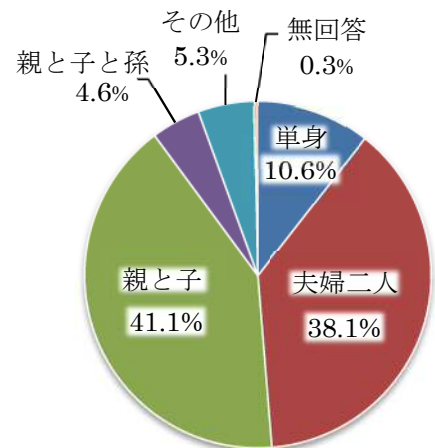
■図6 年齢別×夫婦の就業状態別の割合



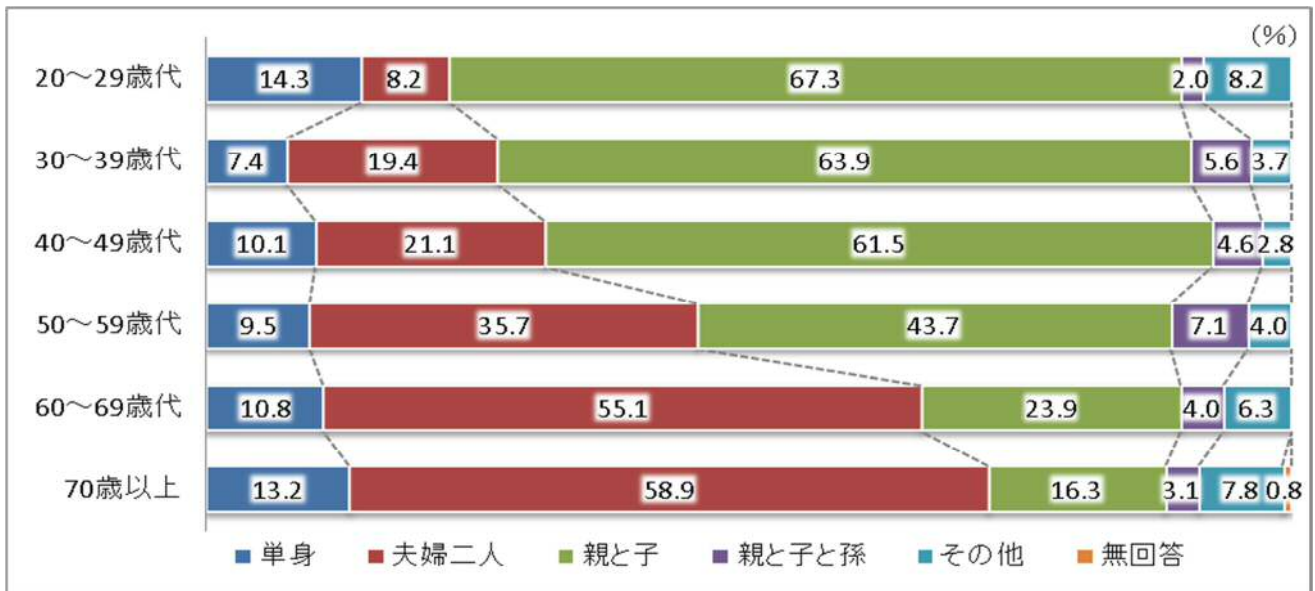
【問5】 あなたの世帯構成はどれにあたりますか。

	件数 (人)	割合 (%)
単身	74	10.6
夫婦二人	266	38.1
親と子	287	41.1
親と子と孫	32	4.6
その他	37	5.3
無回答	2	0.3
合計	698	100.0

■図7 世帯構成別の割合



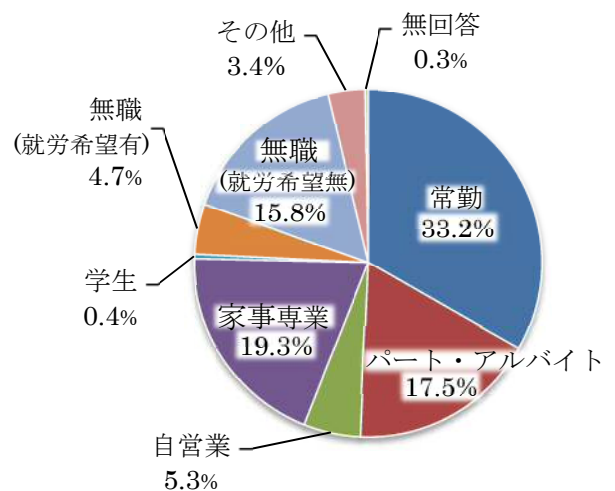
■図8 年齢別×世帯構成別の割合



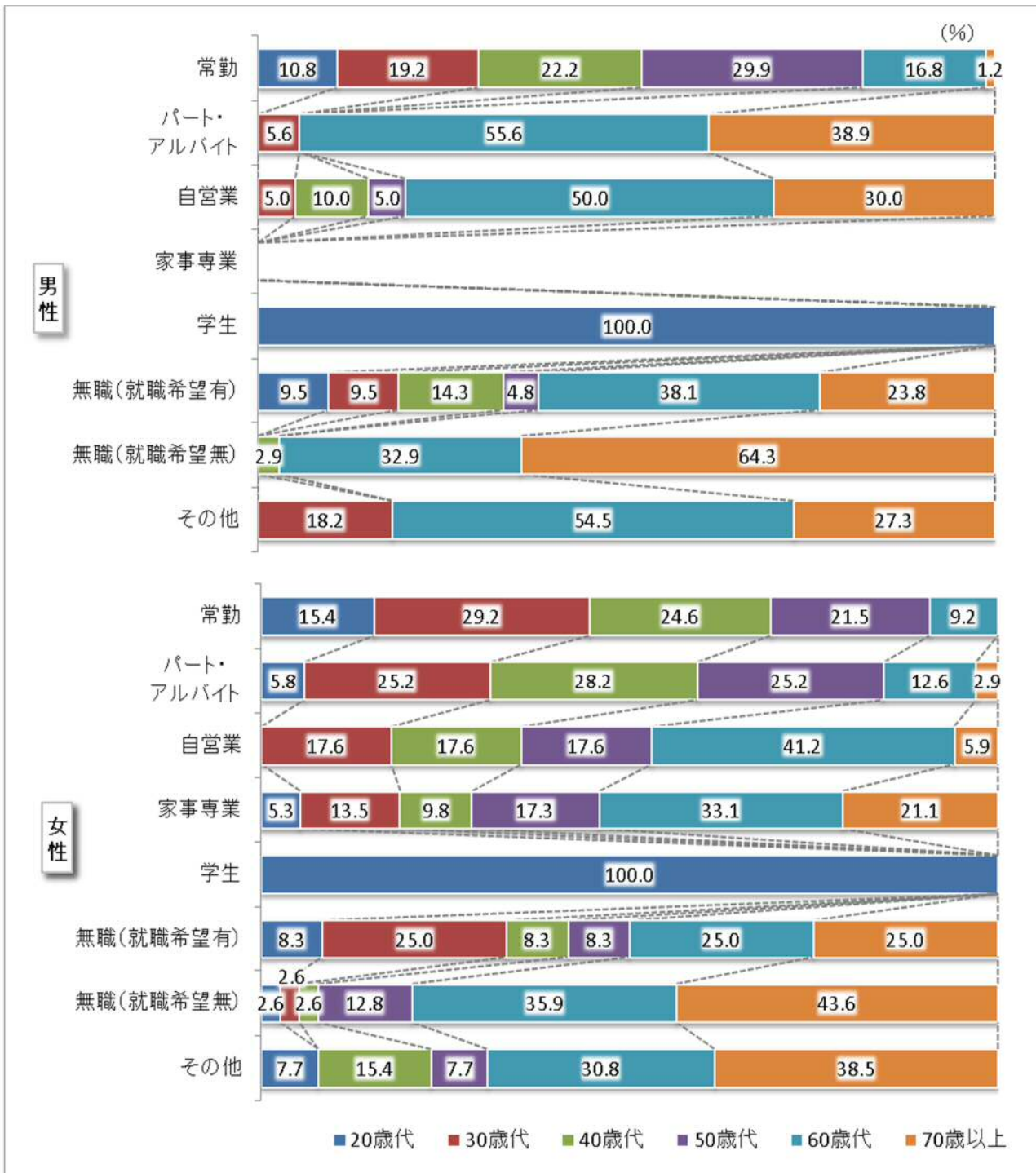
【問6】 あなたの職業・立場はどれにあたりますか。

	件数 (人)	割合 (%)
常勤	232	33.2
パート・アルバイト	122	17.5
自営業	37	5.3
家事専業	135	19.3
学生	3	0.4
無職(就労希望有)	33	4.7
無職(就労希望無)	110	15.8
その他	24	3.4
無回答	2	0.3
合計	698	100.0

■図9 職業別の割合



■ 図10 男女別×年齢別×職業別の割合



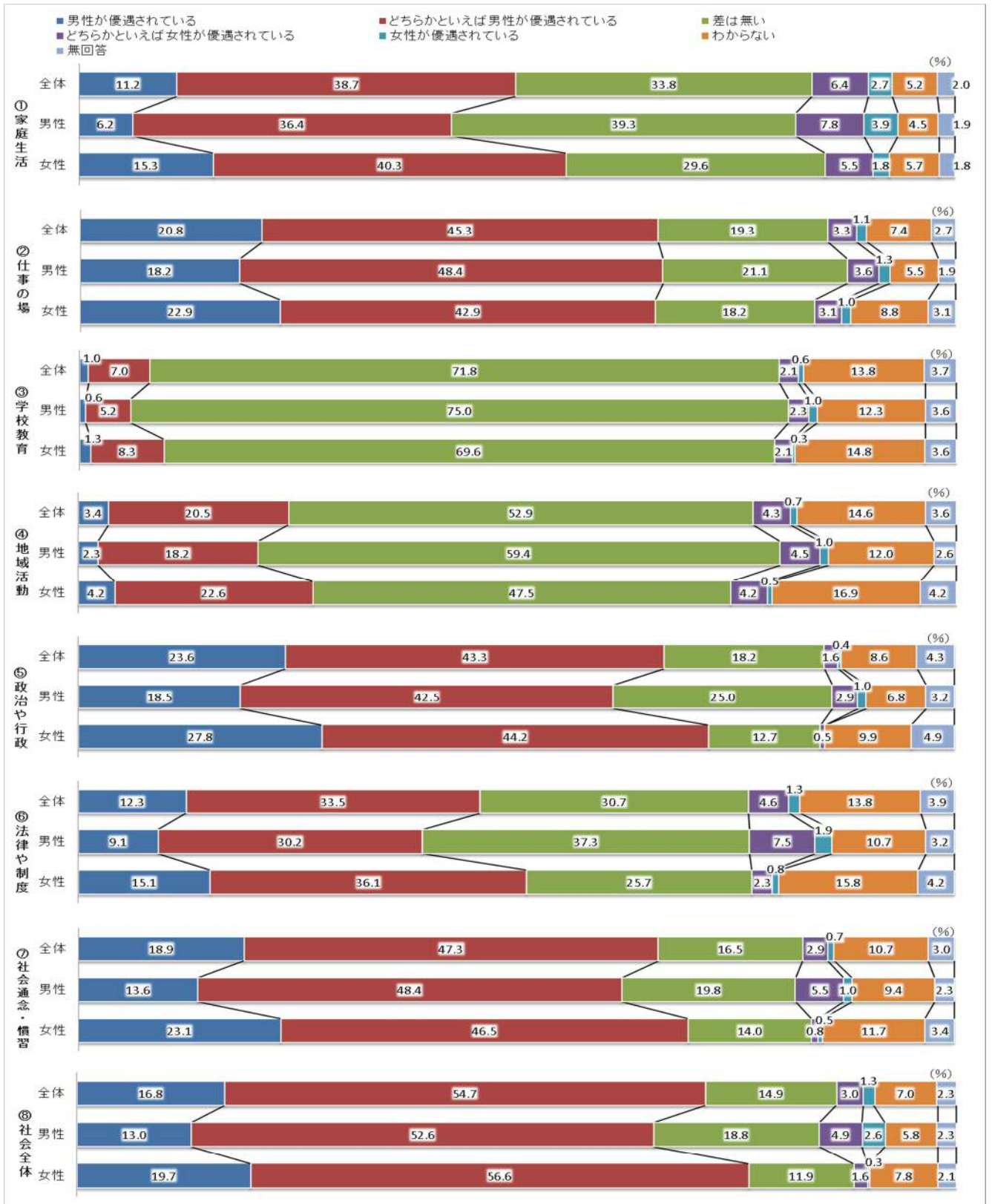
## (2) 男女平等に関する意識について

【問7】あなたは、現在、次にあげるような場面で、男女の地位などは平等になっていると思いますか。

①～⑧のそれぞれの項目について、あてはまる番号に○をつけてください。

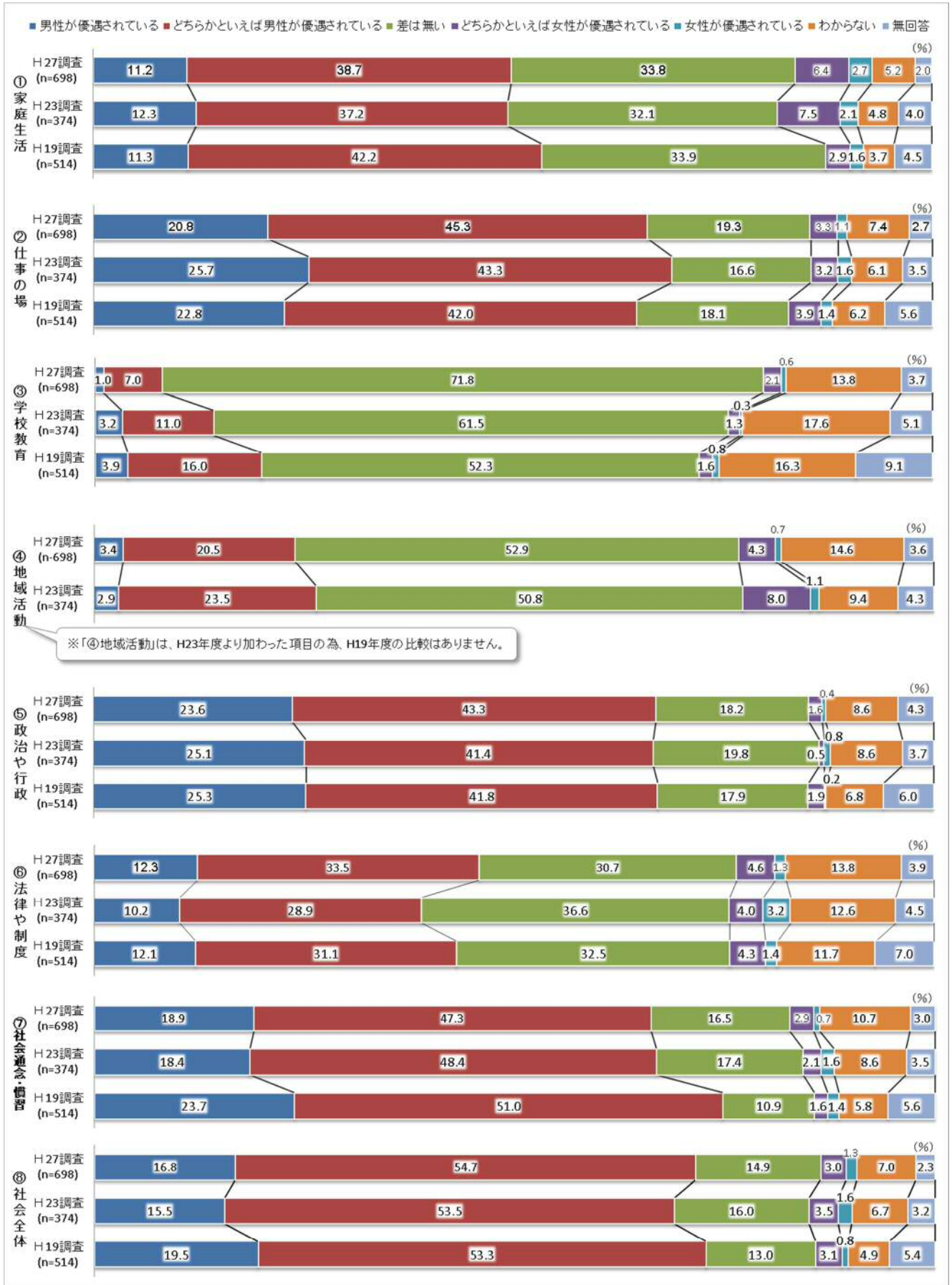
【図11・12】

■図11 男女別の構成比





■ 図 12 年度別の調査結果比較



### ■図 11 男女別の構成比

各項目別の全体回答では、「男性が優遇されている」及び「どちらかといえば男性が優遇されている」（以下、「男性優遇」と表記）の比率が最も多かった項目は、①家庭生活（49.9%）、②仕事の場合（66.1%）、⑤政治や行政（66.9%）、⑥法律や制度（45.8%）、⑦社会通念・慣習（66.2%）、⑧社会全体（71.5%）となっています。

「差はない」の比率が最も多かった項目は、③学校教育（71.8%）と④地域活動（52.9%）となっています。

「女性が優遇されている」及び「どちらかといえば、女性が優遇されている」（以下、「女性優遇」と表記）は、全項目で10%未満という結果となりました。

また、男女間で最も差がみられた項目は①家庭生活上で男女共に「男性優遇」となっており、女性回答が男性回答より13.0%上回りました。

次いで、⑥法律や制度が男女間の差があり、こちらも男女共に「男性優遇」が多くなっており、女性回答が男性回答より11.9%上回っています。

どちらの項目においても、女性の方が「男性優遇」と感じているようです。

### ■図 12 年度別の調査結果比較

③学校教育と④地域活動については、「差はない」の比率が最も多く、年々増加傾向となっています。その他の設問においては、「男性優遇」が最も多くなっています。

①家庭生活と⑦社会通念・慣習においては、まだまだ「男性優遇」の比率は多くなっていますが、徐々に「女性優遇」が増えつつあります。

②仕事の場合は、平成23年度調査で「男性優遇」が平成19年度調査から増加していましたが、平成27年度調査では「差はない」が増加して平成19年度調査と同程度まで戻っています。

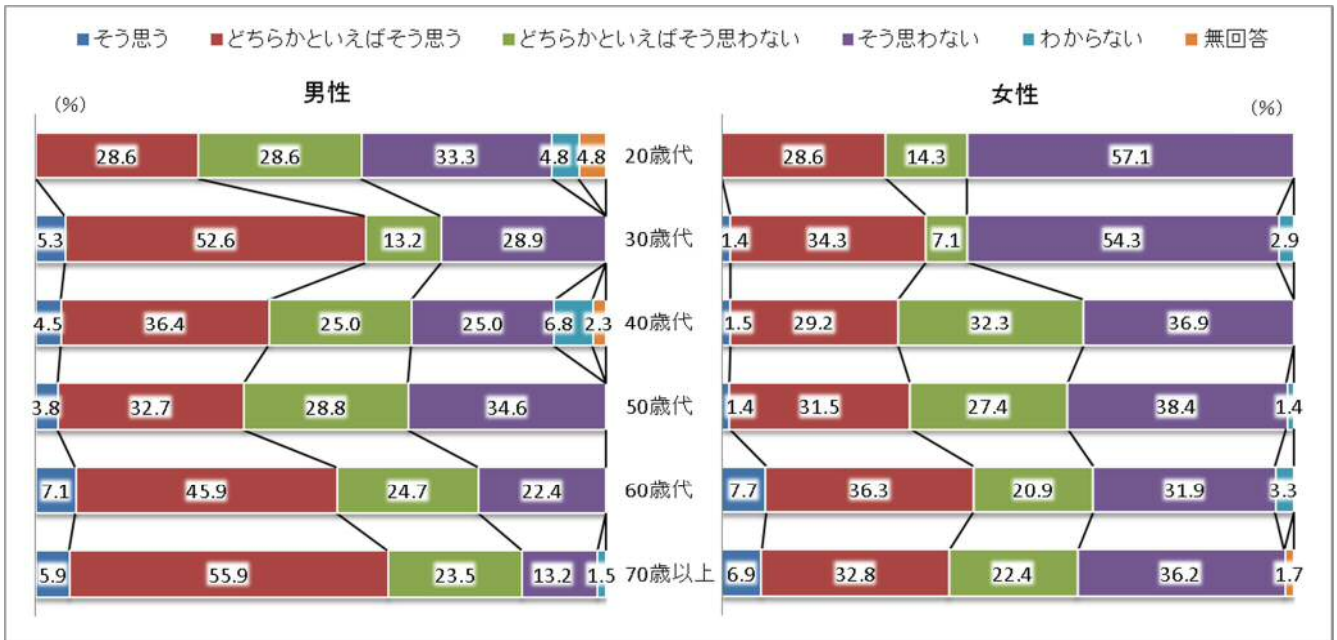
⑤政治や行政については、ほぼ横ばいの数値となっており、変化はあまりみられないようです。

⑥法律や制度と⑧社会全体では、平成23年度にて「男性優遇」が減少し、「差はない」が増加するも、平成27年度調査で「男性優遇」が増加して平成19年度調査と同程度まで戻っています。

【問8】「男性は仕事、女性は家庭」という考えについて、あなたはどのように思いますか。

[図13・14・15]

■図13 男女別×年齢別の構成比

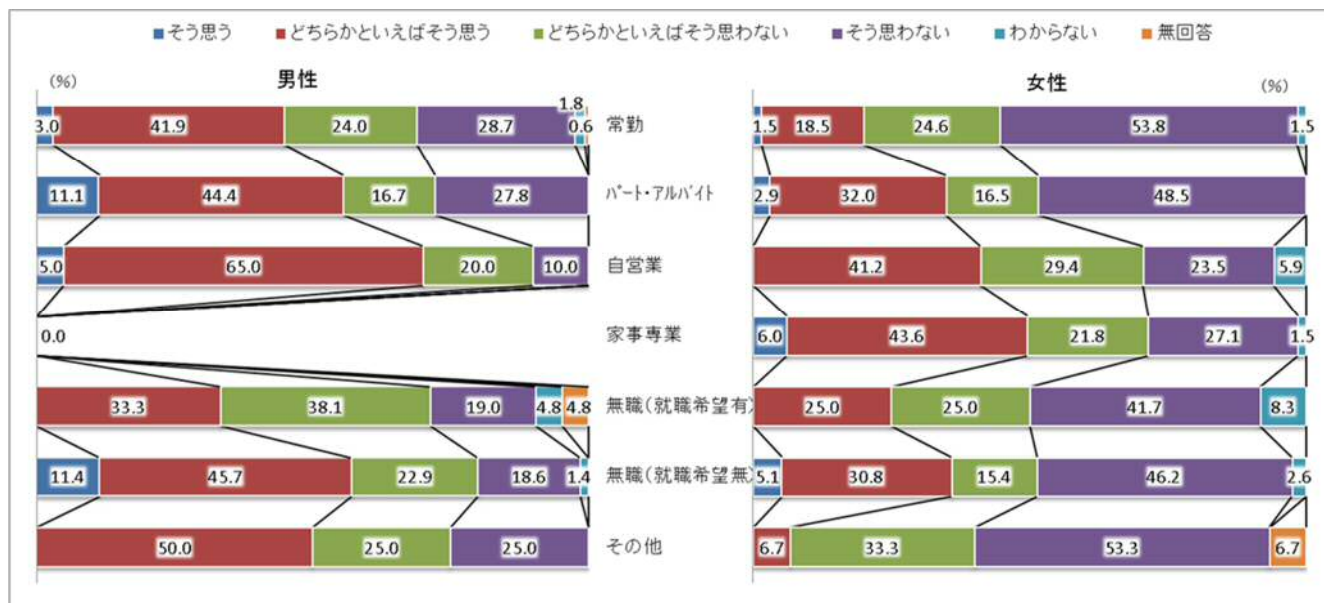


■図13 男女別×年齢別の構成比

男性回答で「そう思う」及び「どちらかといえば、そう思う」（以下、「思う」と表記）が半数以上を占めている年代は、30歳代（57.9%）、60歳代（53.0%）、70歳以上（61.8%）となっており、「そう思わない」及び「どちらかといえば、そう思わない」（以下、「思わない」と表記）が半数以上を占めている年代は、20歳代（61.9%）、40歳代（50.0%）、50歳代（63.4%）となっています。

女性は、全ての年代で「思わない」の比率が半数を超えており、20歳代（71.4%）、30歳代（61.4%）、40歳代（69.2%）、50歳代（65.8%）、60歳代（52.8%）、70歳以上（58.6%）という結果となりました。

■図 14 男女別×職業別の構成比

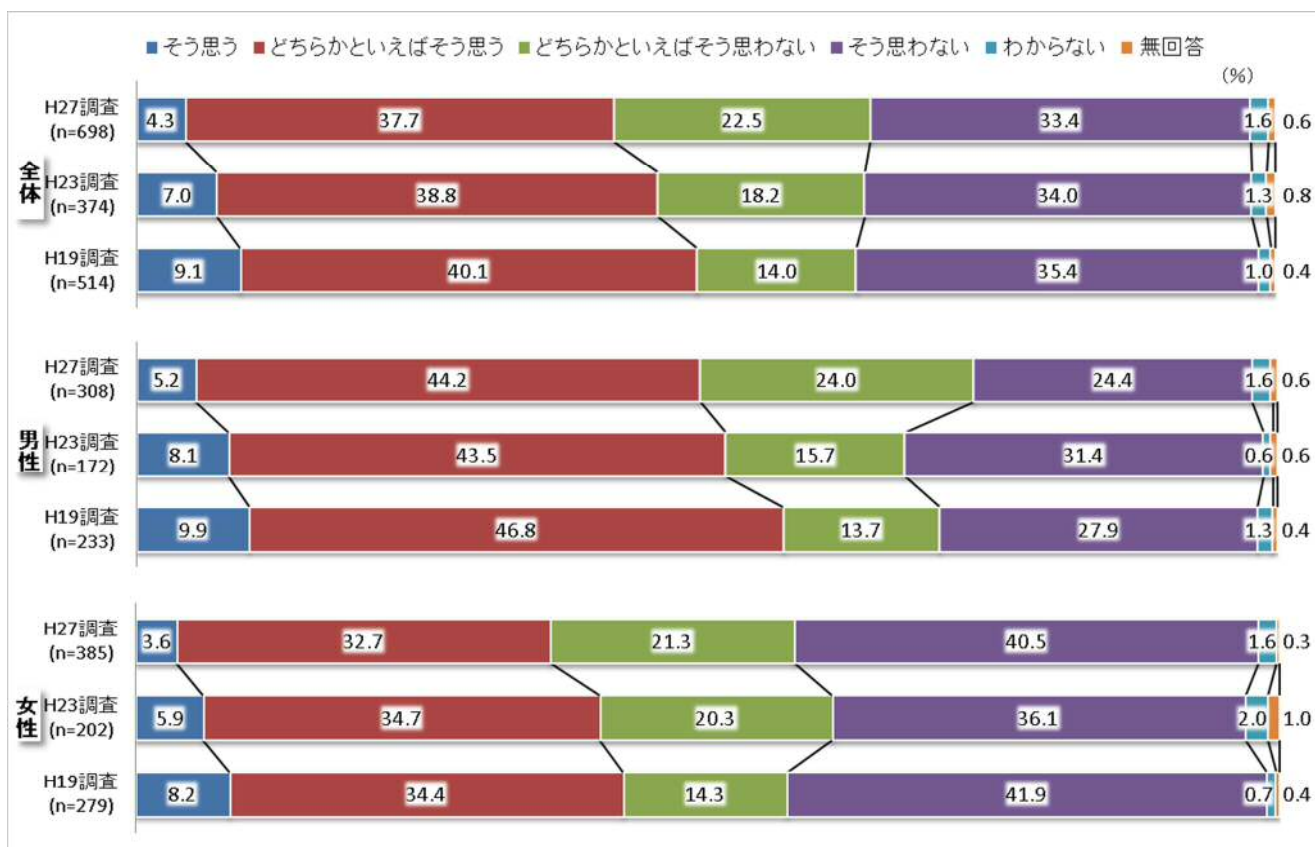


■図 14 男女別×職業別の構成比

男性回答で「思う」が半数以上を占めている職業は、パート・アルバイト (55.5%)、自営業 (70.0%)、無職(就職希望無) (57.1%) となっており、「思わない」と半数以上が回答した職種が、常勤 (52.7%)、無職(就職希望有) (57.1%) となりました。また、その他の職業については「思う」と「思わない」が同率 (50.0%) となりました。

女性回答では、唯一「思う」の比率が多かった職業は家事専業 (49.6%) となっており、「思わない」が半数以上の比率を占めたのが、常勤 (78.4%)、パート・アルバイト (65.0%)、自営業 (52.9%)、無職(就職希望有) (66.7%)、無職(就職希望無) (61.6%)、その他 (86.6%) となっています。

■図 15 年度別の調査結果比較



■図 15 年度別の調査結果比較

全体では、「思う」の回答比率が、平成 19 年度から平成 23 年度で 3.4%減少し、平成 27 年度には更に 3.8%減少しています。また、「思わない」の回答比率は、平成 19 年度から平成 23 年度で 2.8%増加し、平成 27 年度には更に 3.7%増加となっています。

男性では、「思う」の回答比率が、平成 19 年度から平成 23 年度で 5.1%減少し、平成 27 年度には更に 2.2%減少しています。また、「思わない」の回答比率は、平成 19 年度から平成 23 年度で 5.5%増加し、平成 27 年度には更に 1.3%増加となりました。

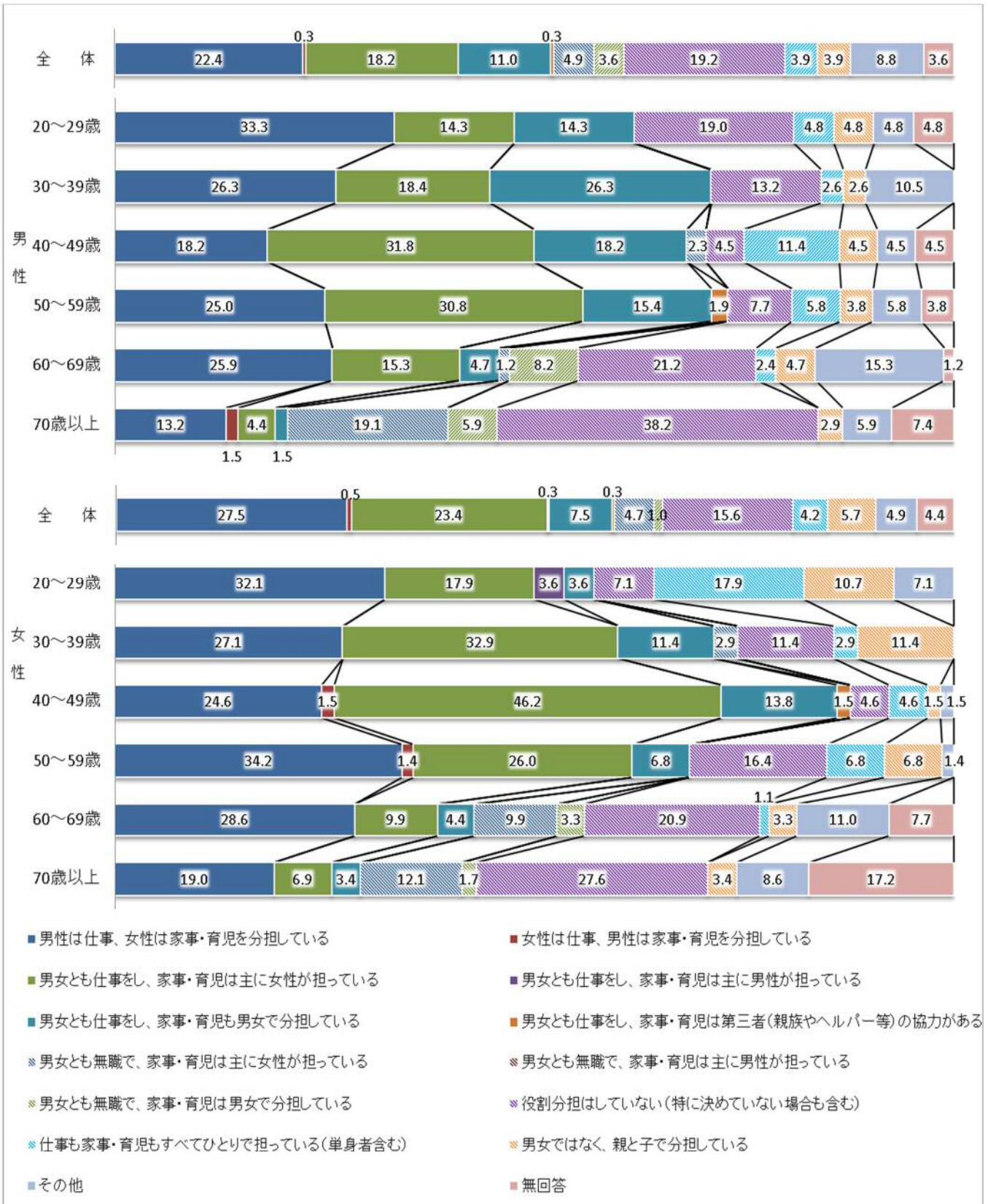
女性では、「思う」の回答比率が、平成 19 年度から平成 23 年度で 2.0%減少し、平成 27 年度には更に 4.3%減少しています。また、「思わない」の回答比率は、平成 19 年度から平成 23 年度で 0.2%増加し、平成 27 年度には更に 5.4%増加となりました。

全体・男性・女性全てにおいて、「思う」の回答比率が減少し、逆に「思わない」の回答比率が増加している傾向となっています。

【問9】 家庭での役割分担について、あなたの家庭ではどのようになっていますか。

【図 16】

■ 図 16 男女別×年齢別の構成比



## ■図 16 男女別×年齢別の構成比

全体の回答では、男女ともに「男性は仕事、女性は家事・育児を分担している」の項目が最も多い比率となっており、次いで「男女とも仕事をし、家事・育児は主に女性が担っている」の項目となっています。

「男性は仕事、女性は家事・育児を分担している」と回答した年代は、男性の20歳代(33.3%)、30歳代(26.3%)（※男性30歳代は「男女とも仕事をし、家事・育児も男女で分担している」と2項目同率となっています。）、60歳代(25.9%)、女性の20歳代(32.1%)、50歳代(34.2%)、60歳代(28.6%)となっています。

次いで多い「男女とも仕事をし、家事・育児は主に女性が担っている」と回答した年代は、男性の40歳代31.8%、50歳代30.8%、女性の30歳代32.9%、40歳代46.2%となっています。

また、70歳以上は男女とも「役割分担はしていない(特に決めていない場合も含む)」が最も多いという結果となりました。

(※各年齢別の回答比率昇順第1位～2位までを参照しています。)

## その他の主な意見

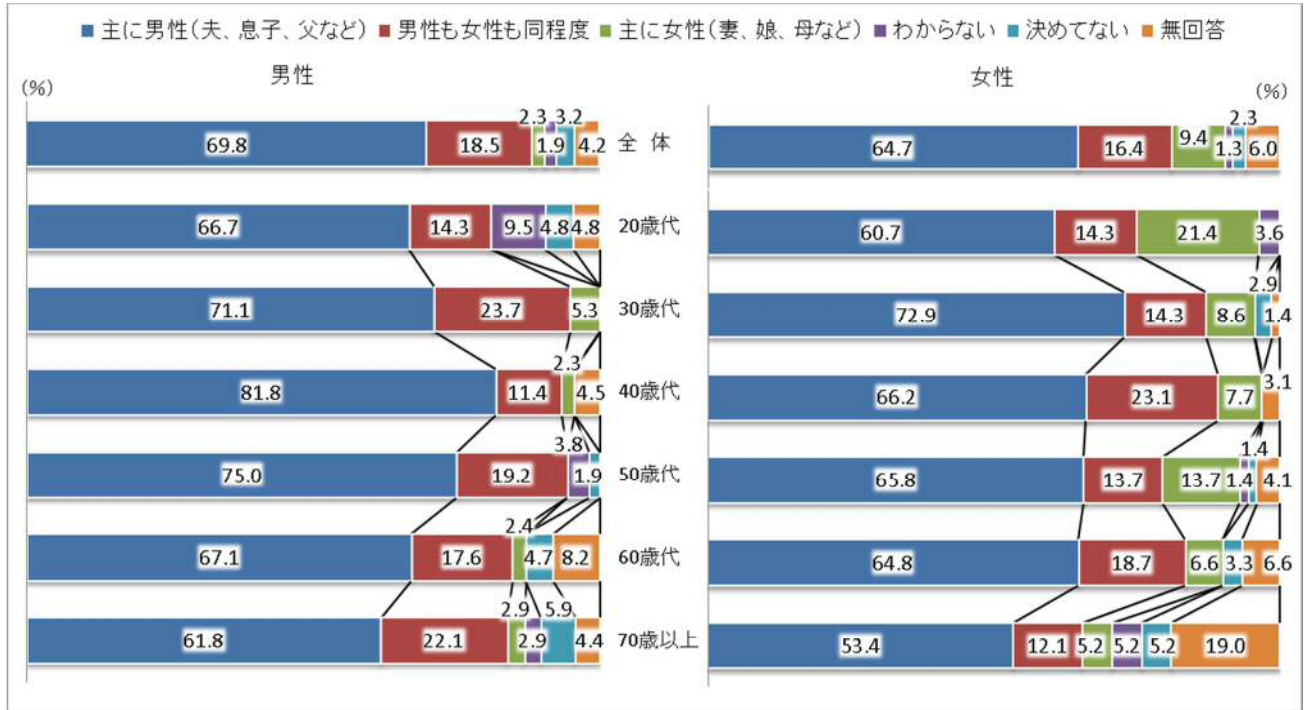
- ◆家事は自分でやっている。(男性・60歳代)
- ◆女性は仕事・家事、男性は一部分。(女性・60歳代)
- ◆私は「男性は仕事、女性は家事」の考えです。今は子供達も就職し、手を離れました。(女性・60歳代)
- ◆妻が障がい者のため、男性が担っている。(男性・60歳代)
- ◆子供は成人独立者。現在、一人住まい。(女性・60歳代)
- ◆男性は仕事。育児は二人で。家事は女性。(女性・20歳代)
- ◆両親と自分で分担。(男性・40歳代)
- ◆家事は分担している。種別で。(男性・70歳代)
- ◆孫の世話。(女性・60歳代)
- ◆男性は仕事。家事・育児は分担している。(男性・20歳代)
- ◆介護保険使用しています。(男性・70歳代)
- ◆男女とも無職(年金)で、介護(親)も家事も女性。(女性・60歳代)
- ◆父は仕事、母は働きながら家事、息子も仕事しながら家事を分担。(男性・30歳代)
- ◆三十年前は専業主婦が主であった。(女性・60歳代)
- ◆親と一緒に、ひとりで担っている。(女性・60歳代)
- ◆健康状態により、出来ることを分担している。(女性・70歳代)
- ◆今は一人で生活していますが、若い時は③「男女ともに仕事をし、家事・育児は主に女性が担っている」でした。(女性・70歳代)
- ◆男性は仕事をし、土日は家事も手伝う。(男性・50歳代)
- ◆男女とも無職で、子供もいないので女性が家事。(女性・70歳代)
- ◆父の体が悪いので、主に母が担当。(男性・30歳代)
- ◆家事は主に女性。(男性・60歳代)
- ◆出来る事は分担している。(男性・70歳代)
- ◆夫は仕事をし、今は家事も手伝っています。(女性・60歳代)
- ◆男性は仕事をし、家事は分担。(男性・60歳代)
- ◆母と私、二人とも仕事。家事はお互い協力している。(女性・20歳代)

【問10】 次の①～⑩の役割について、あなたのご家庭では主に誰が担っていますか。

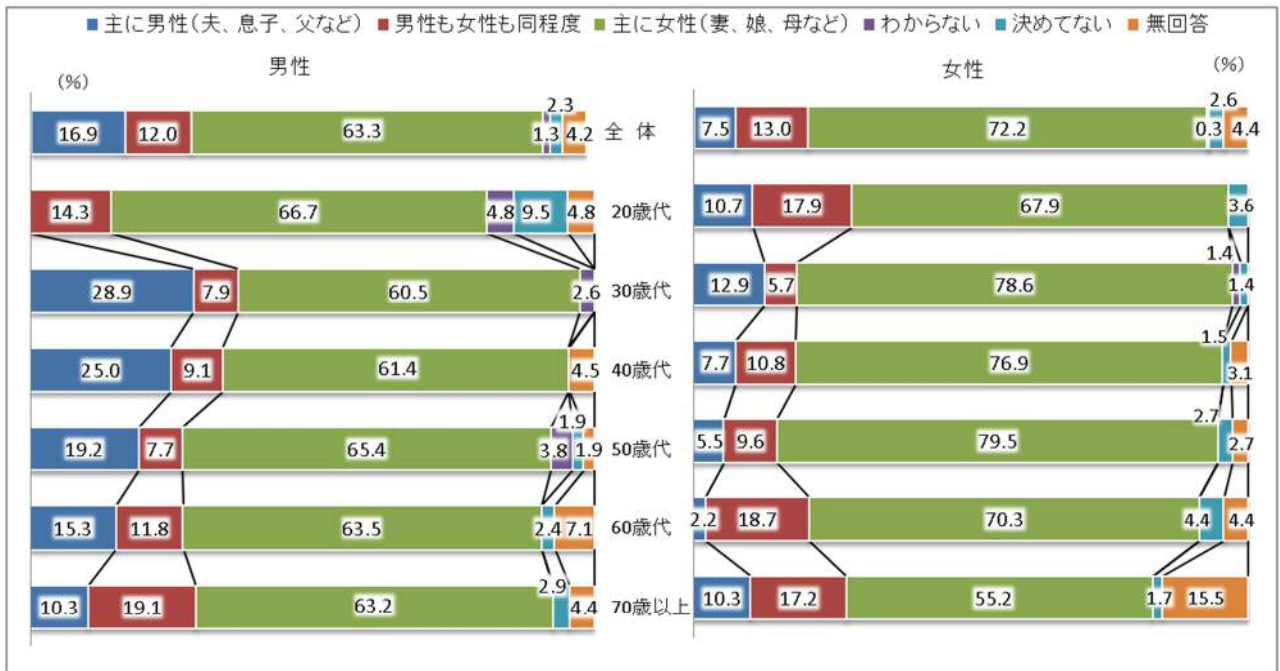
【図17】

■図17-1 男女別×年齢別の構成比

①生活費を得る



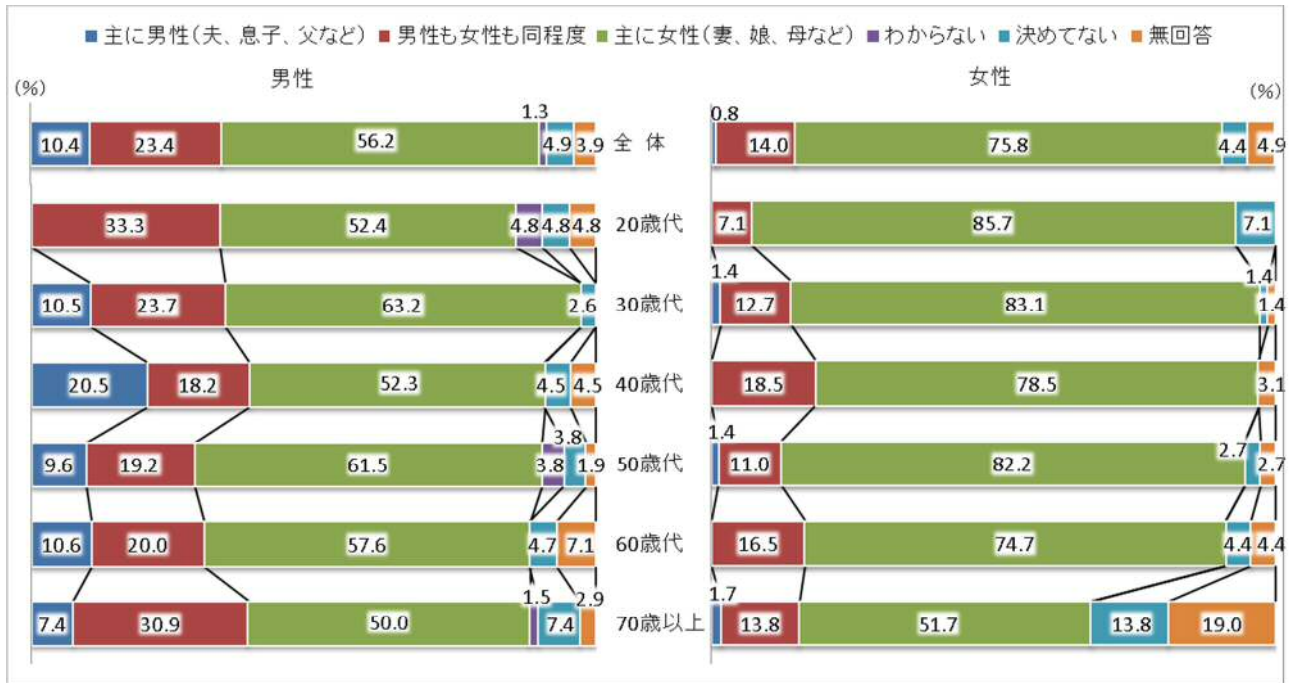
②生活費の管理



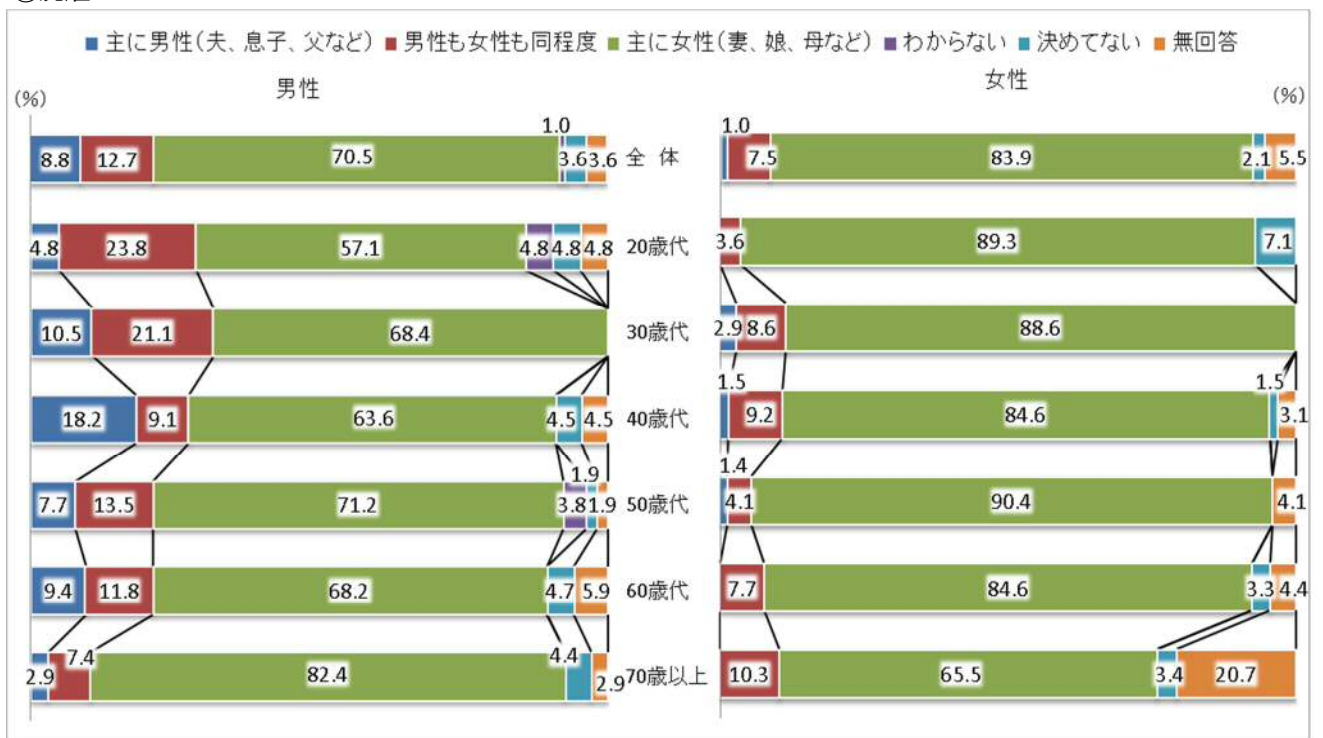


■図 17-2 男女別×年齢別の構成比

③そうじ

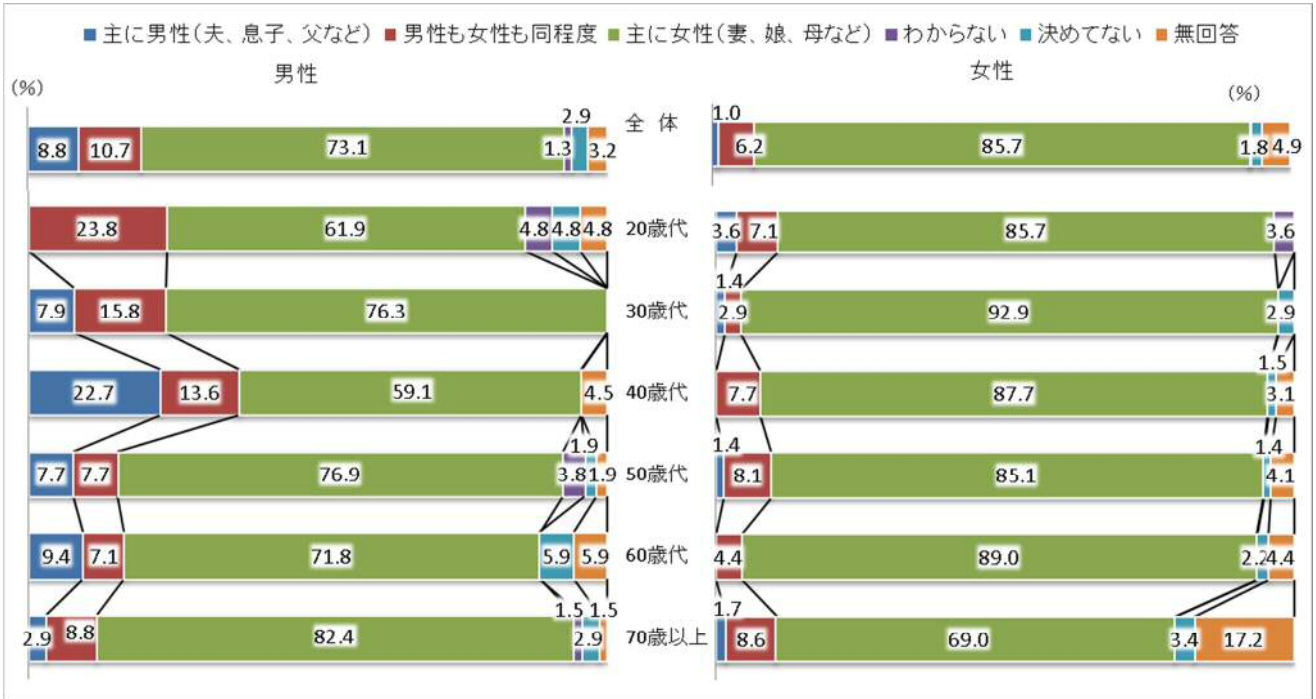


④洗濯

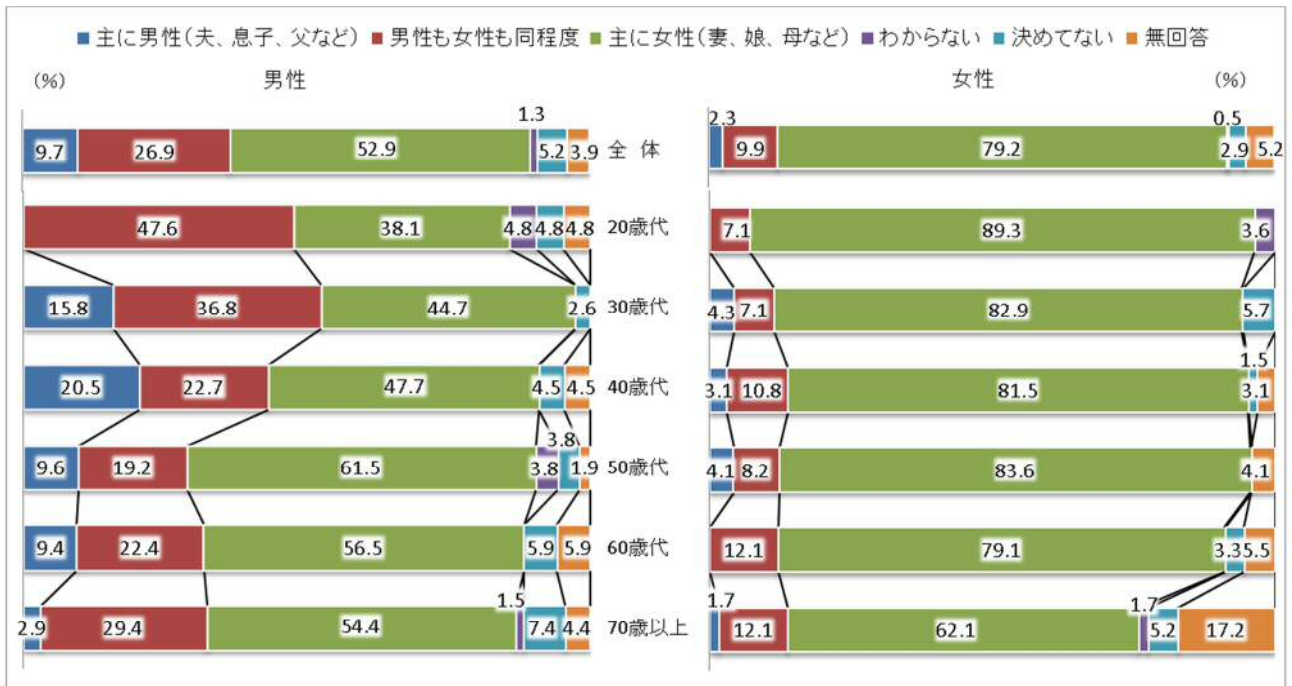


■図 17-3 男女別×年齢別の構成比

⑤食事の支度

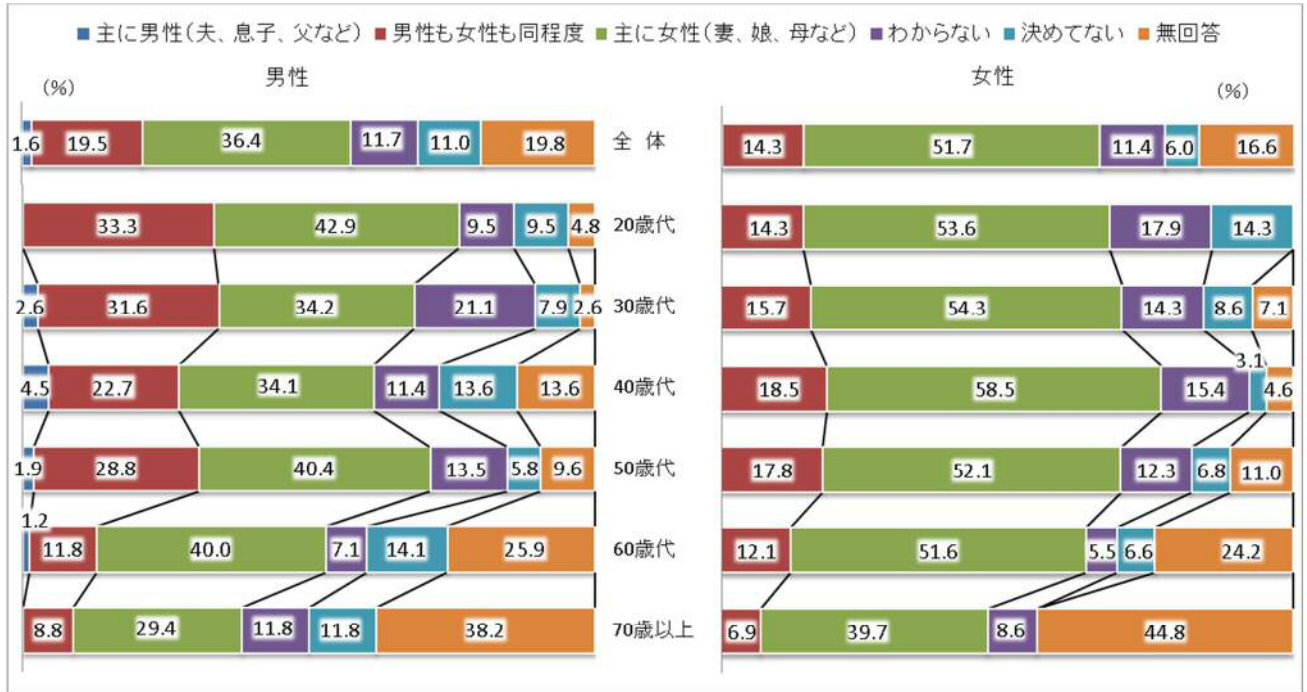


⑥食事の後片付け

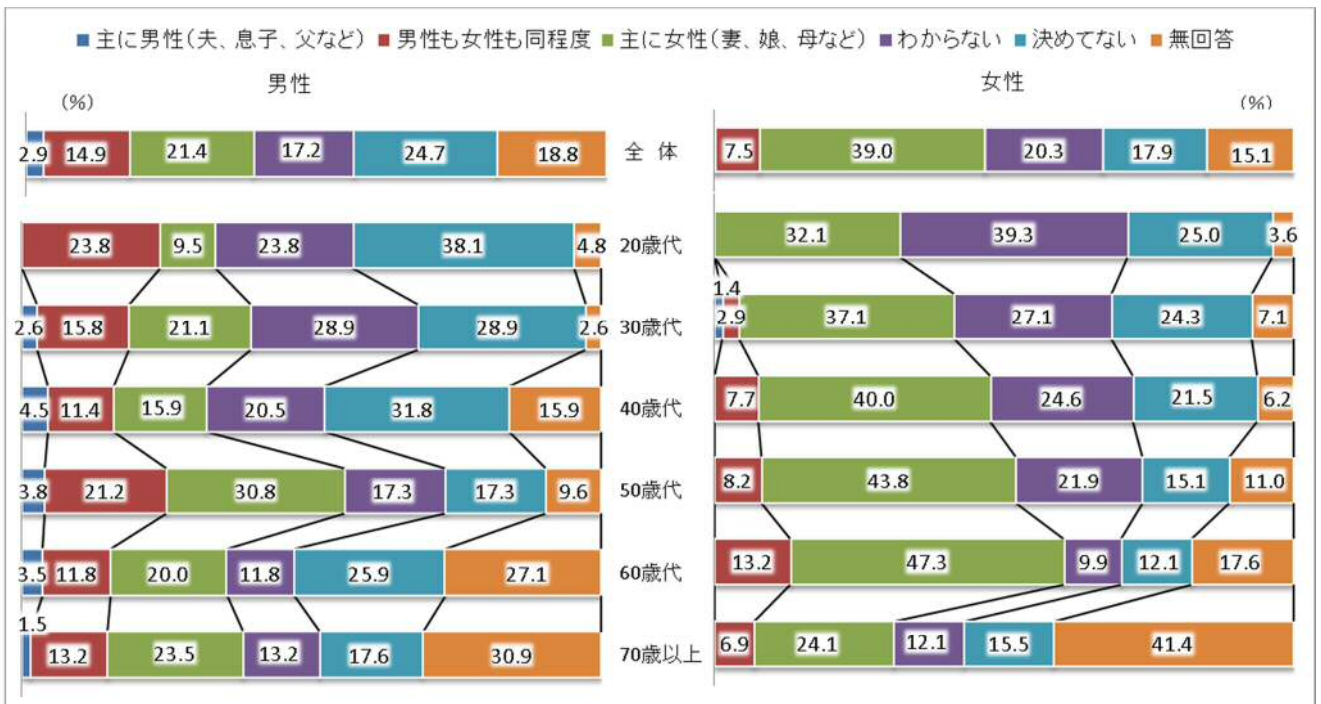


■図 17-4 男女別×年齢別の構成比

⑦子育て

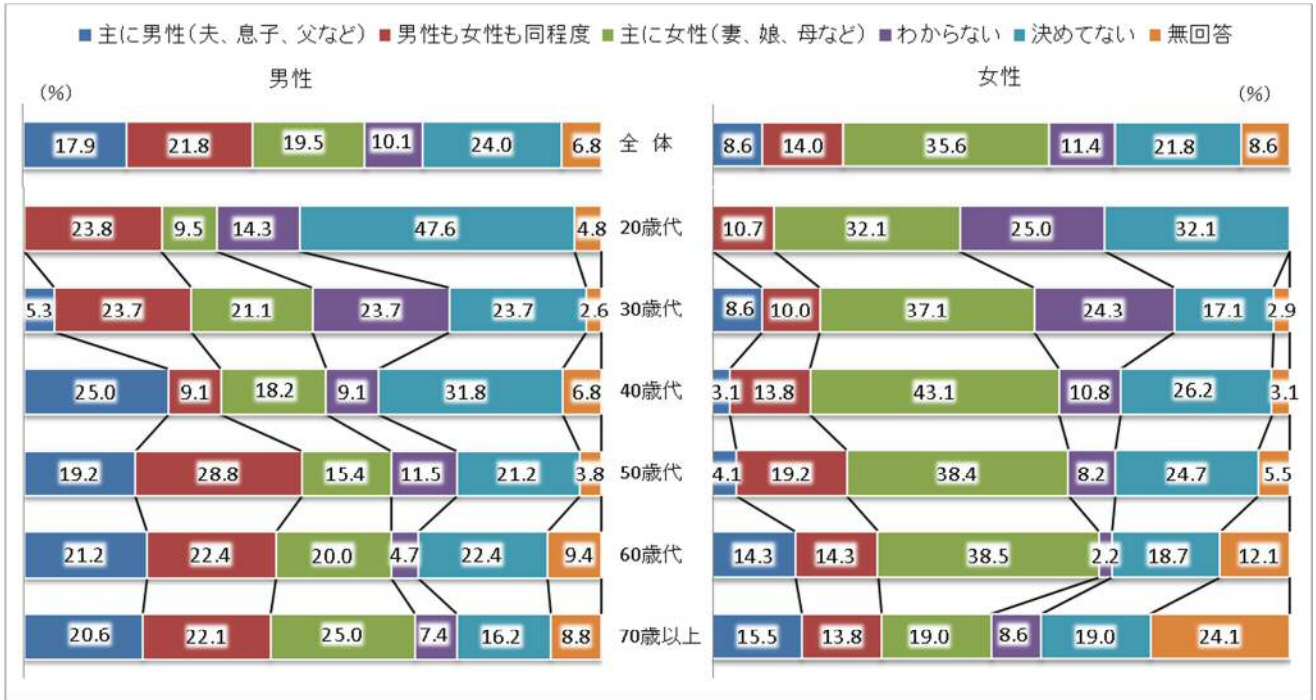


⑧介護・看護

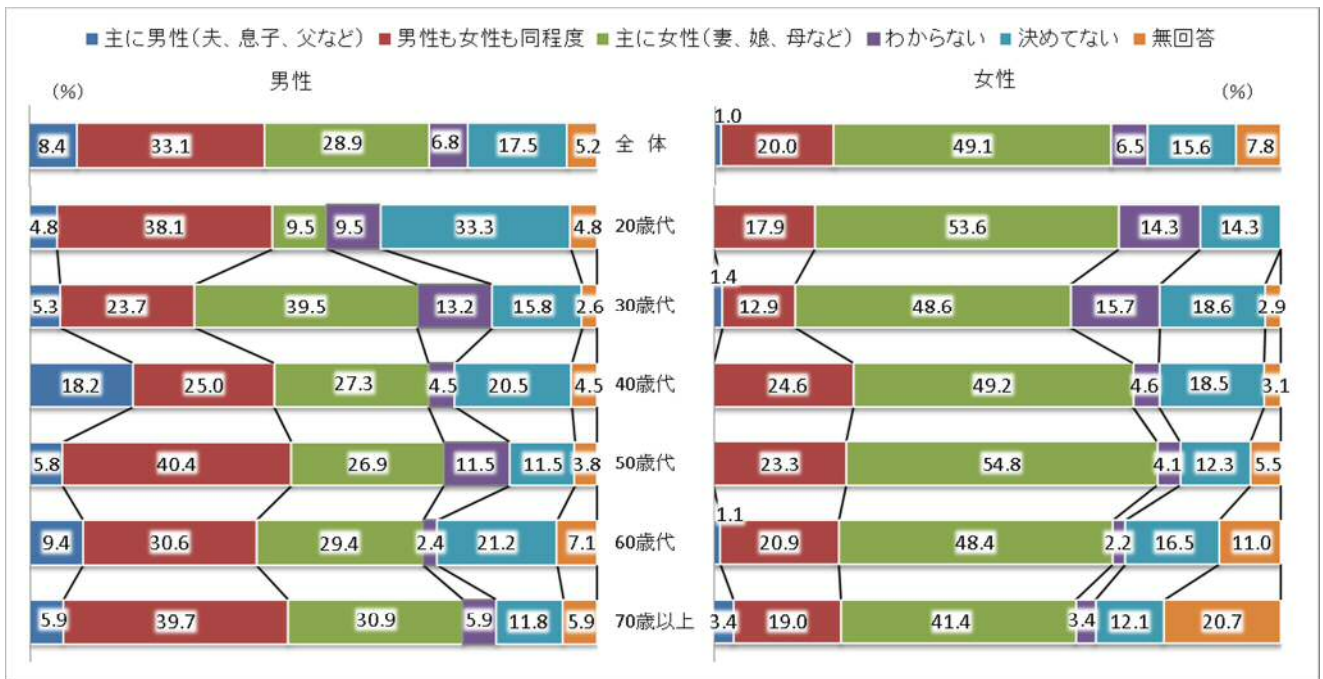


■図 17-5 男女別×年齢別の構成比

⑨地域活動



⑩近所付き合い



### ■図 17 男女別×年齢別の構成比

全体回答では、①生活費を得るという項目に関しては男女ともに「主に男性（夫、息子、父など）」（以下、「男性」と表記）が最も比率が多くなっています。それ以外の項目については、女性回答は全て「主に女性（妻、娘、母など）」（以下、「女性」と表記）が最も多く、男性回答では②生活費の管理、③そうじ、④洗濯、⑤食事の支度、⑥食事の後片付け、⑦子育ての6項目において「女性」となり、⑧介護・看護、⑨地域活動においては「決めていない」、⑩近所付き合いは「男性も女性も同程度」（以下、「同程度」と表記）という結果になりました。

年齢別では、男女とも全年代が同じ項目で「男性」と回答している項目は全体回答同様①生活費を得るとなっており、同じく男女の全年代が「女性」と回答した項目は②生活費の管理、③そうじ、④洗濯、⑤食事の支度となっています。

他の項目については、⑥食事の後片付けが男性20歳代だけ「同程度」となっており、その他の男女の全年代は「女性」と回答しています。

⑦子育てについては、男女ともに70歳代以外の全年代で「女性」と回答しています。

⑧介護・看護については、男性50歳代と女性30・40・50・60歳代が「女性」となっており、男性20・30・40歳代が「決めていない」（※男性30歳代は「わからない」と同率）と回答しています。

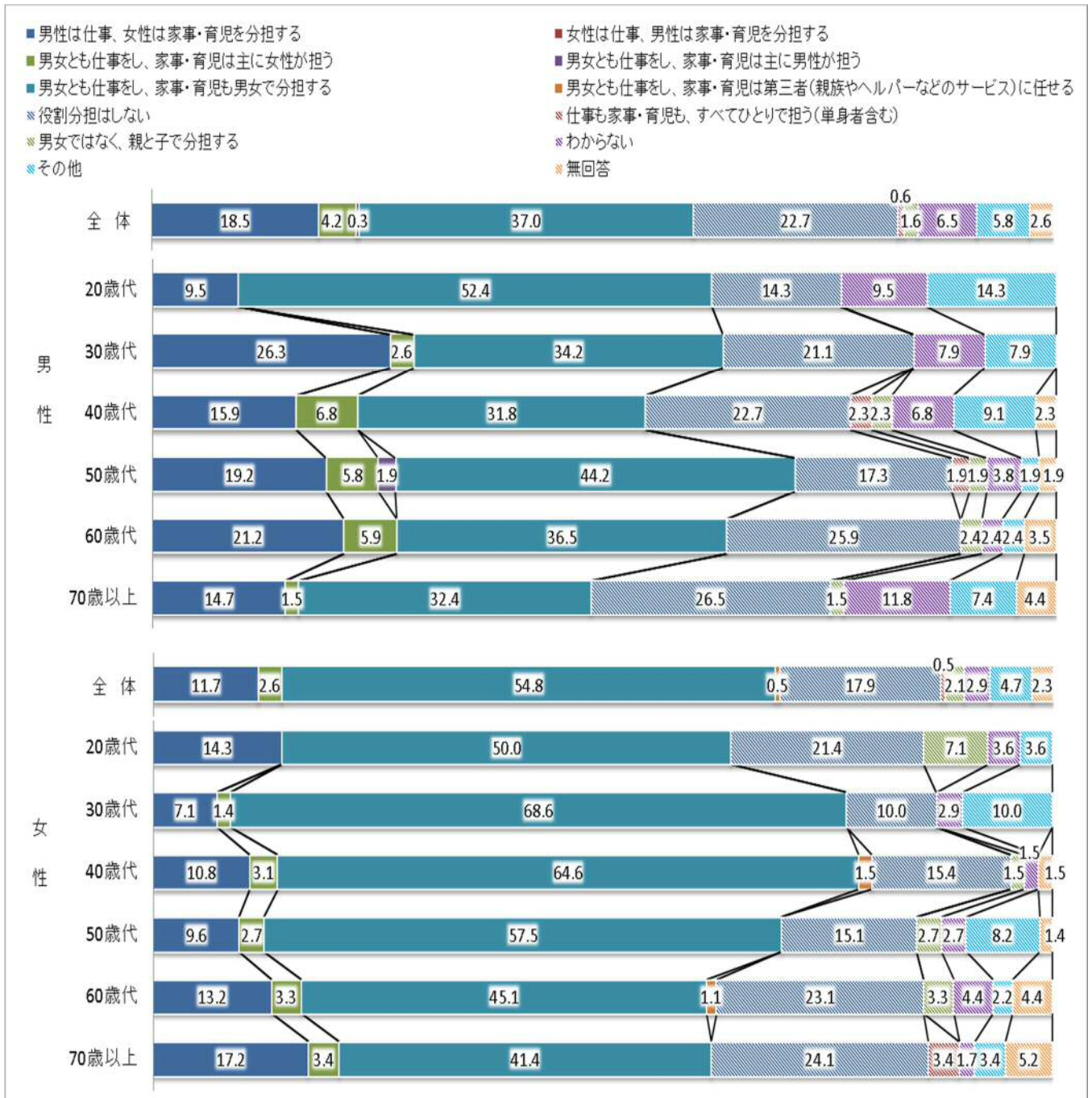
⑨地域活動については、男性20・30・40・60歳代が「決めていない」（※男性30歳代は「わからない」「同程度」と同率、60歳代は「同程度」と同率）となっており、女性20・30・40・50・60歳代は「女性」（※女性20歳代は「決めていない」と同率）と回答しています。

⑩近所付き合いは、男性20・50・60・70歳代が「同程度」、30・40歳代が「女性」となっており、女性は全年代で「女性」という回答となっています。

【問11】 家庭での役割分担について、あなたはどうかあるべきだと思いますか。

【図18・19】

■図18 男女別×年齢別の構成比

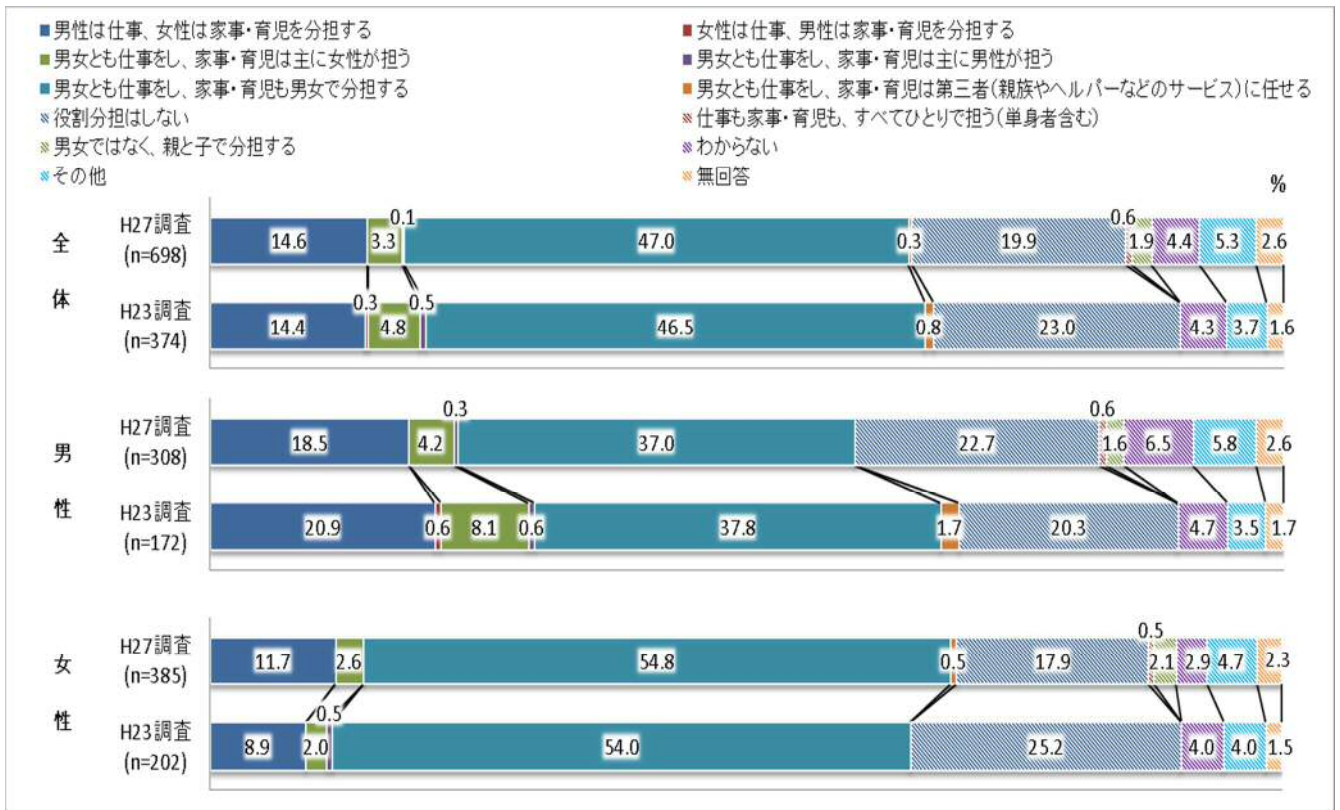


■図18 男女別×年齢別の構成比

男女ともに全ての年代で、「男女とも仕事をし、家事・育児も男女で分担する」が最も比率が多くなっており、次いで「役割分担はしない」という結果となっています。

全体回答も同じ項目が最も多い結果となっていますが、男性より女性の方が17.8%上回っています。

■図19 年度別の調査結果比較



■図19 年度別の調査結果比較

平成23年度・平成27年度の調査両方で「男女とも仕事をし、家事・育児も男女で分担する」が最も多く、全体の回答は平成23年度から平成27年度で0.5%増加しています。  
 また、男性回答では0.8%減少となっていますが、女性回答は0.8%増加という結果となりました。

## その他の主な意見

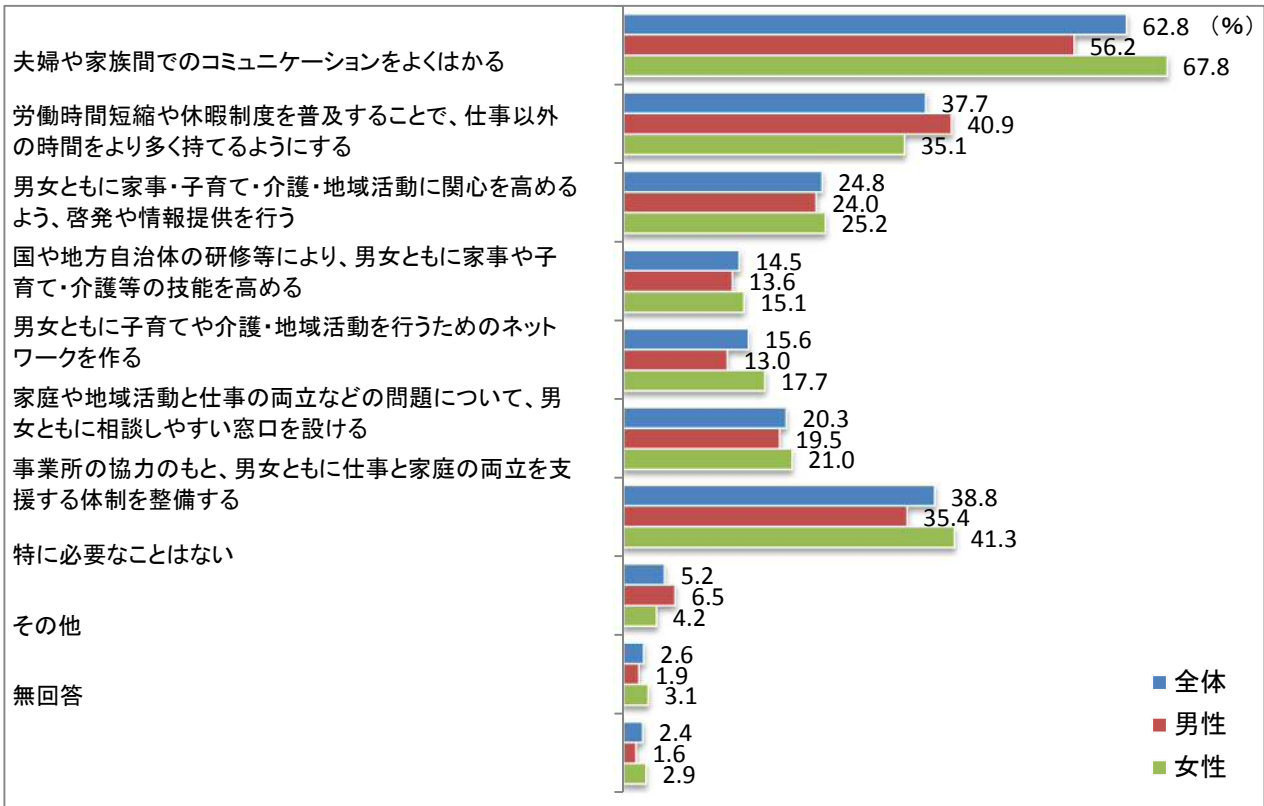
- ◆その状況によって、夫婦で決める。 (女性・50歳代)
- ◆家庭内の事は女性に。対外的な事は男性に。 (男性・70歳代)
- ◆家庭により異なる。 (男性・20歳代)
- ◆各夫婦の形態にもよるが、男性が主に働く責任はあると思う。家事は双方の仕事だが、必然、女性には比率が傾くのではないか。 (男性・30歳代)
- ◆各家庭で決めれば良いと思う。 (女性・30歳代)
- ◆立場により決まる。 (男性・50歳代)
- ◆育児は2人で。あとは出来る方・得意な方が。 (女性・20歳代)
- ◆仕事をしていない人が家事をする。 (男性・60歳代)
- ◆それぞれ、その時々に合わせて良い。「~すべき」とは思わない。 (女性・50歳代)
- ◆そうでなければならぬという固定概念はない。 (男性・40歳代)
- ◆家族の話し合いで決めるのが良いのでは。 (女性・70歳代)
- ◆仕事は男女関係無いが、家事・育児は男女で分担する。 (男性・20歳代)
- ◆男女の別はなく、時間的都合や体力的都合を見て適材適所。時間があるなら体力に無理のない範囲で、体力があるなら時間の都合がつく範囲で協力し合うべき。 (男性・30歳代)
- ◆少子化問題解決の為には家庭重視。 (男性・60歳代)
- ◆臨機応変に、その時の状況で判断を望みます。 (女性・50歳代)
- ◆出来る方が出来る事をし、互いに手伝う。 (男性・40歳代)
- ◆男性は仕事もして、家事に対して理解するべき。 (女性・30歳代)
- ◆家庭生活の変化に応じて、生活スタイルを変えていくべき。 (女性・50歳代)
- ◆男女ともに育児に参加すべき。 (女性・30歳代)
- ◆一世帯一世帯事情があるので、その世帯のベストであれば良いと思う。 (女性・30歳代)
- ◆出来る事は分担。 (男性・70歳代)
- ◆できる人がやる。 (男性・40歳代)
- ◆その時、時間と体力等、余裕がある方が行う。協力するということです。 (女性・30歳代)
- ◆それぞれに合った形で良い。 (女性・30歳代)
- ◆夫婦で決めれば良いと思う。収入も考えも違うので、生活できないと働くしかないの  
で…。 (女性・30歳代)
- ◆各家庭の好きな様にすれば良い。 (女性・40歳代)
- ◆それぞれの考え方で良い。 (女性・40歳代)



【問12】あなたは、男性と女性がともに、家事・子育て・介護・地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。

【図20】

■図20 男女別の構成比



■図20 男女別の構成比

最も多い比率となった項目は、全体・男性・女性の回答一致で「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる」となっており、次いで多い項目は、全体と女性が「事業所の協力のもと、男女ともに仕事と家庭の両立を支援する体制を整備する」で、男性は「労働時間短縮や休暇制度を普及することで仕事以外の時間をより多く持てるようにする」となっています。

その他の主な意見

- ◆地域活動に積極的に参加することが良い事のように言われている昨今、そのこと自体も疑問に思う。 (女性・50歳代)
- ◆夫にやる気がなければ、家事の分担等を話し合っても無駄。もし自分が倒れても、やってくれるとは思えない。 (女性・40歳代)
- ◆年休が取りやすい環境が社内にも必要。 (男性・40歳代)
- ◆子育て世帯のヘルパーやベビーシッター制度の充実と助成。 (女性・30歳代)
- ◆家庭環境が大きい。家事をする男性をつくるなら、子供の頃から家庭や学校で教える。 (女性・50歳代)
- ◆会社全体の考え方を変えること。 (女性・30歳代)
- ◆休みを多く取れても、手伝う気がなければどうにもならない。 (女性・60歳代)
- ◆子供の頃からの教育。 (女性・40歳代)
- ◆子育て・介護は地域の協力が不可欠。制度充実を求む。 (女性・70歳代)
- ◆北海道は男女平等率ワースト1の地域であるので、北海道全域での再教育が必要である。 (女性・30歳代)
- ◆男女の子育て・介護時の賃金保障100% (男性・40歳代)

### (3) 女性の就労について

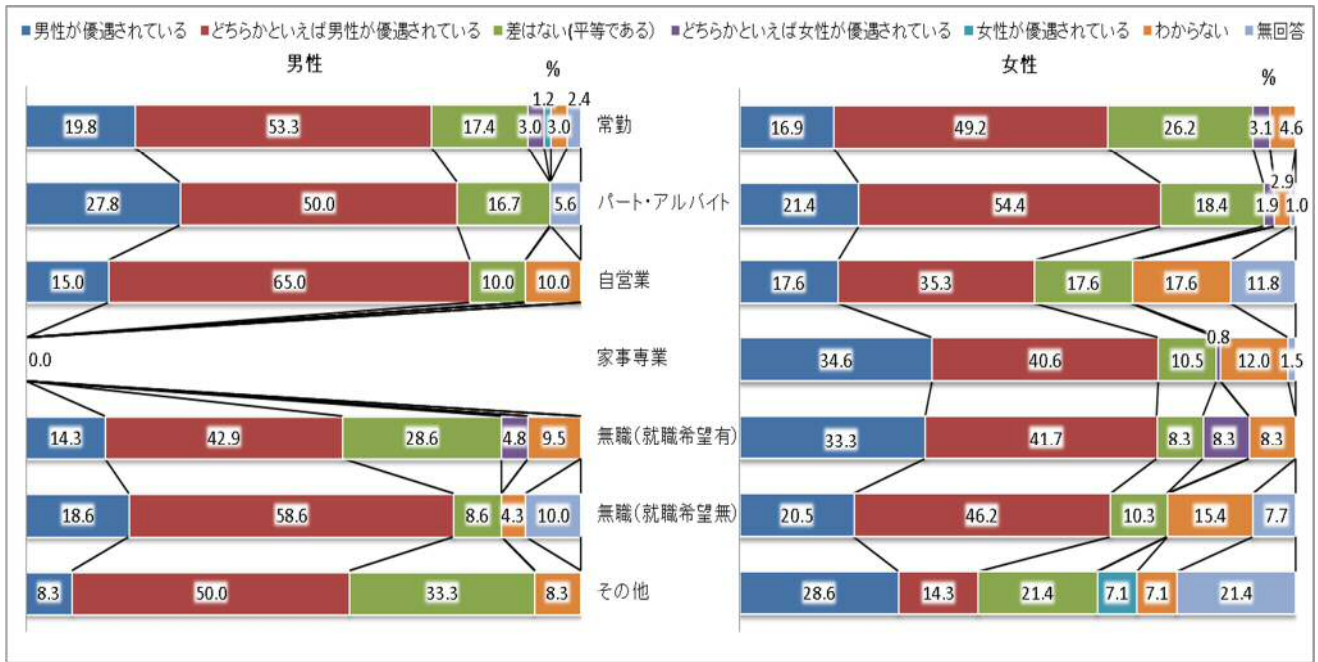
【問13】 あなたは、次にあげるような項目で、男女は平等になっていると思いますか。

①～⑥のそれぞれの項目について、あてはまる番号に○をつけてください。

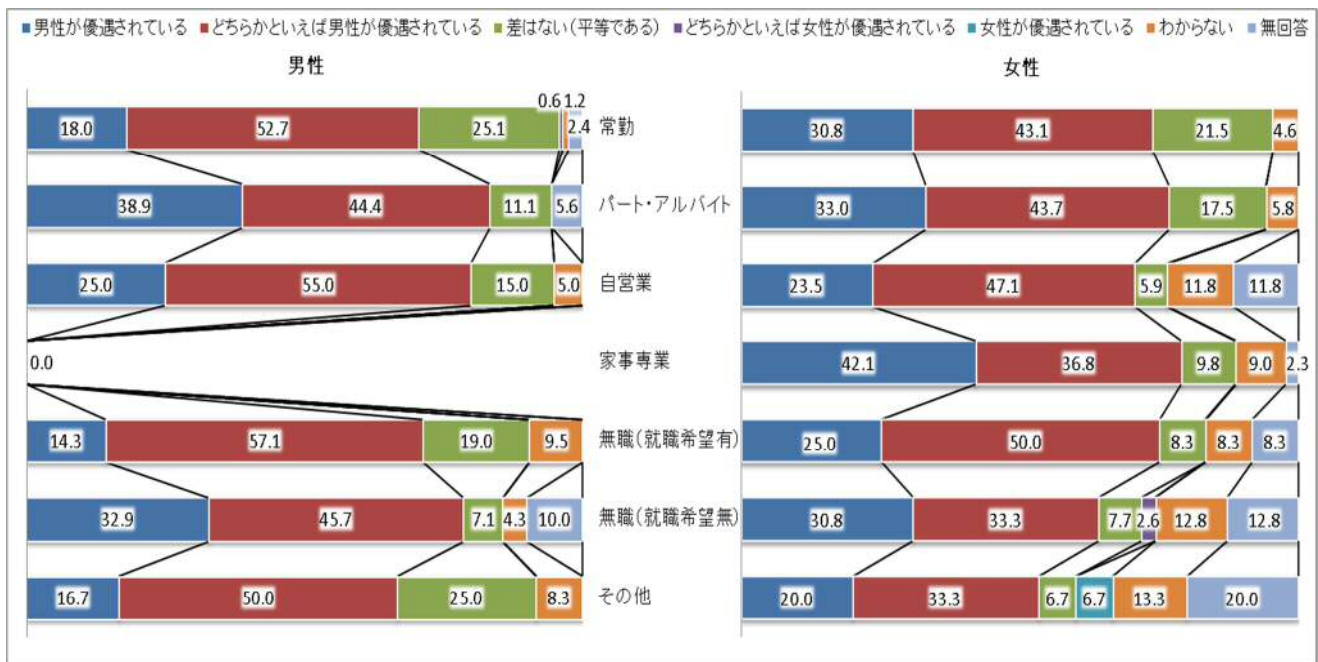
【図21】

■図21-1 男女別×職業別の構成比

#### ①雇用形態

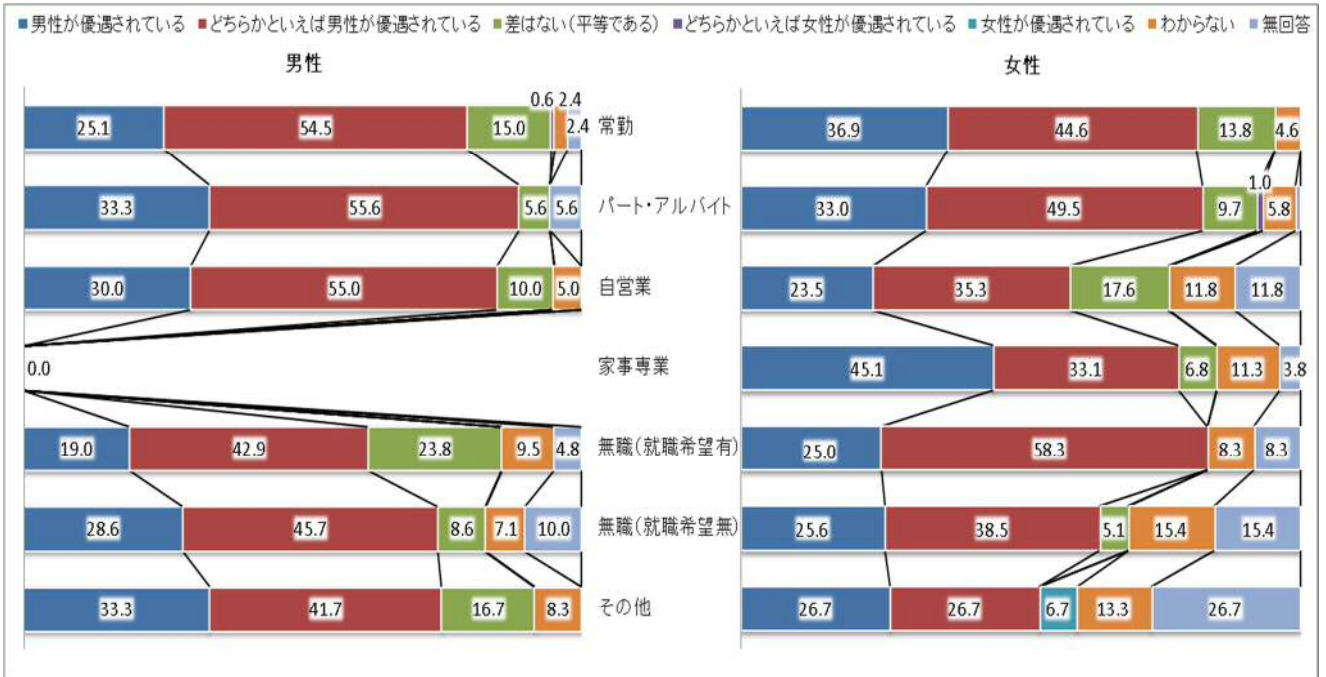


#### ②賃金

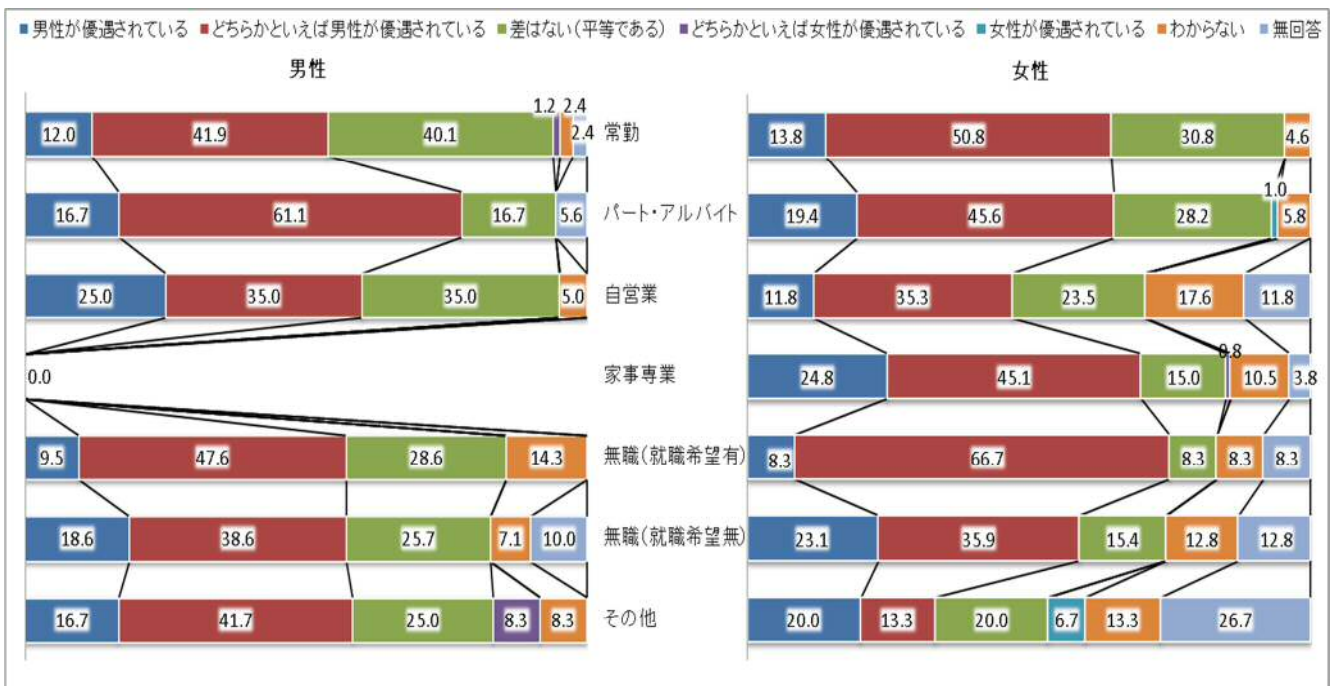


■ 図 21-2 男女別×職業別の構成比

③昇進・昇格

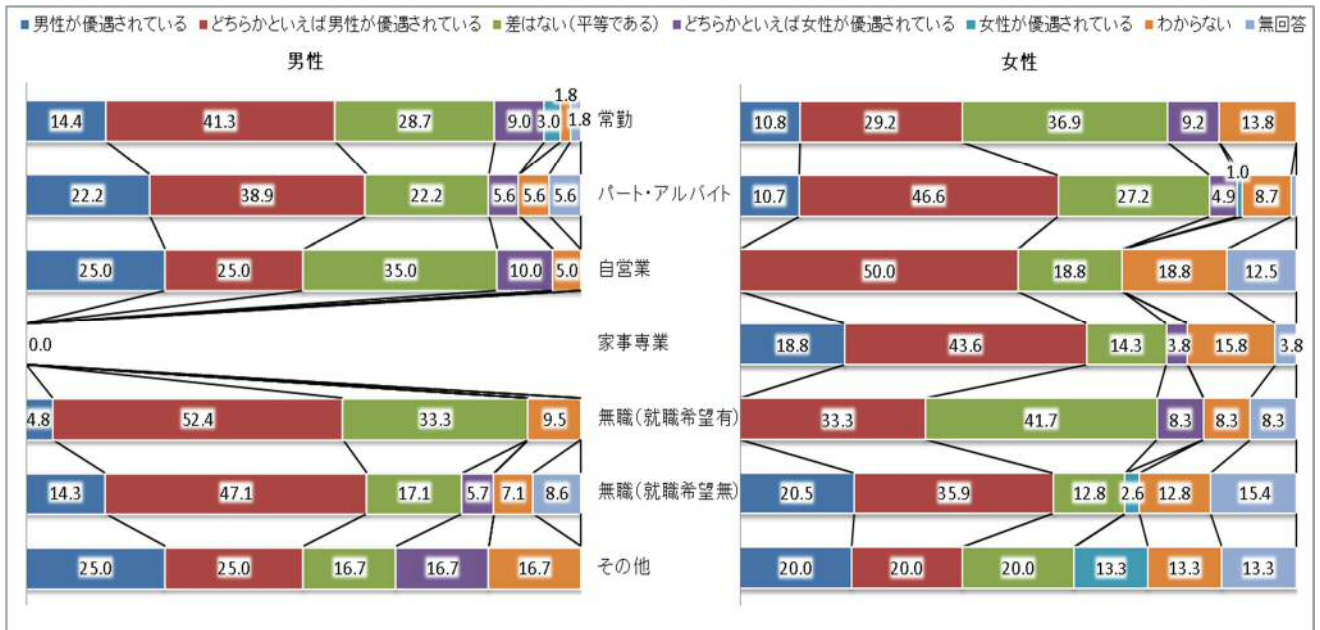


④能力の評価

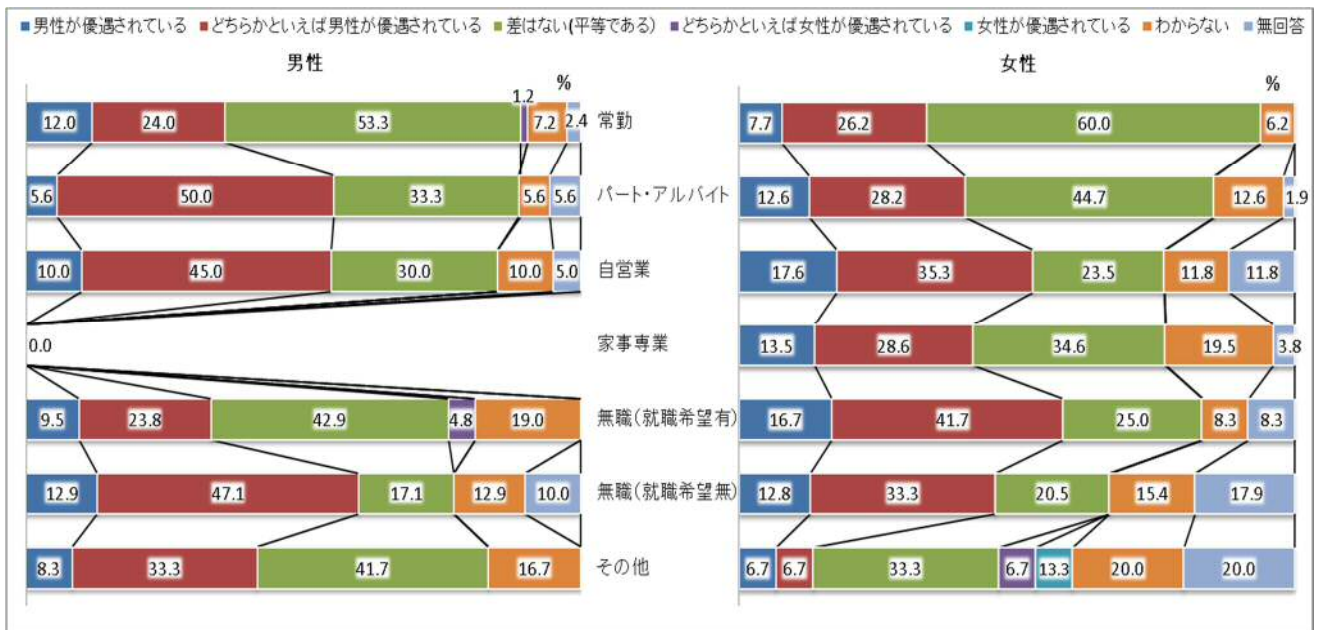


■図 21-3 男女別×職業別の構成比

⑤仕事内容



⑥研修等を受ける機会



■図 21 男女別×職業別の構成比

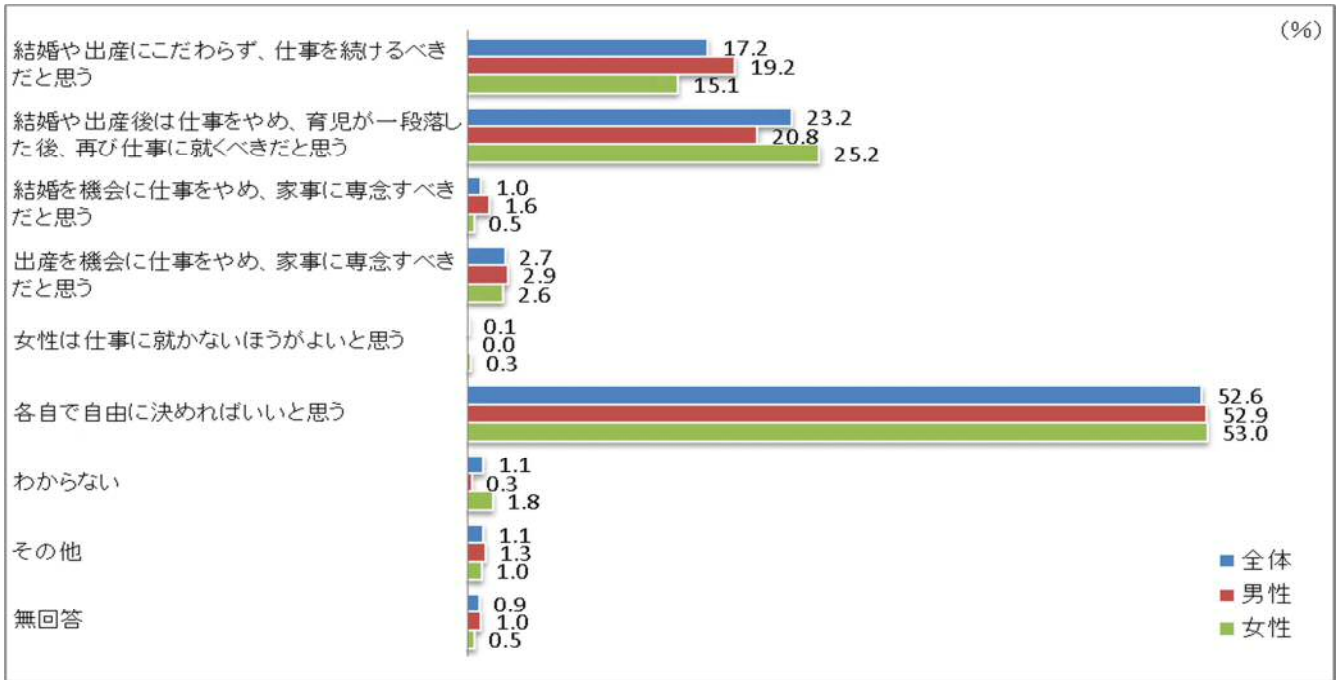
全職業の男女ともに、①雇用形態、②賃金、③昇進・昇格、④能力の評価、⑤仕事内容において「男性優遇」と回答しています。

また、⑥研修を受ける機会については、男性のパート・アルバイト、自営業、無職（就職希望無）と女性の自営業、家事専業、無職（就職希望有・無）が「男性優遇」と回答し、男性の常勤、無職（就職希望有）、その他と女性の常勤、パート・アルバイト、その他が「差はない」と回答しています。

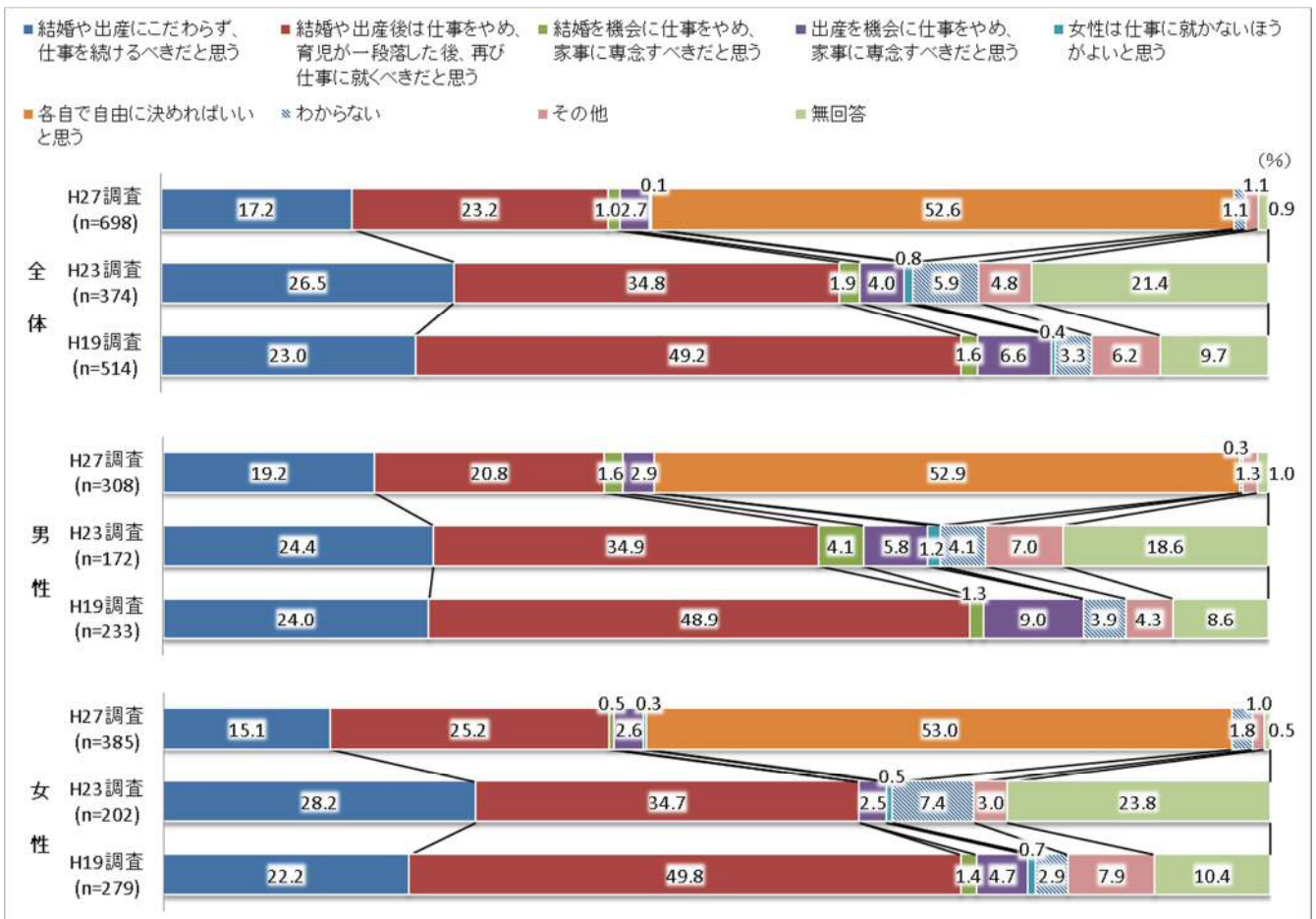
【問 14】 あなたは、女性の仕事と家庭の関わりについて、どうあるべきだと思いますか。

【図 22・23】

■図 22 男女別の構成比



■図 23 年度別の調査結果比較



### ■図 22 男女別の構成比

最も比率の多い項目は、全体・男性・女性一致で「各自で自由に決めればいいと思う」となっており、半数以上の割合を占めています。

### ■図 23 年度別の調査結果比較

平成 19・23 年度では「結婚や出産後は仕事をやめ、育児が一段落した後、再び仕事に就くべきだと思う」の比率が最も多い項目でしたが、平成 27 年度では今回調査で追加された項目の「各自で自由に決めればいいと思う」の比率が最も多くなっており、その他の項目については減少しています。

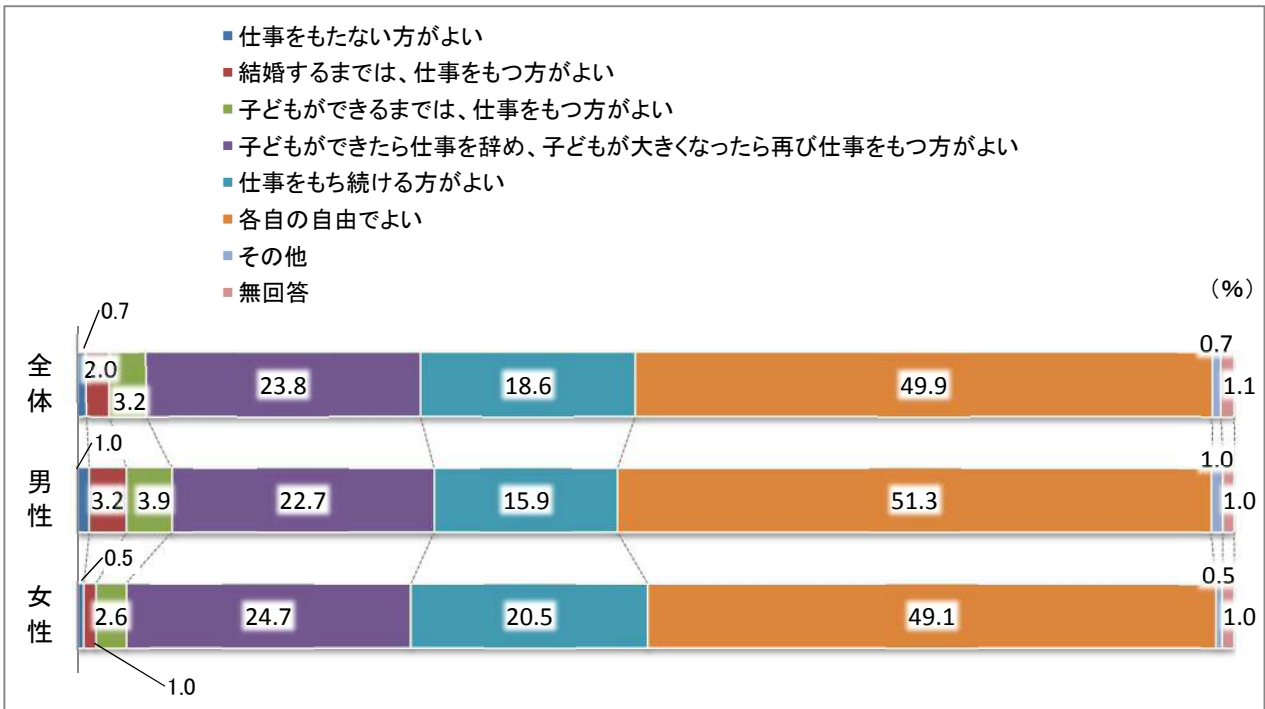
### その他の主な意見

- ◆その時の状況と気持ちで決めれば良いが、仕事をしたい状況で職に就けるかどうか  
問題。 (女性・50 歳代)
- ◆①の「続けるべき」ではなく、続けられる体勢にすべき！育休が取れない！！ (女性・30 歳代)
- ◆⑥に近いが、家事も仕事の1つとして給与という形があっても良いと思う。 (男性・30 歳代)
- ◆会社の協力がないと難しい現状。 (女性・40 歳代)
- ◆三つ子の魂百までとある様、小さいうちにしっかり躾ける。 (女性・60 歳代)
- ◆収入上の必要性や会社の流れによるものだろう。ただ、気持ちとしてはできるだけ子  
と一緒にいるべきだろう。 (男性・30 歳代)
- ◆育休を取り、同じ職場に就く事を希望。 (女性・30 歳代)
- ◆女性の働く環境を整え、国や地方自治体の見直しが必要。 (女性・70 歳代)
- ◆仕事をせず、その分子供のしつけをしっかり教える。 (女性・70 歳代)

【問15】あなたは、女性が仕事をもつことについてどう思いますか。

【図24】

■図24 男女別の構成比



■図24 男女別の構成比

最も比率の多かった項目は、全体・男性・女性の回答一致で「各自の自由でよい」となっており、全体が49.9%、男性が51.3%、女性が49.1%となっています。次いで比率の多い項目は、「子供ができたら仕事を辞め、子供が大きくなったら再び仕事をもつ方がよい」となっています。

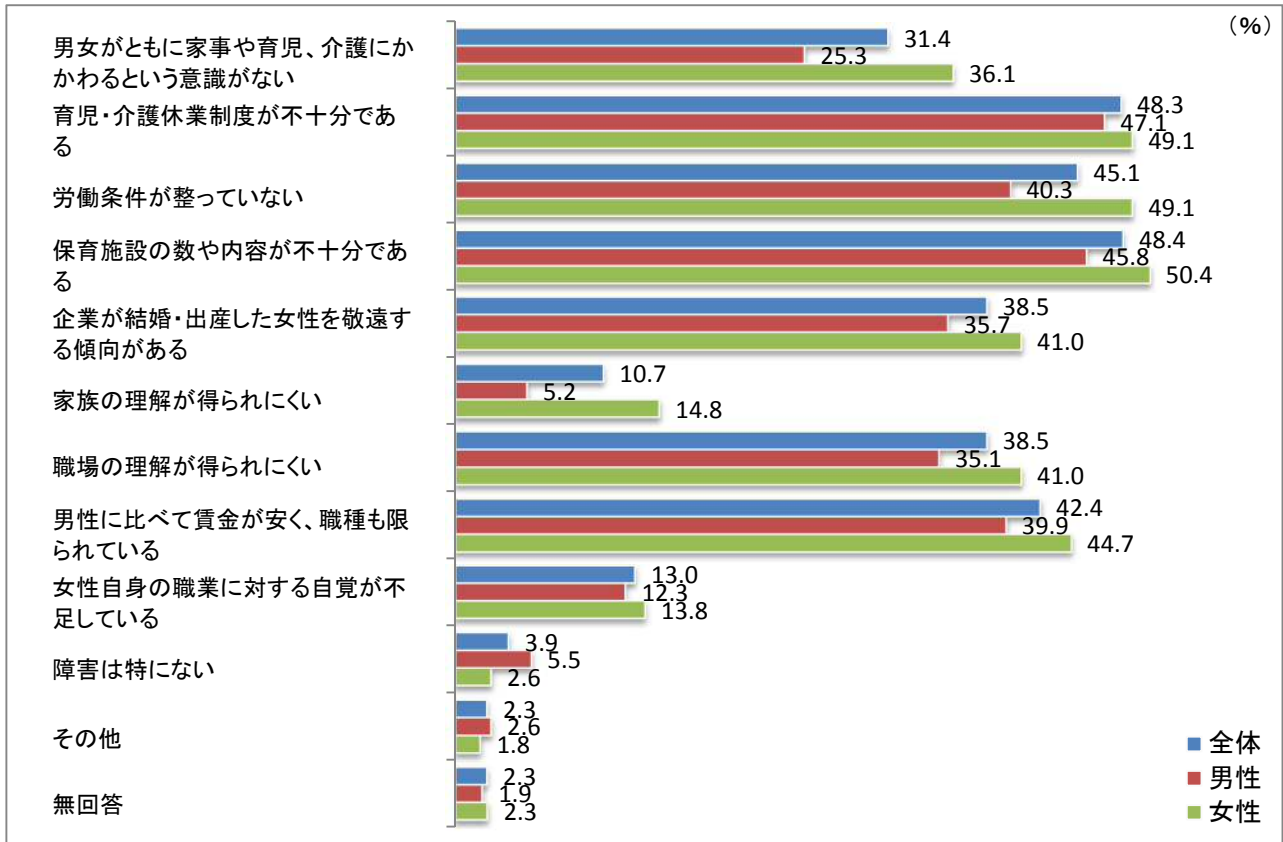
**その他の主な意見**

- ◆給与によるものでは？生活の為。 (男性・40歳代)
- ◆会社の協力が得られないのが現状。 (女性・40歳代)
- ◆家庭を持ったら仕事をすべきではない！育児と家計を守るのが女性の仕事！ (男性・60歳代)
- ◆仕事をすることによって婚期が遅れる。が、出会いの場も無い。 (女性・40歳代)
- ◆道徳は家庭のしきたりで決まる。しかも、早いうちに。 (女性・60歳代)
- ◆優先すべきものを遠くならない範囲で、できることをすればいいと思う。  
もちろん、女性に限ったことではなく。人として、或いは親として。 (男性・30歳代)

【問16】あなたは、女性が仕事を持ち続けていく上で、障害になると思われることはどれですか。

【図25】

■図25 男女別の構成比



■図25 男女別の構成比

全体回答で最も多い項目は「保育施設の数や内容が不十分である」で48.4%となっています。  
 また、男性回答では「育児・介護休業制度が不十分である」47.1%となり、女性回答は全体同様「保育施設の数や内容が不十分である」50.4%という結果になりました。

**その他の主な意見**

- ◆子育ては夫婦にとって最重要事項だと思う。各夫婦の形態にもよるが、子育ての為に仕事を辞めることは間違った選択ではないと思う。子供にとって親、特に母親と共にいる時間は他に代え難い価値がある。 (男性・30歳代)
- ◆社会理解。少子化との矛盾。 (男性・30歳代)
- ◆能力ではなく、若さが求められる傾向。 (女性・40歳代)
- ◆家事・育児の負担が女性に偏りがち。 (女性・40歳代)
- ◆子供とのコミュニケーションが不足する。 (男性・50歳代)
- ◆企業はなるべく無駄をなくしたいものなので、しょうがない。 (男性・30歳代)
- ◆体力が不足。 (女性・50歳代)
- ◆女性が働く（家から出る）事を反対された。 (女性・70歳代)
- ◆各自の意識の問題ではないか。 (男性・60歳代)
- ◆子供が重度の障害を持っているため、医療行為をしてくれるデイサービスの施設が必要。 (女性・40歳代)

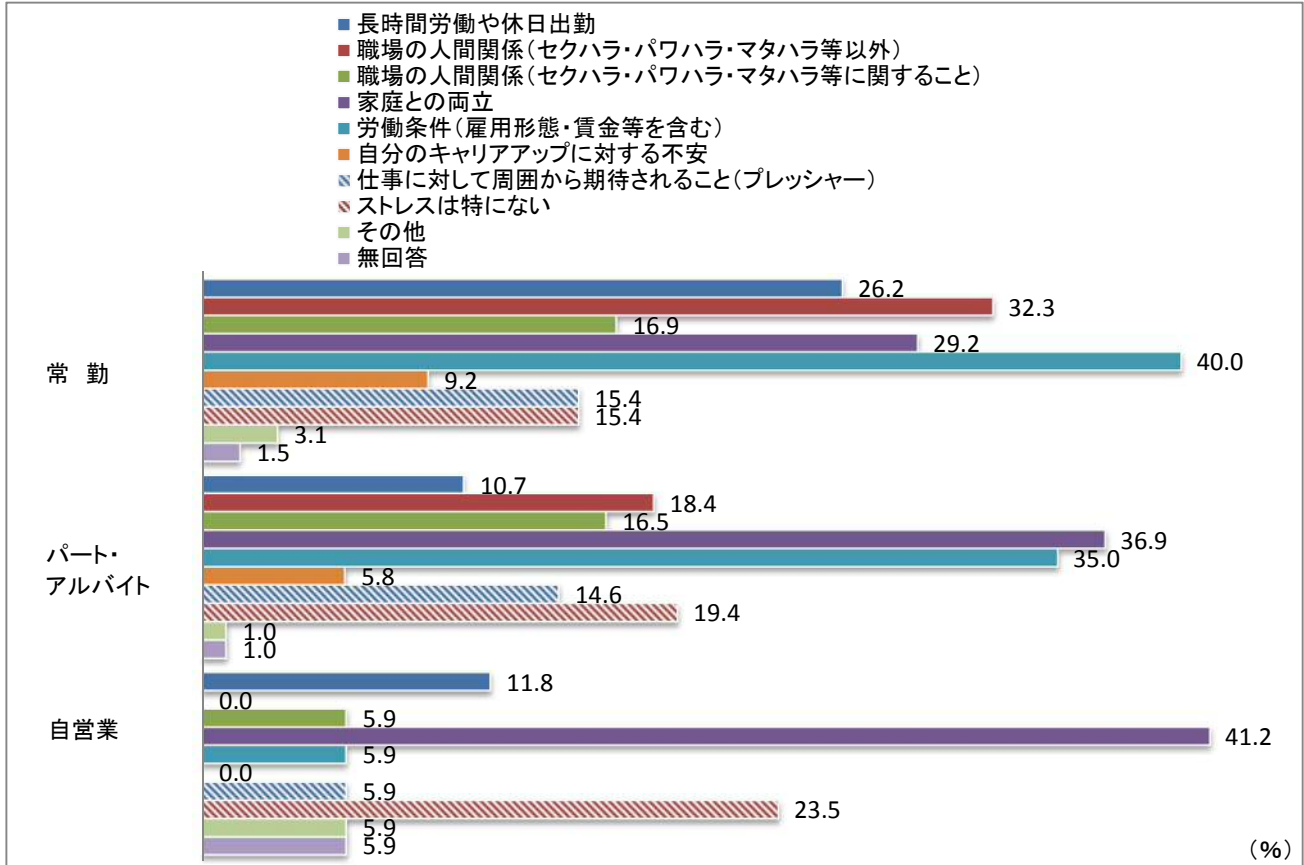


【問17】働いている女性にうかがいます。

あなたは、職場において、どのようなことにストレスを感じますか。

【図26】

■図26 女性の職業別の構成比



■図26 女性の職業別の構成比

女性の職業別で最も比率の多い項目は、常勤が「労働条件（雇用形態、賃金等を含む）」（40.0%）、パート・アルバイトが「家庭との両立」で36.9%、自営業が「家庭との両立」で41.2%という結果になりました。

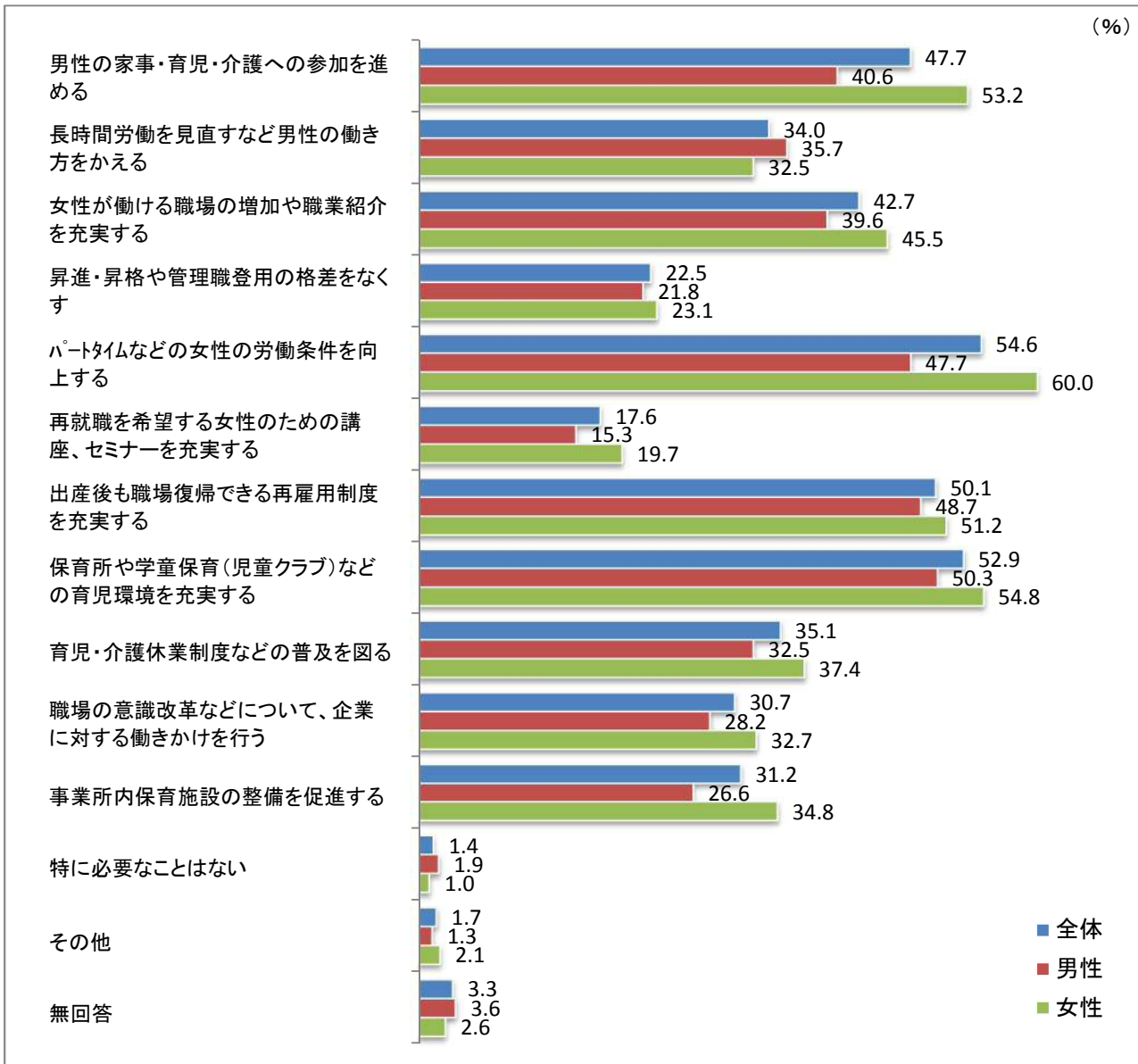
その他の主な意見

- ◆子供が幼稚園を病欠や休園になった際、預かって頂ける所が無く、自分も仕事を休まなければならない。 (女性・30歳代)
- ◆有給休暇が半日から使えたり、1時間の外出で済む時は有休ではなく1時間分をお金で引いてくれたら…と思う。 (女性・30歳代)
- ◆子供の行事などで有休が足りない。少しの時間の外出でも、1日分の有休となってしまうため。 (女性・30歳代)
- ◆モチベーションが上がらない。 (女性・40歳代)
- ◆自営の為、共に一緒なので、特にストレスを感じることは無い。 (女性・60歳代)
- ◆男性だから女性だからではなく、人としてのデリカシーが大切だと思う。 (男性・30歳代)
- ◆道内で何度か転職したが、どこでもマタハラを受けた。妊娠を報告したら、出世話がなくなった。 (女性・30歳代)

【問18】あなたは、これから女性が働きやすい環境をつくるためには、どのようなことが必要だと思いますか。

【図27・28】

■図27 男女別の構成比

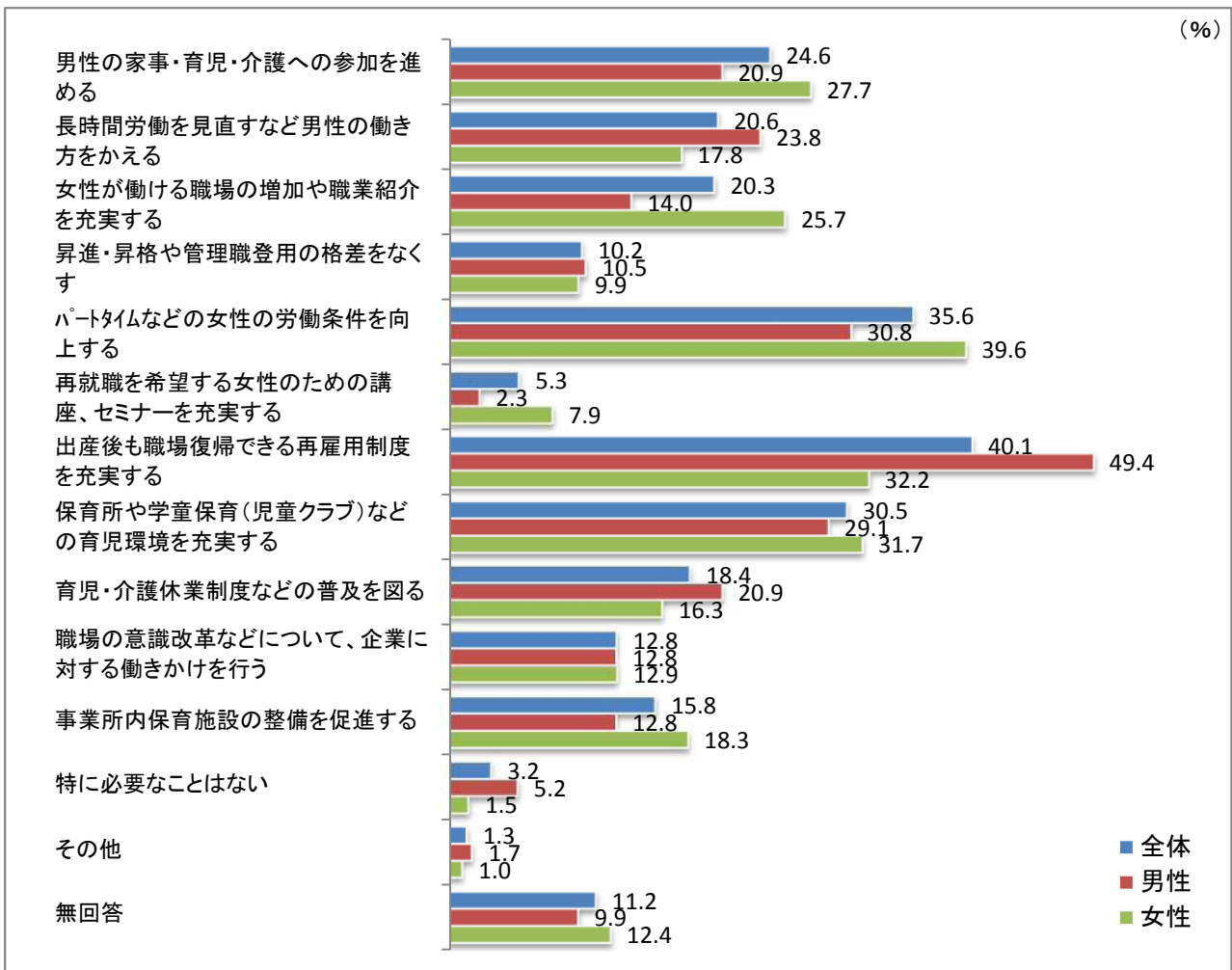


■図27 男女別の構成比

全体回答で最も比率の多い項目は、「パートタイムなどの女性の労働条件を向上する」で54.6%となっており、次いで「保育所や学童保育(児童クラブ)などの育児環境を充実する」52.9%となりました。

男女別でみると、男性回答で最も比率の多い項目は「保育所や学童保育(児童クラブ)などの育児環境を充実する」で50.3%、女性回答では「パートタイムなどの女性の労働条件を向上する」で60.0%という結果となりました。

■図 28 年度別の調査結果比較（平成 23 年度調査結果）



■図 28 年度別の調査結果比較（図 27 との比較）

全体回答にて、平成 23 年度調査で最も多かった項目が「出産後も職場復帰できる再雇用制度を充実する」となっていますが、平成 27 年度調査では「パートタイムなどの女性の労働条件を向上する」という結果となりました。

男女別でみると、男性回答の平成 23 年度調査で最も多かった項目は「出産後も職場復帰できる再雇用制度を充実する」となっていますが、平成 27 年度調査では「保育所や学童保育（児童クラブ）などの育児環境を充実する」となりました。また、女性回答は、平成 23 年度調査と平成 27 年度調査どちらも「パートタイムなどの女性の労働条件を向上する」となっています。

その他の主な意見

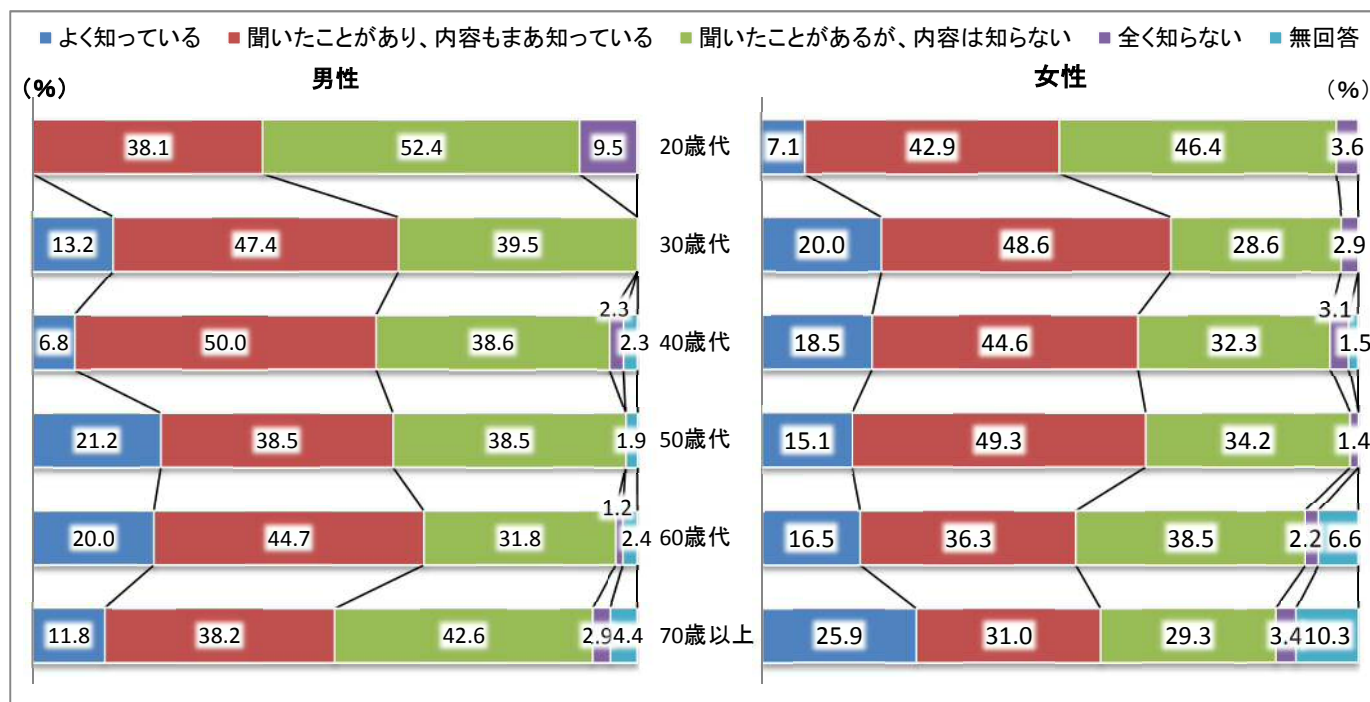
- ◆自分の能力を向上させる。 (男性・70 歳代)
- ◆病療型保育園。 (女性・40 歳代)
- ◆社会制度の見直し。 (男性・30 歳代)
- ◆女性自身の考え方や視野の狭さの改善。 (女性・40 歳代)
- ◆子育て世帯への助成。 (女性・30 歳代)
- ◆経営者は会社にとってのマイナスの人間を、即解雇すべきである。 (女性・50 歳代)
- ◆時間短縮を出来るようにする。6 時間とか。 (女性・50 歳代)
- ◆個別に誤解がある家族で話し合いが必要。 (男性・60 歳代)

#### (4) 育児休業制度について

【問19】 育児休業制度について知っていますか。

【図29】

■図29 男女別×年齢別の構成比



■図29 男女別×年齢別の構成比

男女ともに、20歳代以外の全ての年代で「よく知っている」及び「聞いたことがあり、内容もまあ知っている」（以下、「知っている」と表記）と回答しており、比率が半数を超えています。

また、男性20歳代は「聞いたことがあるが、内容は知らない」及び「全く知らない」（以下、「知らない」と表記）の比率が半数以上となっており、女性20歳代は「知っている」と「知らない」の比率が同率となっています。

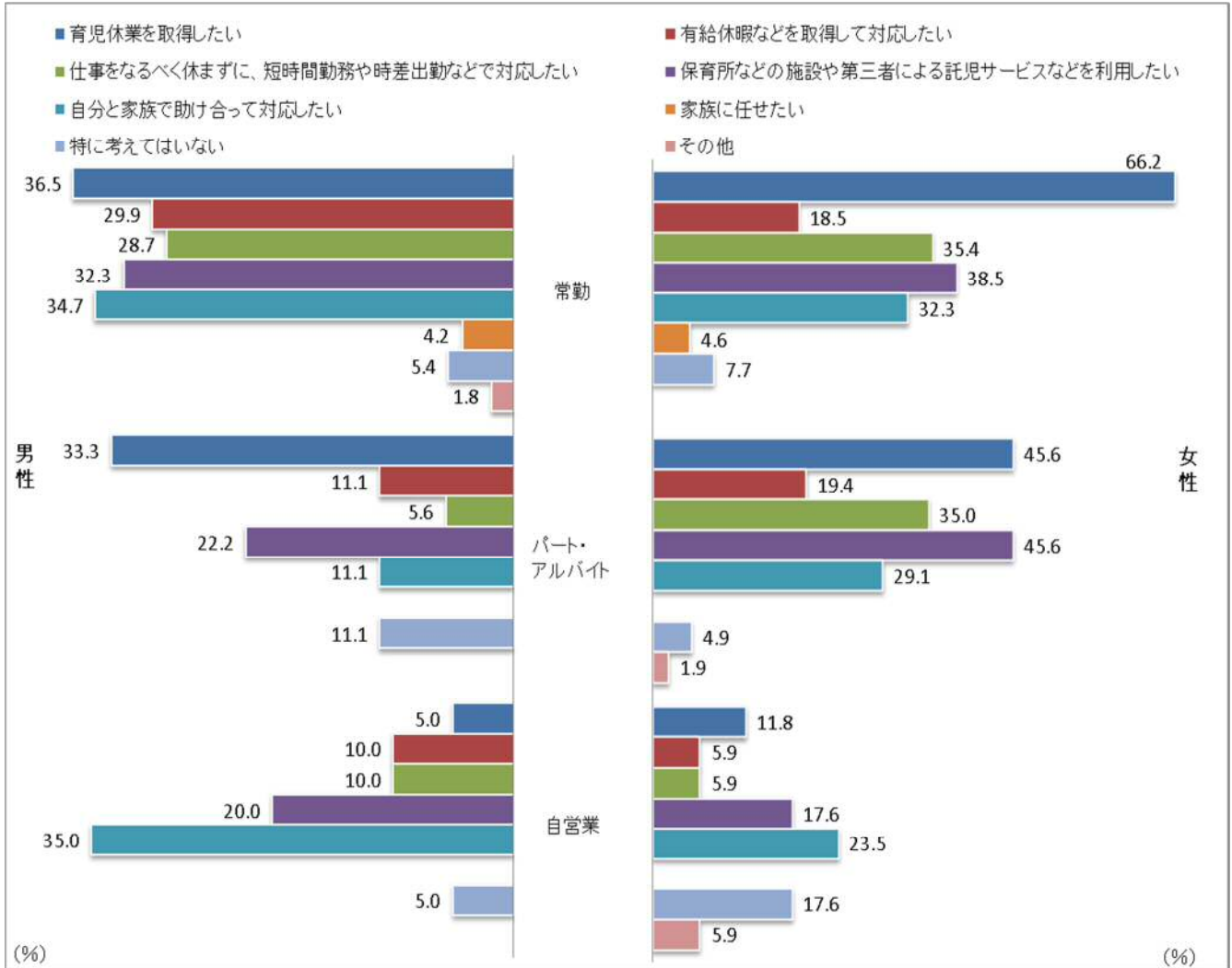
【問20】現在、勤めている方（非常勤・パート・アルバイト等を含む）にうかがいます。

育児を要する家族がいる場合、育児休業の取得について、どのようにしたいと考えていますか？

【図30】

■図30 男女別×職業別の構成比

※「無回答」を除く。



■図30 男女別×職業別の構成比

職業別で最も比率の多い項目は、男女ともに常勤、パート・アルバイトが「育児休業を取得したい」（※女性のパート・アルバイトは「保育所などの施設や第三者による託児サービスなどを利用したい」と2項目同率）となっています。また、自営業については、男女ともに「自分と家族で助け合って対応したい」が最も多い比率となっています。

その他の主な意見

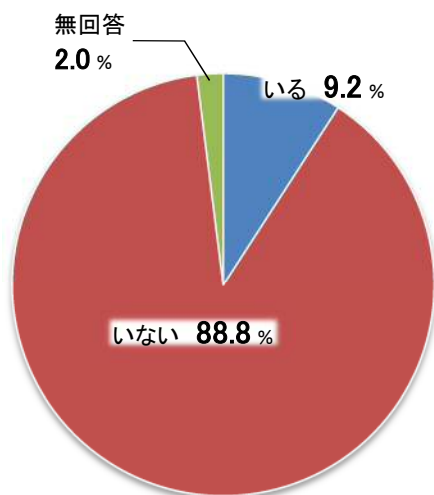
- ◆共働きしないと子育てが出来ない。また、共働きしないと年金が少ないのでやれない。(女性・60歳代)
- ◆父母とも、子供ときちんと関わる時間を作ることは大切だと思う。(男性・30歳代)
- ◆職場のメンバーに迷惑がかかる。無理がある。(男性・30歳代)
- ◆各家庭により事情は異なる。(男性・60歳代)

(5) 介護について

【問21】あなたと同居している家族の中に、介護を受けている人はいますか。

[図31・32]

■図31 全体の割合

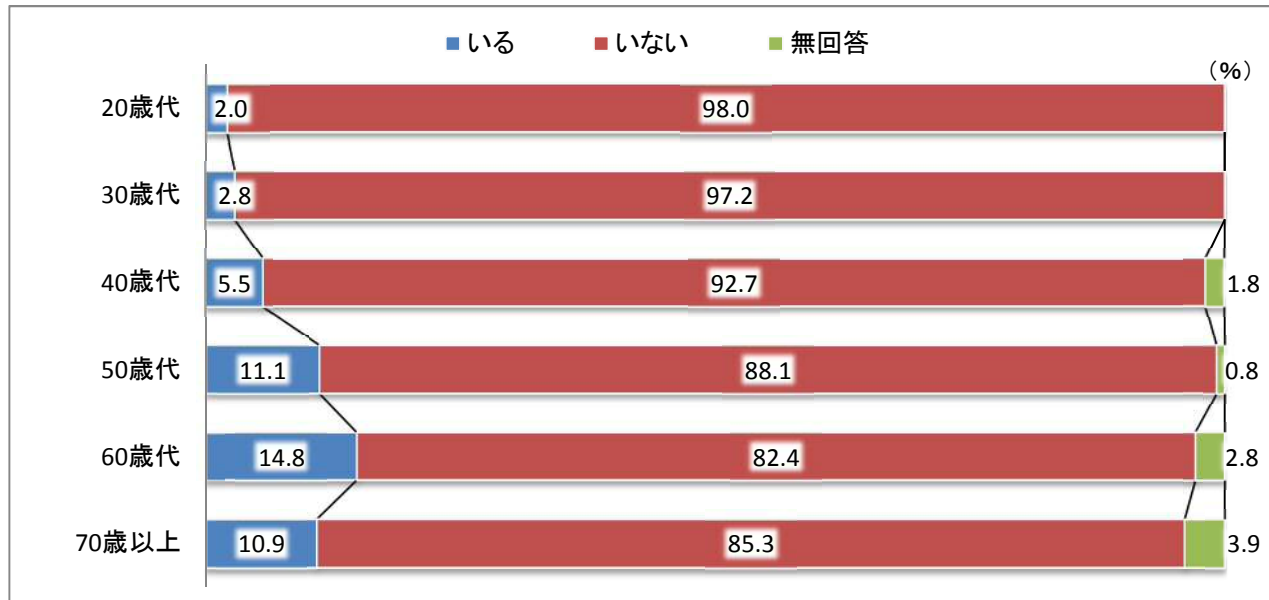


■図31・32 全体の割合・年齢別の構成比まとめ

全体の回答としては、「いる」9.2%、「いない」88.8%となっています。

また、年齢別で「いる」と回答した年代は、20歳代(2.0%)、30歳代(2.8%)、40歳代(5.5%)、50歳代(11.1%)、60歳代(14.8%)、70歳以上(10.9%)という結果となりました。年齢が上がるにつれ、介護を要する家族が増加しています。

■図32 年齢別の構成比



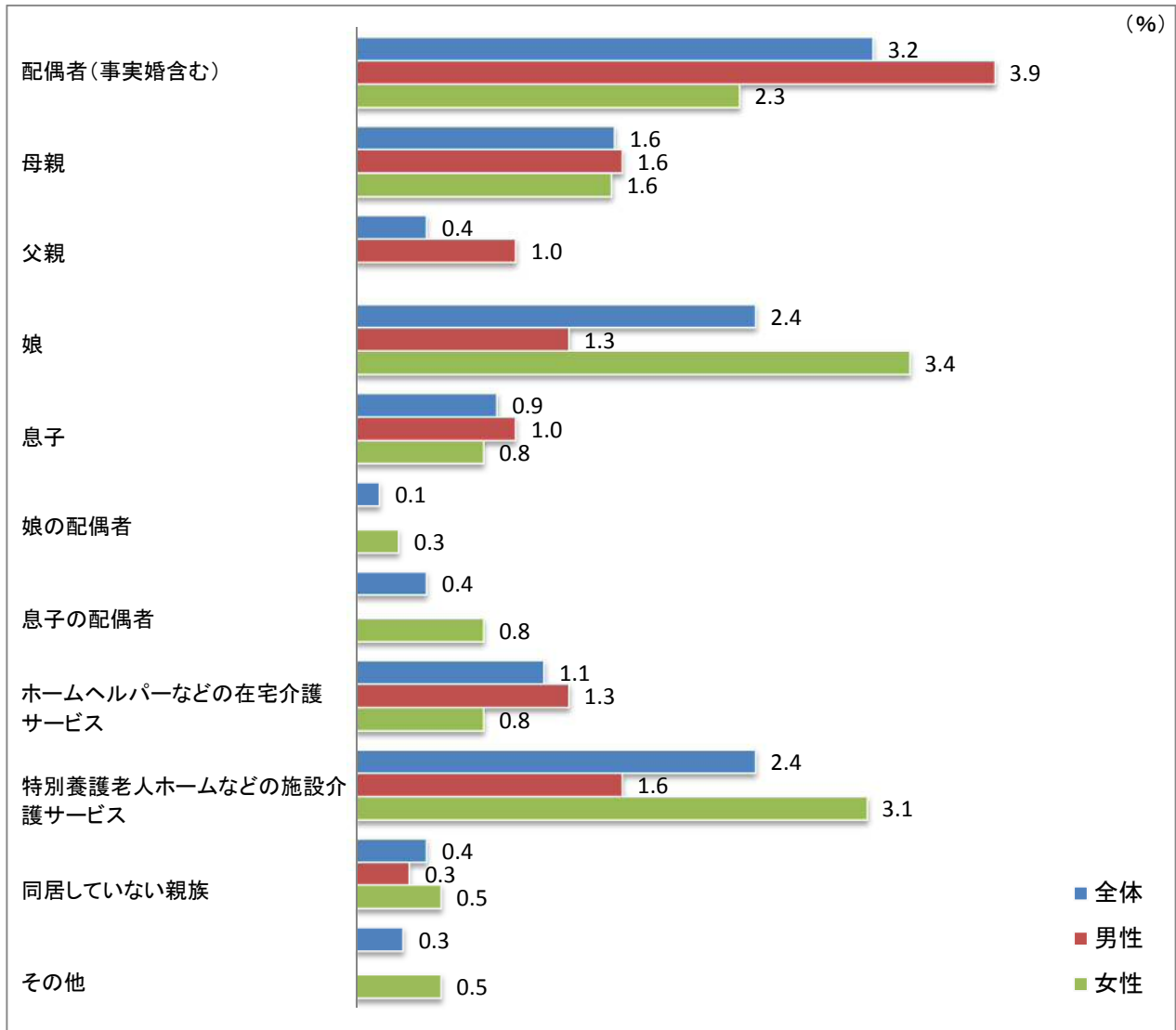
【問22】 問21で「いる」と答えた方にうかがいます。

介護を受けている人からみて、主に介護を担っている人は、どなたですか。

【図33】

■図33 男女別の構成比

※「無回答」を除く。



■図33 男女別の構成比

全体回答では、最も多い比率の項目は「配偶者」(3.2%)となっています。次いで、「娘」と「特別養護老人ホームなどの施設介護サービス」で同率(2.4%)となっています。また、男性回答は全体と同様「配偶者」(3.9%)が最も多く、女性回答では「娘」(3.4%)となりました。

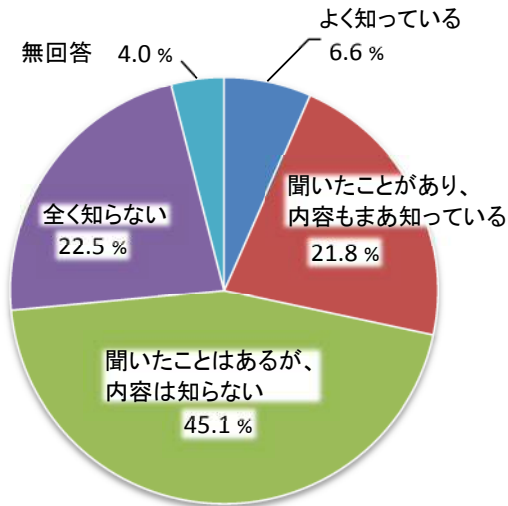
その他の主な意見

- ◆デイサービス、ショートステイの施設等。 (女性・60歳代)
- ◆同居していない為に、兄嫁と二人で見た。私も有休を使いました。 (女性・70歳代)
- ◆ショートケアサービス。 (女性・60歳代)

【問23】あなたは、介護休業制度を知っていますか。

【図34・35】

■図34 全体の割合

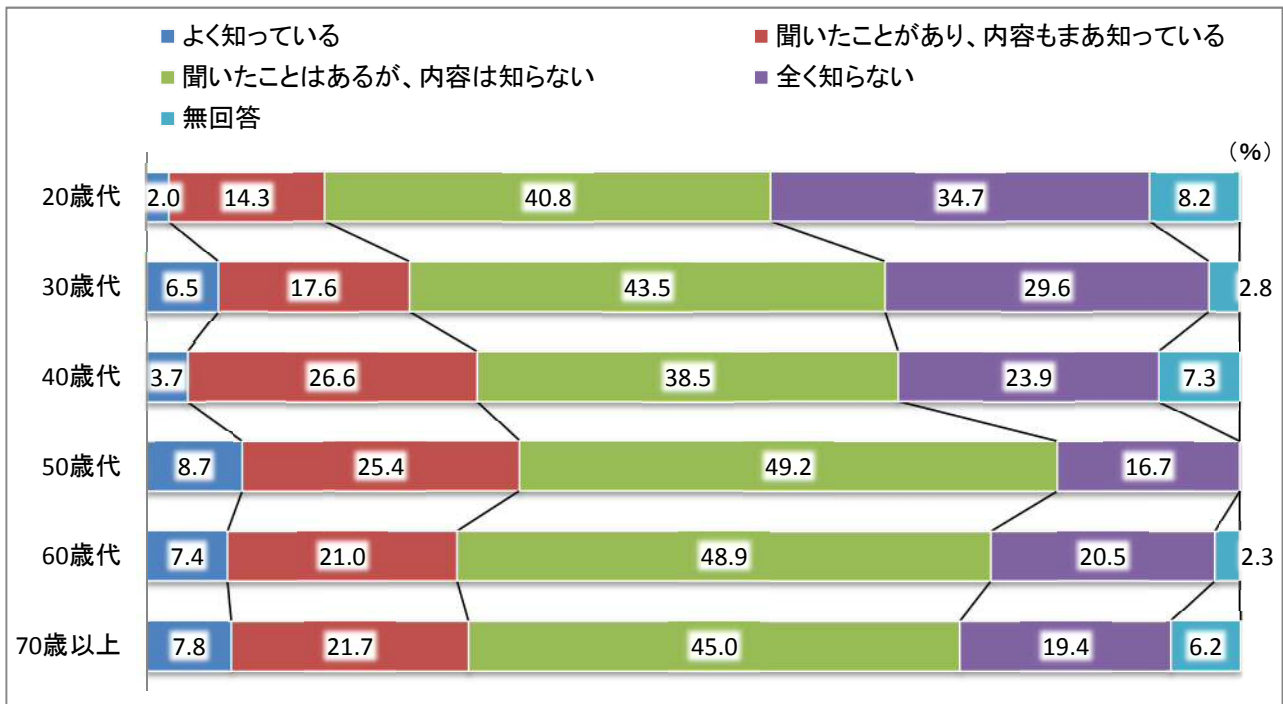


■図34・35 全体の割合・年齢別の構成比まとめ

全体回答では、「よく知っている」及び「聞いたことがあり、内容もまあ知っている」（以下、「知っている」と表記）が約3割となり、「聞いたことはあるが、内容は知らない」及び「全く知らない」（以下、「知らない」と表記）が半数以上の割合を占めています。

また、年齢別で見ると、「知っている」の回答比率が20歳代16.3%、30歳代24.1%、40歳代30.3%、50歳代34.1%、60歳代28.4%、70歳以上29.5%となっており、介護休業制度の認知度は20歳代で最も比率が低くなっています。

■図35 年齢別の構成比

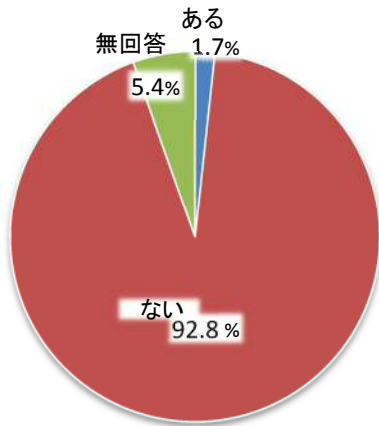




【問 24】 あなたは、介護休業制度を利用したことがありますか。

[図 36]

■図 36 全体の割合



■図 36 全体の割合

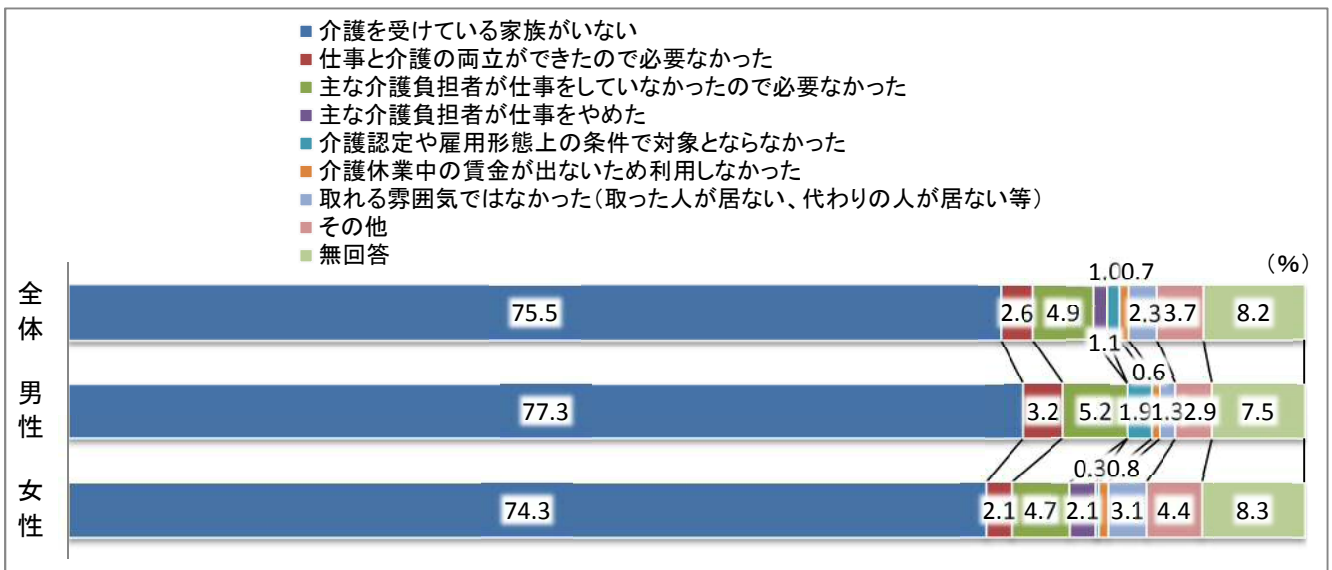
利用したことが「ある」と回答した比率は、1.7%となっており、9割以上が利用者したことがないという結果となっています。

【問 25】 問 24 で「ない」を選んだ方にうかがいます。

あなたが介護休業制度を利用しなかった主な理由はどれですか。

[図 37]

■図 37 男女別の構成比



■図 37 男女別の構成比

最も比率の多い項目は、全体・男性・女性一致で「介護を受けている家族がない」と回答しており、半数以上の割合を占めています。次いで多い項目は「主な介護負担者が仕事をしていなかったの必要なかった」となっており、全体 4.9%、男性 5.2%、女性 4.7%となりました。

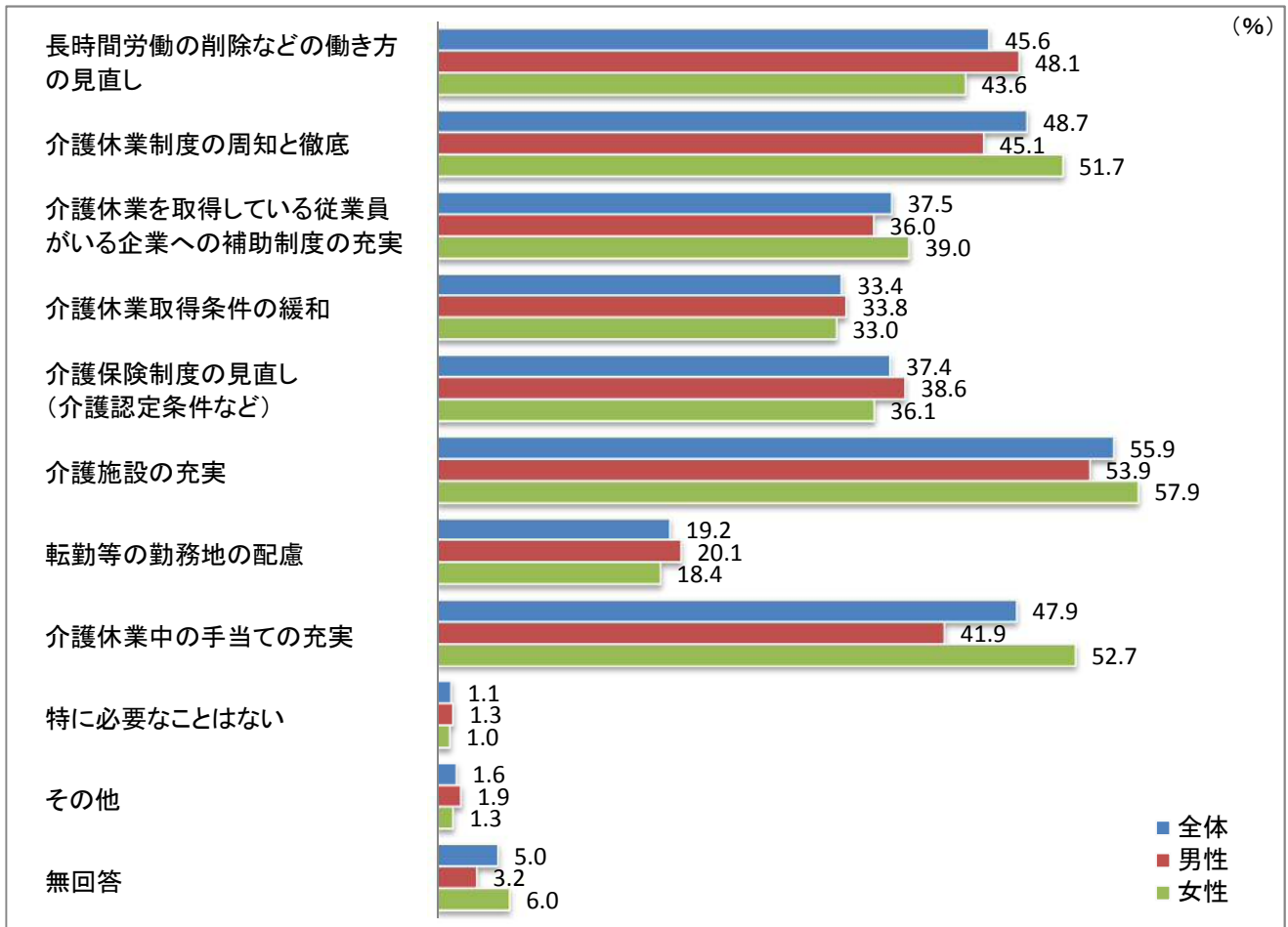
その他の主な意見

- ◆制度を知らなかった。 (男性・40 歳代)
- ◆娘は 40 才専業主婦でしたが、この制度はなかったように思います。 (女性・60 歳代)
- ◆自営の為、家族で見た。 (女性・60 歳代)
- ◆重い病で私にはできなかった。私は腰痛、夫は手術の後下半身が麻痺したので。 (女性・70 歳代)

【問26】あなたは、介護と仕事を両立するために、どのようなことが必要だと思いますか。

【図38】

■図38 男女別の構成比



■図38 男女別の構成比

最も多い項目は、全体・男性・女性は同一で「介護施設の充実」となっており、それぞれの比率は、全体55.9%、男性53.9%、女性57.9%と半数以上を占めています。

**その他の主な意見**

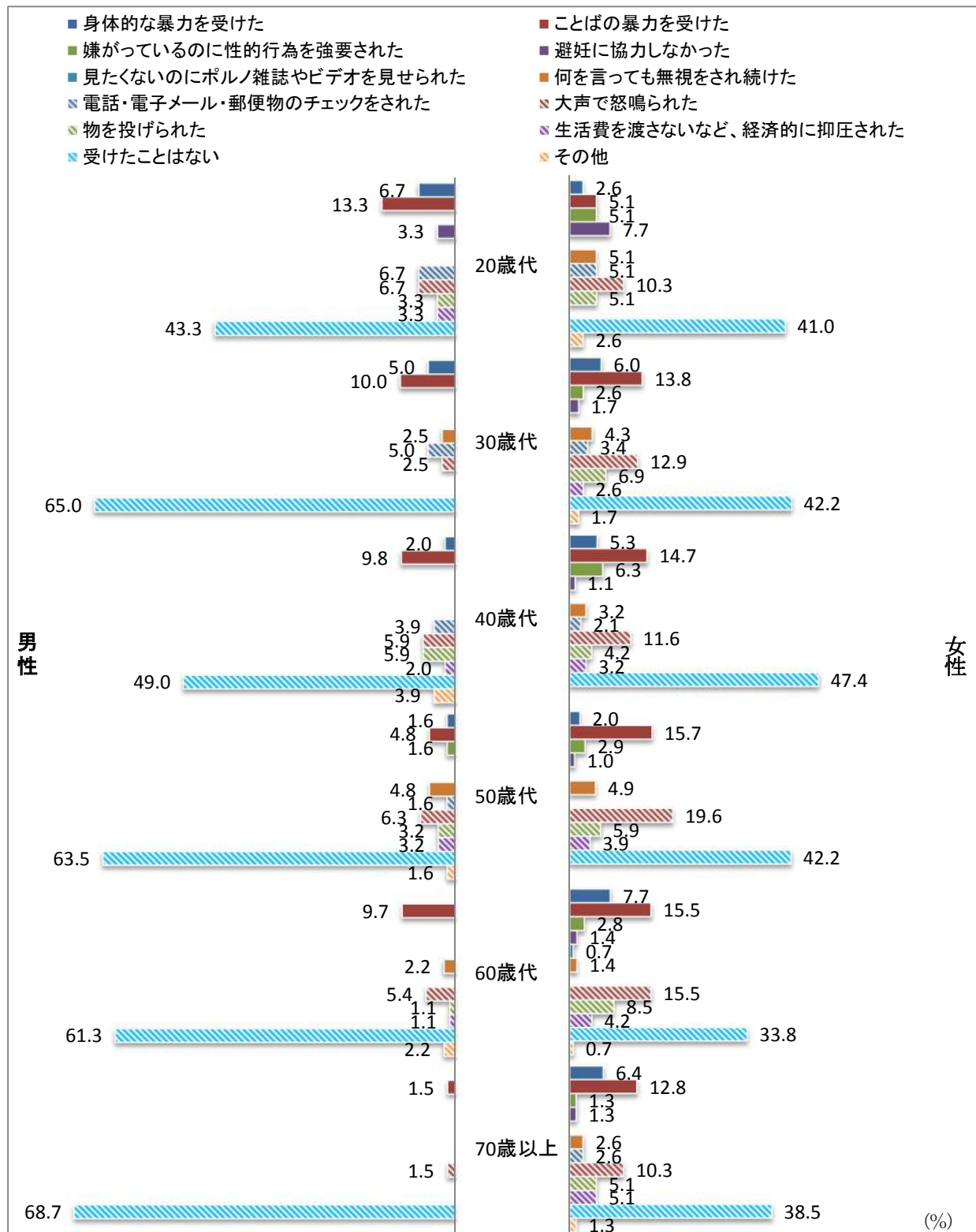
- ◆知識が無いため分からない。今後考えます。(男性・30歳代)
- ◆日本社会の仕事感の見直し。(男性・30歳代)
- ◆介護するプロの充実。(女性・40歳代)
- ◆今現在、体験していないので分かりません。(女性・60歳代)
- ◆職場の理解。(女性・20歳代)
- ◆仕事に行っている間、子供の保育園の様な大人(介護を必要とする者)の施設があると…(女性・60歳代)
- ◆職場の理解が絶対!!(男性・30歳代)
- ◆介護職の給与が安過ぎる。(男性・40歳代)
- ◆法の整備が必要だと思う。(女性・60歳代)
- ◆各家庭により状況が異なる。(男性・60歳代)

## (6) パートナーからの暴力等について

【問27】 あなたはこれまで、配偶者（事実婚や離別・死別を含む）や恋人などのパートナーから、次のような行為を受けたことはありますか。 【図39】

■図39 男女別×年齢別の構成比

※「無回答」除く。



### ■図 39 男女別×年齢別の構成比

男女ともに「受けたことはない」が最も回答比率が多くなっています。  
上記項目以外では、男性で比率の多い項目は「ことばの暴力」で、女性は「大声で怒鳴られた」と回答しています。

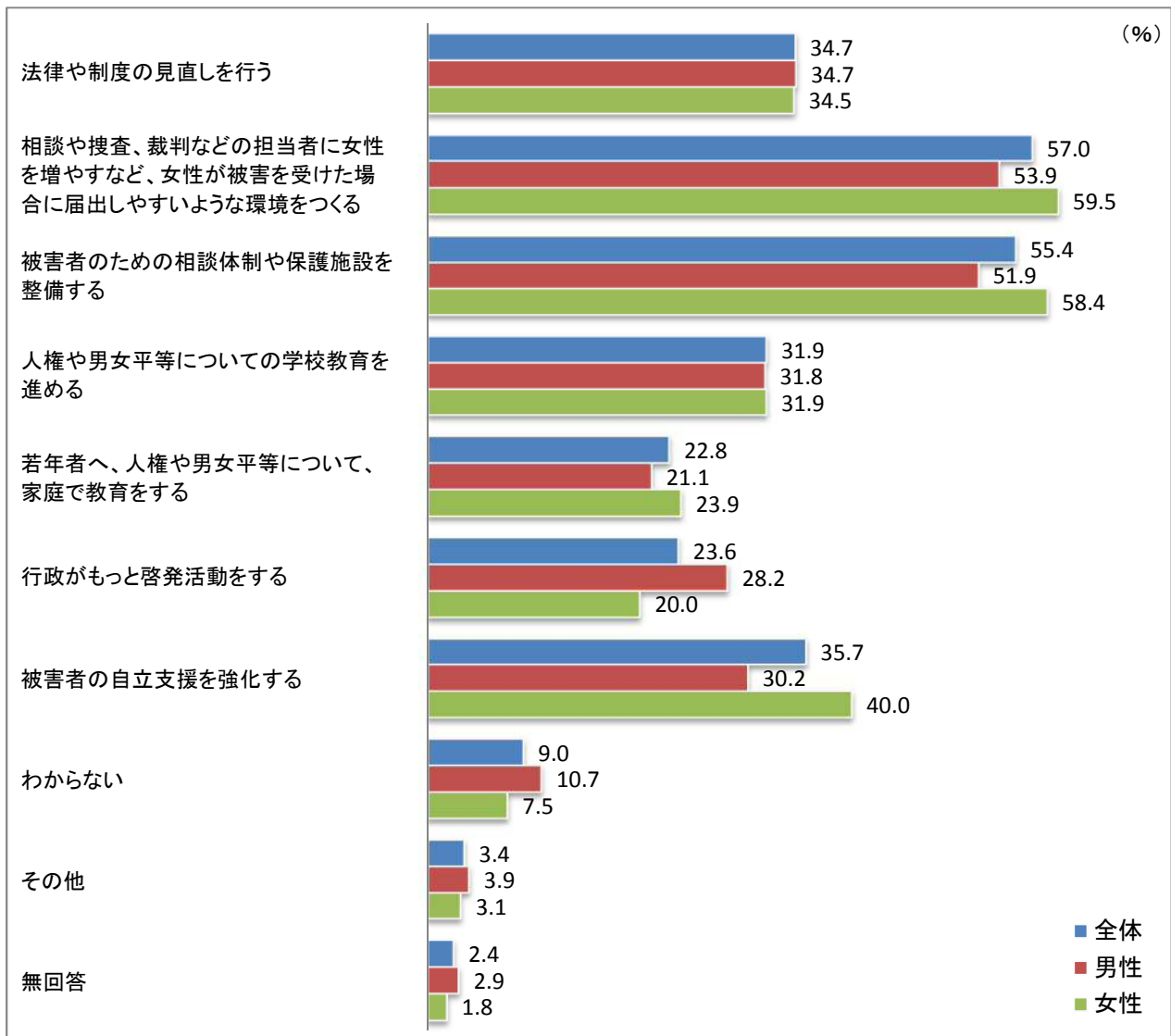
#### その他の主な意見

- |                |           |
|----------------|-----------|
| ◆父親によるもの。      | (女性・30歳代) |
| ◆ストーカー。        | (女性・20歳代) |
| ◆不倫を止めなかった。    | (女性・30歳代) |
| ◆妻の金銭感覚不足。     | (男性・60歳代) |
| ◆精神的苦痛。        | (男性・40歳代) |
| ◆自分を避ける行動をされた。 | (男性・50歳代) |

【問28】ドメスティック・バイオレンス（DV）をなくすためには、どのようにしたらよいと思いますか。

【図40】

■図40 男女別の構成比



■図40 男女別の構成比

最も多い項目は、全一致で「相談や捜査、裁判などの担当者に女性を増やすなど、女性が被害を受けた場合届出しやすいような環境をつくる」となっており、それぞれの比率は、全体57.0%、男性53.9%、女性59.5%となりました。

次いで比率の多い項目は「被害者のための相談体制や保護施設を整備する」で、全体55.4%、男性51.9%、女性58.4%となっています。

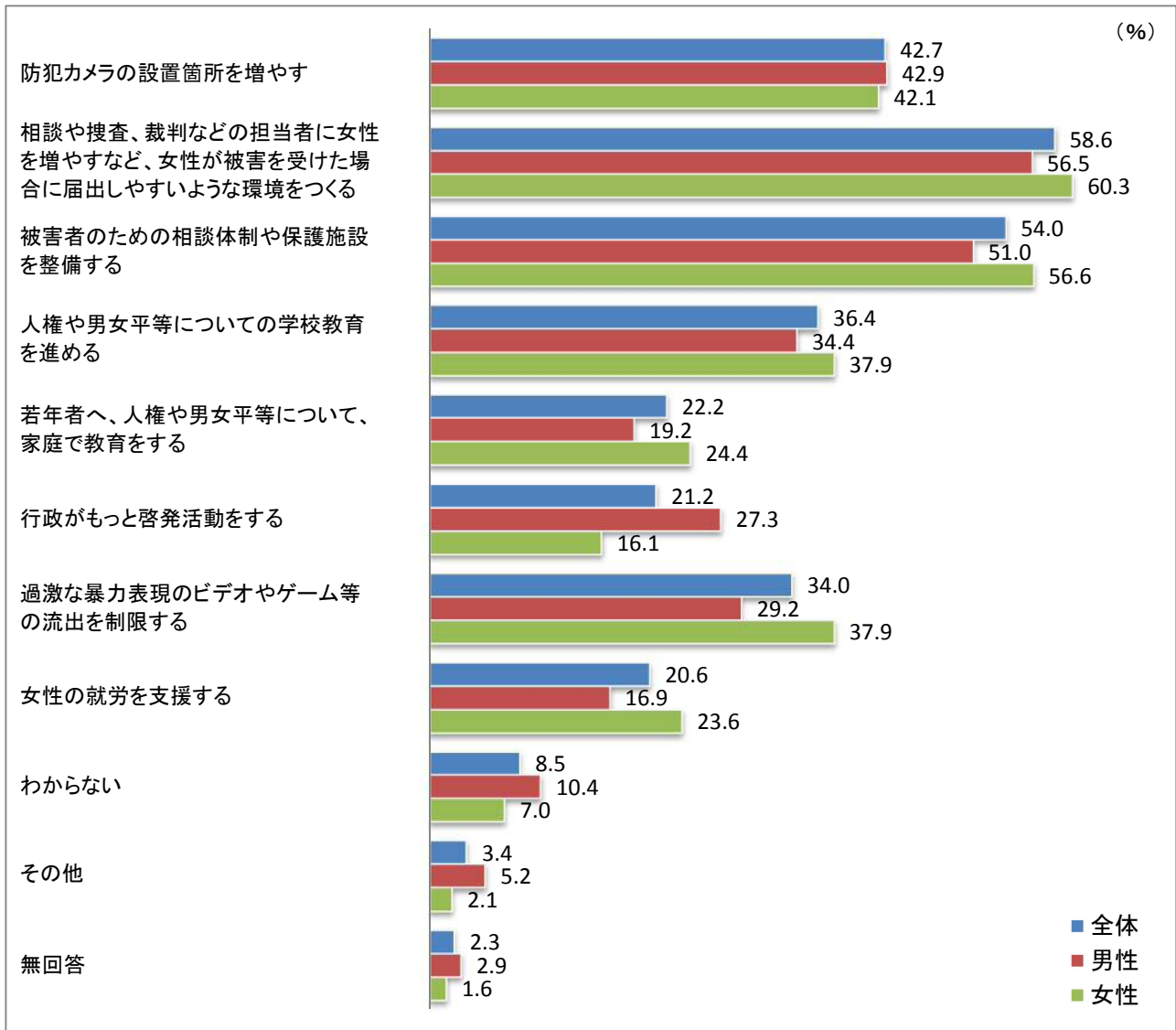
## その他の主な意見

- ◆DV をする側の親にも教育が必要。 (女性・50 歳代)
- ◆DV に何が含まれるか、それが社会的に許容されないことであるという意識づけ。  
ポスターや CM でも十分な効果はあると思う。 (男性・30 歳代)
- ◆道徳感を身に付ける (親も子も) (男性・30 歳代)
- ◆自尊心を持つ。リスクマネジメントできるだけ頭の作るような教育。 (女性・40 歳代)
- ◆小中学校での十分な教育が必要。 (男性・40 歳代)
- ◆相談者への行政の対応が「何か起きる前」にすべき。事件になってから・起きてから  
じゃなきゃ動けないというのはおかしい。 (女性・20 歳代)
- ◆DV は絶対なくならないが、それで身ごもった後の国的制度の見直しをすぐ行うべき。 (女性・30 歳代)
- ◆小さいうちから、女の子には優しくすると教える。 (男性・30 歳代)
- ◆周りの人達が気付いてあげなければならないが。 (女性・40 歳代)
- ◆相談・捜査の費用が高く、相談に行けない。 (女性・30 歳代)
- ◆幼少期の家庭環境も大事である。連鎖する。 (女性・20 歳代)
- ◆近年は犯罪に結びつくことが多く、依り親密に早期対応を強く望みます。 (男性・50 歳代)
- ◆刑罰を厳しくする。 (男性・60 歳代)
- ◆LINE をやめる。監視カメラ。 (男性・30 歳代)
- ◆被害者を保護するだけでなく、加害者も隔離する。刑罰を受ける犯罪のひとつにして  
良いと思う。 (女性・40 歳代)
- ◆女性自身の身を守るというセミナーがあるといい。 (男性・40 歳代)
- ◆別れればいいと思う。 (女性・30 歳代)
- ◆被害を受ける前の SOS にすぐに対応できるようにする。 (女性・30 歳代)
- ◆大事になっているケースは警察に相談した後・警察が注意した後に起こっている。  
ここに問題あり。 (男性・70 歳代)
- ◆起こる原因の考察についての取り組み。 (女性・20 歳代)
- ◆平等の意味をよく知っていないので、何でも女であることを忘れて男にかかっていく  
からダメ。 (女性・70 歳代)
- ◆社会や会社組織、その他の状況によって個人毎の内容が異なる。 (男性・60 歳代)
- ◆家庭環境の改善。 (女性・40 歳代)
- ◆DV を行った人に対し、隔離するなど遠ざける。 (男性・20 歳代)

【問29】性犯罪や買売春など、主に女性が被害や不利益を受ける問題をなくすためには、どのようにしたらよいと思いますか。

【図41】

■図41 男女別の構成比



■図41 男女別の構成比

最も多い項目は、全体・男性・女性は同一で「相談や捜査、裁判などの担当者に女性を増やすなど、女性が被害を受けた場合届出しやすいような環境をつくる」となっており、それぞれ全体が58.6%、男性が56.5%、女性が60.3%となっています。

次いで比率の多い項目は、「被害者のための相談体制や保護施設を整備する」で、全体が54.0%、男性が51.0%、女性が56.6%となりました。

## その他の主な意見

- ◆買売春に関しては女性の貧困も関係しているのではないか。社会保障に関する基本的な知識や手続きの方法を伝えることが必要なのでは。(男性・30 歳代)
- ◆若手から性教育したら？(女性・40 歳代)
- ◆性犯罪者へ重い刑罰や身分を住民に明かして欲しい。(女性・30 歳代)
- ◆性犯罪者を出させない為の抑止力をもっと前面にアピールしないと無くならない。発生した後の対応に、いくら力を入れても後の祭りです。(男性・60 歳代)
- ◆性犯罪に対する法を強化し、罪を重くすべきだと思います。(女性・40 歳代)
- ◆法的にこれだけの罪になる、と教育すべき。(男性・40 歳代)
- ◆子供に対して親戚から性的虐待を受けた時、相談する場所が分からない。また、親がその親戚からお金を借りているなど弱みがある場合、子供ながら口を閉ざしてしまう。学校等でアンケートするなど、何処かで助けを求める場が必要だと思う。(女性・30 歳代)
- ◆義務教育でやっていくべき。(男性・30 歳代)
- ◆働く場を増やす。子供のうちから性犯罪についてしっかり学び、減らせるといい。(男性・20 歳代)
- ◆犯罪者は法律で厳罰にする様に改正する。(男性・60 歳代)
- ◆スカートをやめる。(男性・30 歳代)
- ◆刑罰他。ただ冤罪を増やす事はやるな。(男性・40 歳代)
- ◆性犯罪を犯した場合の罪を重くする。(女性・40 歳代)
- ◆男女共に自分自身の性格的な面を知ることのできるセミナーがあれば、その事で少しは変わってくる？！(男性・40 歳代)
- ◆自分が被害者というのが知られたくない人がほとんどだと思うので、相談しやすいようにする。(男性・30 歳代)
- ◆女性側にも責任があると思うので、そこはしっかり問い詰めて、いけない事は教えるべき。(女性・30 歳代)
- ◆防犯カメラ。社会を変える事よりも、男女分野の教育。(女性・70 歳代)
- ◆性犯罪と買売春では原因状況が異なるので、同じテーブルで考えるのは問題あり。設問に無理がある。(男性・60 歳代)

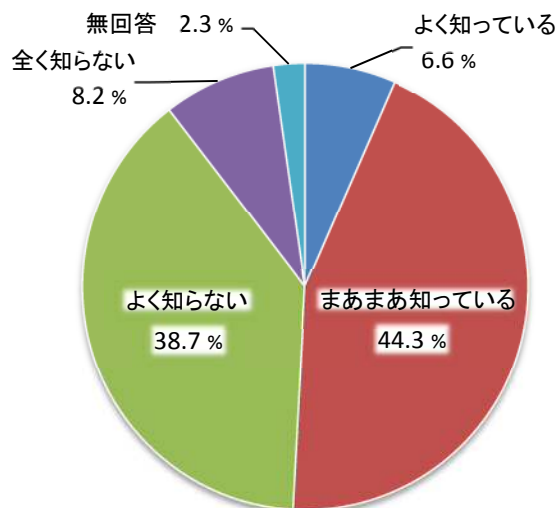


(7) 性的少数者（セクシャルマイノリティ）について

【問30】 性的少数者について、どの程度知っていますか。

[図 42]

■図 42 全体の割合



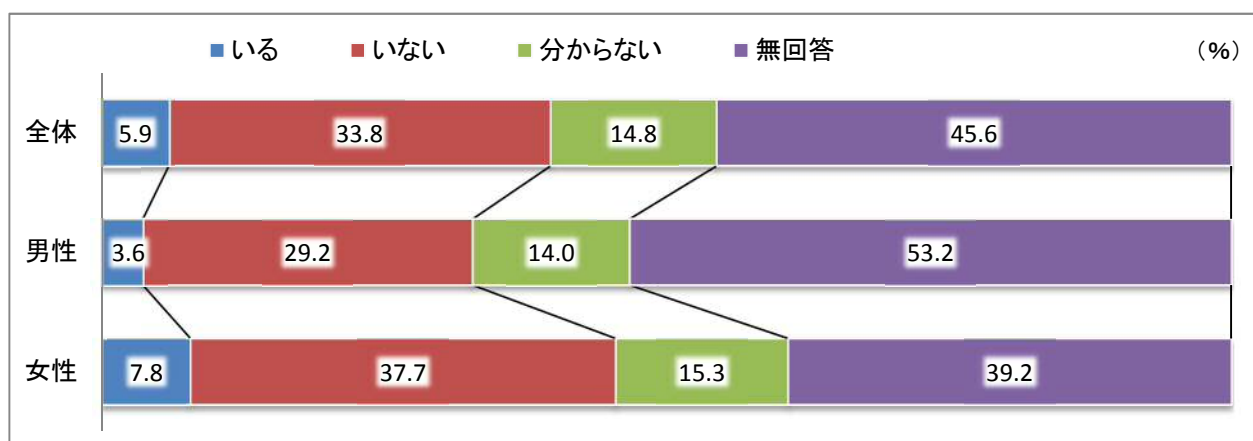
■図 42 全体の割合

「よく知っている」及び「まあまあ知っている」と回答した比率が50.9%と約半数の割合を占め、「よく知らない」及び「全く知らない」と回答した比率が46.9%となっています。

【問31】 問30で「よく知っている」、「まあまあ知っている」と答えた方にうかがいます。あなたの身近に、性的少数者の人はいますか？

[図 43]

■図 43 男女別の構成比



■図 43 男女別の構成比

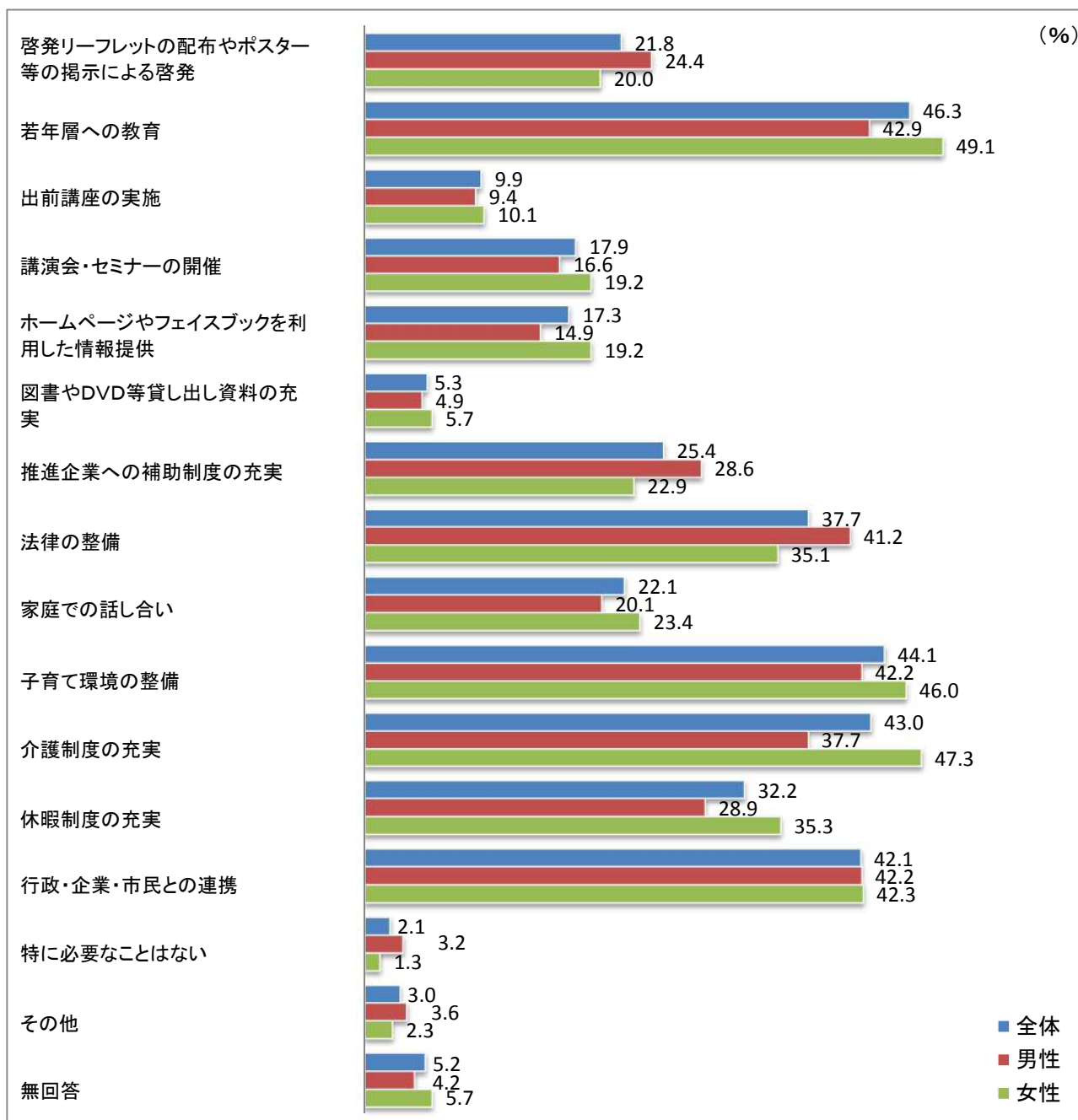
男女とも「無回答」及び「いない」の回答比率が多くなっています。「いる」と回答した比率は、全体で5.9%、男性が3.6%、女性が7.8%という結果となりました。

## (8) 男女平等参画社会の推進について

【問 32】 あなたは、男女平等参画の推進にどのようなことが必要だと思いますか。

【図 44】

■図 44 男女別の構成比



■図 44 男女別の構成比

最も比率の多い項目は「若年層への教育」で、全体 46.3%、男性 42.9%、女性 49.1%となっています。次いで多い項目は、全体が「子育て環境の整備」で 44.1%、男性は「子育て環境の整備」と「行政・企業・市民との連携」で同率 42.2%、女性は「介護制度の充実」で 47.3%となりました。

## その他の主な意見

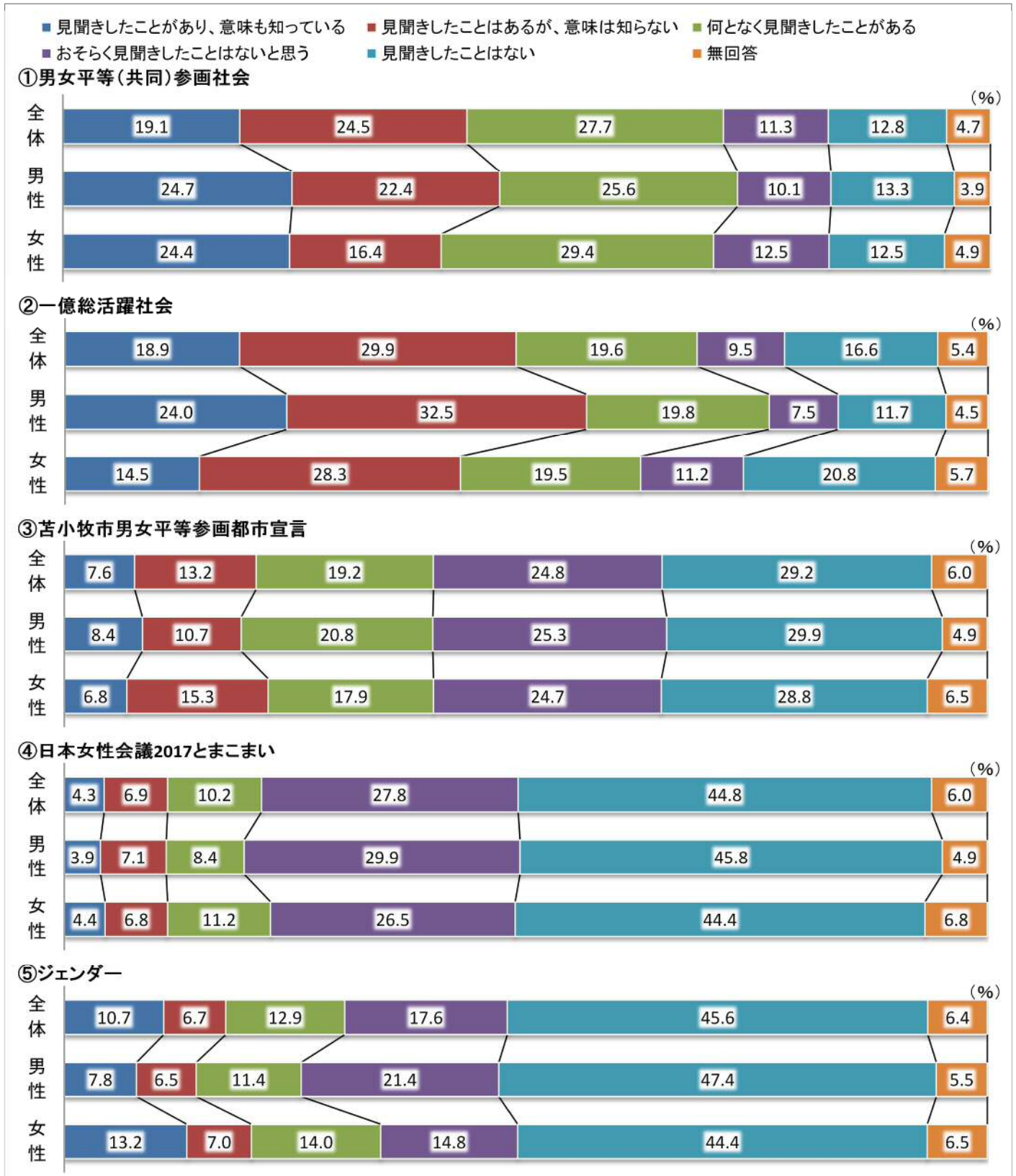
- ◆女性でも能力のある人・特殊技術のある人は仕事は十分にあります。仕事をするためのスキルを各自の責任で身につけることが最初に行うことで、根本的にも解決策なのでは。もちろん、社会の協力も必要ですが、まず各人がその意識を持つことが必要。(男性・30 歳代)
- ◆政治の貧困をまずなくす。(男性・70 歳代)
- ◆そもそも平等ではないという主張ではなく、社会進出するための前向きな考えで進めてみたら？(女性・40 歳代)
- ◆不平等世代の意識改革のための再教育→若年層へ。年代を超えたコミュニケーションの場。(女性・50 歳代)
- ◆企業への啓発。(男性・40 歳代)
- ◆平等の定義がわからない。(女性・40 歳代)
- ◆介護は主に女性がしましたが、男性は休める環境でない為出来ない。介護をする時、子育てをしていた女性と違い、男性は手当の仕方が解らないので手伝いにならない。行政がより良い介護の講習会を企画してください。介護される側も介護する側も、大変助かります。(女性・60 歳代)
- ◆若年層よりも、もっと高齢者の方が男女平等に対する意識が低いと思うので、そういった方々にも教育すべき。(女性・30 歳代)
- ◆風潮という気体のようなものをどうにかしなければならぬ。たぶん、根はもっと別の所にある。(男性・30 歳代)
- ◆会社をもっと厳しく、女性に対ししっかりとした対応を。(男性・20 歳代)
- ◆男女平等といっても体力の差などあるから平等は無理。(男性・30 歳代)
- ◆言葉で言っている事とやろうとしている事が違いすぎて賛同できない。(男性・40 歳代)
- ◆若年層のみならず、働く全ての年齢を対象に教育する機会が必要だと思う。(女性・20 歳代)
- ◆社会全体の意識・認識改革が必要。新聞、テレビなどの報道で風潮を作る。(女性・50 歳代)
- ◆何をして平等と言えるのか、深く考える必要があるのでは？差別と区別では大きな違いがある。例えば、育児は差別だろうか。母乳、その他の体質上、女性の方が適しているのでは？(女性・60 歳代)
- ◆古い考えを持った年配者の考え方を改めさせる。(男性・30 歳代)

【問33】 次の言葉のうち、あなたが見たり聞いたりしたことがあるものはどれですか。

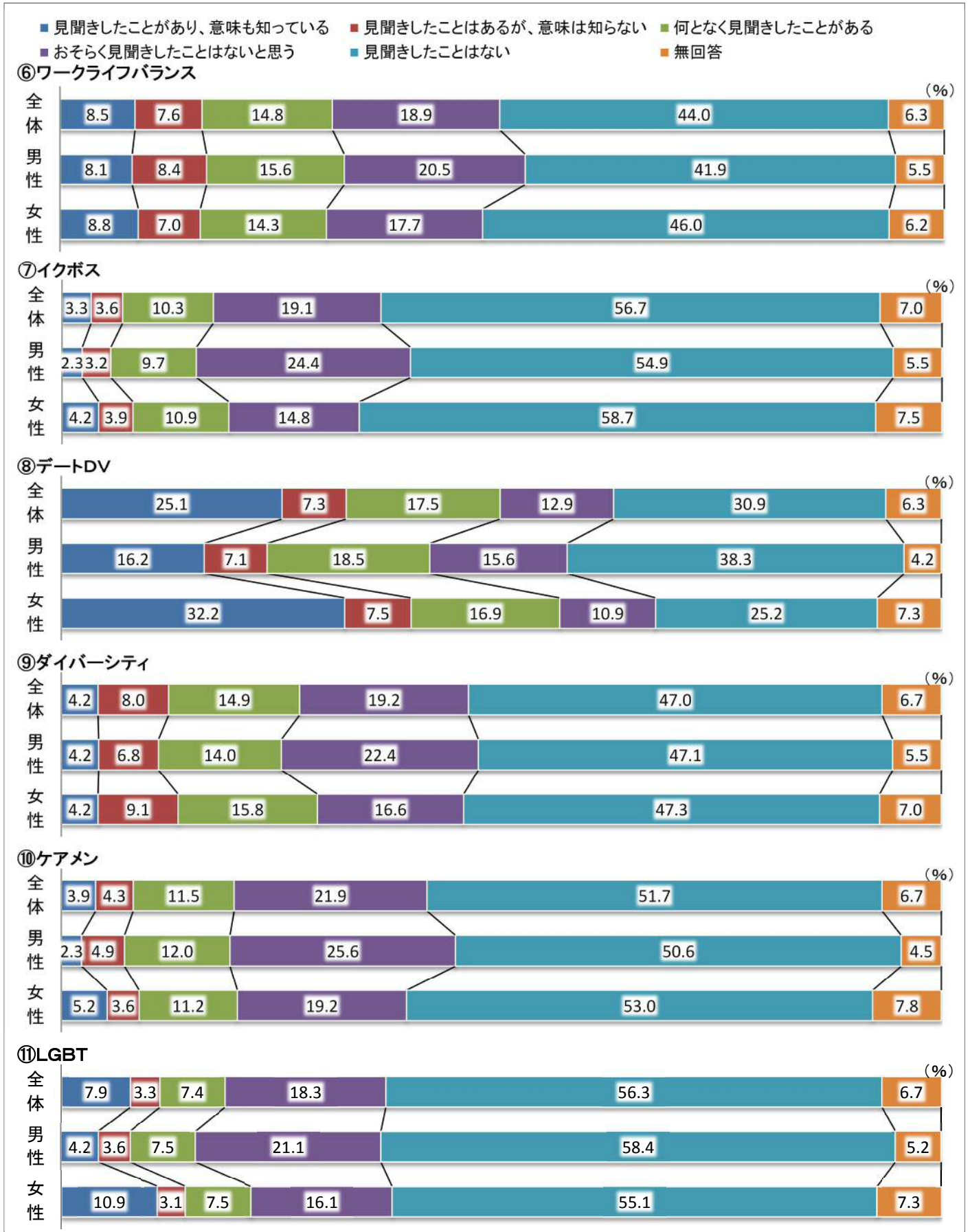
①～⑤のそれぞれの項目について、あてはまる番号に○をつけてください。

【図45】

■図45-1 男女別の構成比



■図 45-2 男女別の構成比



#### ■図 45 男女別の構成比

各項目別で、全体・男性・女性ともに「見聞きしたことがあり、意味も知っている」・「見聞きしたことはあるが、意味は知らない」・「何となく見聞きしたことがある」（以下、「見聞きあり」と表記）の比率が多くなっている項目は、①男女平等（共同）参画社会と②一億総活躍社会の2項目となっています。

また、「おそらく見聞きしたことはないと思う」及び「見聞きしたことはない」（以下、「見聞きなし」と表記）の比率が多くなっている項目は、③苫小牧市男女平等参画都市宣言、④日本女性会議2017 とまこまい、⑤ジェンダー、⑥ワークライフバランス、⑦イクボス、⑨ダイバーシティ、⑩ケアメン、⑪LGBTの8項目となっています。

⑧デートDVについては、全体と女性は「見聞きあり」の比率が多くなっていますが、男性は「見聞きなし」の方が比率が多い結果となりました。

### Ⅲ 意見・要望

#### 男女平等参画社会の推進についての意見・要望

- ◆男女平等と、日本人が言わなくて良い日本で有りたい。一生懸命に今、男女平等参画の勉強をしているが、外国人から見ても男女平等の日本人になってきていると思える日本人で有りたい。要望“希望” (女性・70 歳代)
- ◆子育てをする上で、まずお金が必要なので、夫婦のどちらか給与の高い方が働き続けて、低い方が家事・育児をするパターンがほとんどであると思う。常勤で働いていると時間が仕事に取られてしまうので、家の事がなかなか出来ない。長時間の就業を規制してしまう方法があれば、男性の育児参画は増えると思う。女性の負担も減る。育児休業は競争社会の中で取ることはできない。 (男性・30 歳代)
- ◆男女平等参画都市を宣言しているのでもう少し積極的に市民に具体的なアクションを興したら良いと思います。 (男性・70 歳代)
- ◆小規模企業への講演会やセミナーの開催等をより多くした方がよいのではないのでしょうか。特に女性1～2人雇用会社(管理組合)にマタハラ・パワハラは多いような気がします。前職場にての経験上です。 (女性・60 歳代)
- ◆男女が正しい姿勢でコミュニケーションできる機会を増やすことが、互いの理解を深め、社会的平等な男女参画を促すことができると考えます。学校教育や職場・家庭等で啓蒙促進することを行政が中心に進めて頂きたいと存じます。 (男性・40 歳代)
- ◆動き出すのが遅いと思います。困っている人たくさんいると思います。 (女性・50 歳代)
- ◆社会を変えていくには、若い世代からの教育が必要と考えています。共働き世帯が増え、女性が働きながら子育てしている家庭も多い現代ですが、家事役割分担では女性の比重が大きく、負担は大きい現状です。女性の得意な分野ということで家事の負担が大きいということもありますが、短時間制度やフレックス制度など、女性が仕事と子育ての両立をしやすい制度の充実に期待しています。イクメン・イクボス…それぞれ個人個人ではなかなか社会まで変わらないと思うので、イクメンネットワーク等、友人や同僚等、身近なネットワーク作りも必要かと感じています。 (女性・30 歳代)
- ◆働く賃金に対して、男より女の方が少ない。働く主婦と専業主婦では、専業主婦の方が楽だという男性の考えは間違っている。男性も家事・育児を手伝うべきだ。(家事→自分もご飯を食べる、育児→自分の子供だから)  
手伝うというよりやるべきだ、全国の男達!!衣食住→自分は仕事さえすればいいという考えは、あまりにも自分勝手である。 (女性・30 歳代)
- ◆政治や国の仕組みが確立されない状態で地方が頑張っても、なかなか浸透しないと思う。また、地方では役所の掛け声倒れに終わっている。役所姿勢と一般市民の考え方や行動のレベルが違いすぎる。 (男性・70 歳代)
- ◆このような調査をしても何の意味もないと思います、ムダです。 (女性・40 歳代)

- ◆ 50代以上の意識改革が必要。 (女性・50歳代)
- ◆ 個々の意識の違いだとは思いますが、日本はまだ“男性は仕事をして、女性は家事・育児・介護をする”のが当たり前という考えが残っているのではないかと思います。好きで働いている方ならいいのですが、働かざるを得ない女性にとってもう少し優しい社会であればいいと思っています。私も、子供の幼稚園代を稼ぐ為に働いております。子供が具合悪くなった時に仕事を休むのはやっぱり女性なんですよね…。 (女性・40歳代)
- ◆ 個人の意識の問題なので、困った時に頼れる窓口が分かりやすければそれで良いと思う。とりあえず、何も困ってない時に大量の質問をされても答えようがない。 (女性・30歳代)
- ◆ 男女はどのようにしても平等にはなりません。まず男性がしっかり働ける社会を作るべき。女性の活躍も大事ですが、色々な制度の問題でパート収入にも上限があるし、社会保障制度の今後が安定してないから、女性ももっと働きたいはずなんです…。 (女性・30歳代)
- ◆ お互い一人の人間であるということを尊重することです。そうすれば、男とか女とかの差別はなくなると思います。 (男性・70歳代)
- ◆ 女性が仕事を持つことは悪いことではないし、“子育てをしながら両立をすること”はたくさんの方がしていることです。私もその中の1人です。仕事は好きです。生活の為にお金は必要です。働ける職場があります。それは幸せなことかもしれません。かわいい子供のためにはいくらでも頑張れます。夫の協力もあります。しかし、子供との時間が少ないことに、いつも寂しい思い・罪悪感を感じながら生活しています。小さいうちはママとの時間が大切だと思います。専業主婦のママ、パートタイムのママ、拘束時間(仕事)の時間が短いと羨ましいですが、うちには生活費が必要なのでフルタイムの仕事は絶対必要です。優先順位を考えて、今が1番なのだと思います。ママがもっと子育てに不安を考えず生活できるような社会になったらいいですね。 (女性・30歳代)
- ◆ 男女の差別と区別の違いを理解することが必要だと思う。 (男性・40歳代)
- ◆ 理想と現実のギャップ、働く方の平等を希望する事は良い事だと思います。働いてない専業主婦や子供のいない方は、自分には無関係な話にしか聞こえない。何かあれば、子育て支援だの、それこそ平等ではない気がしてならない。(子供のいない人間の一人として)税金等、多く支払っているのに、守られてない気がしてならない。 (女性・50歳代)
- ◆ 男女平等参画を進めるのは大切な事ですが、一般企業ではギリギリの従業員数で必死に労働し、有給休暇を取得するのもままならない現状もあり、職場の意識改革が特に必要であると思う。 (男性・50歳代)
- ◆ どのような活動かピンときません。不平等を感じる場にはないのであまり意見は言えませんが、昔ながらの格差社会であるならば、まずはコミュニケーションの取りやすい場を設ける事が大切かと思います。家族や近所には言えない事もあるでしょうし、社会の問題は身近な人とのコミュニケーションから分かち合えるとも思います。色々な場の設定とオープンな情報を！ (女性・50歳代)



- ◆50代の女性で仕事がしたいのですが、ハローワーク等の情報だけでは出来る仕事がありません、というよりも分かりにくい様に感じます。若者向けは大体職種でわかりますが、いざこの年齢だと、一歩つつこんでみる手もありますが、何度もダメでした。(女性・50歳代)
- ◆いくら上辺だけ男女平等の世の中になっても、女性の出産、完全な男社会・女社会が存在する限り平等にはならない。何処から何処までを男女平等にするのか?(男性・30歳代)
- ◆難しい用語等もあり、知りません。でも何かとインターネットでとか、ホームページでという広告・宣伝には不満を感じています。(女性・60歳代)
- ◆私は精神の障害を持っていますが、障害を持っておられないとされる方々にこそ多くの助けを持っていれば、世間のギスギスした感じも薄らぐのではないか?と思っています。助けられない事も問題ですが、助けてくれる人が誰もいないと感じる今もサミシイ感じを受けます。(男性・30歳代)
- ◆異性に対するパワハラより、同性に対するパワハラをよく見る。女性の上司は感情で仕事することが多いので、女性の上司の研修や教育を徹底してほしい。(女性・30歳代)
- ◆男女平等というが、近年女性の方が優遇される傾向になってきている感じに思う。女性ばかりではなく、男性にもそれなりの優遇が必要だと思う。(男性・30歳代)
- ◆このアンケートが届くまで、男女平等参画という言葉を知りませんでした。広報も毎月目を通していましたが…。今度、講座があれば出てみたいと思います。(女性・50歳代)
- ◆この参画と、DVや性犯罪防止とは何ら関係ないと思います。男女平等参画という事が話題になってきているが、従来進められてきた日本の男女平等は今ままで全く問題ないと思っている。男は外で仕事をし収入を得てくる、女は家庭を守り子供の育児に家計にと役割分担されているのが、本来の姿だと思っている。それを、女が家庭を持っていながら外で働くという事が増加する時代になり、子供のいじめや暴力犯罪等の問題悪化し、未成年者の事件が激増する世の中になってきている。私はこういう方向性は大反対である。男は外で仕事、女は家庭を守るのが仕事であって、それが男女平等という事である。共に外で仕事をするのが平等という見方は間違っている!(男性・60歳代)
- ◆男女の括りではなく、「人」が「人」同志としてお互いを尊重できる社会になる為には、小さな頃から相手の気持ちや自分の気持ちを知ったり、推し量ったりする力をつける必要があると思います。(女性・30歳代)
- ◆働いている職場(会社)が理解してほしい。(男性・50歳代)
- ◆男女平等参画運動という事をしたいが、あまり知られていない。意味がわからない。(女性・60歳代)
- ◆会社の重役等、40歳以上の年齢の人達は男女平等に対する意識が低いと思います。昔の人の考え方なので、女性は結婚・出産したら家庭に入るべきだという考え方を遠まわしに言われ、職場復帰しにくかったり、復帰しても短時間勤務や保育園が休みの土日でも出勤しなければならなかったり、仕事と家事・育児をする事の大変さをわかってもらえない。(女性・30歳代)

- ◆子供が小学生に上がると、1年生の初めの方に午前授業があるので、仕事を辞めなくてはいけなくなる女性が多いです。その短い期間の為に仕事を辞め、普通の授業になるとまた新しく仕事を探して働く人が多いです。子供に合わせて働こうと思うと、仕事の幅が狭くなってしまい、スーパーで働くと土日の休みが取れないことが多く、家族の時間が減ってしまう等今はまだ仕事と家庭の両立が難しいと思います。 (女性・30歳代)
- ◆出産後、母親教室は知らせてくれるが、父親(パパ)のための子育て講座などをもっと知らせて欲しい。個別に郵便物を送るなど男性にも積極的な休み希望と実現を叶えて欲しい。残業しても反映されない。 (女性・20歳代)
- ◆「男女平等」は良く解るが、少子化問題・貧富の差が多い現在、男女平等だけを取上げても何も解決にはならない。私は現役時代民間であり、民間では非常に難しいのでは？公務員(国家・地方)の仕事の仕組、人数などは考えられる現状にある！ (男性・60歳代)
- ◆機関紙等があれば見てみたい。機関紙等はどこで入手出来るか不明。 (男性・60歳代)
- ◆今現在、相談しに市役所に通ってます。これからの対応期待しており (女性・40歳代)
- ◆ご苦労様です。協力になりますでしょうか？知らぬことも多く、恥ずかしいです。これを機に少し勉強を致します。ありがとうございました。 (女性・50歳代)
- ◆もっと若者に厳しくした方が良い！男にも、もっと色々と色んな所で何かを提供してもらいたい(サービス等などを) (男性・20歳代)
- ◆仕事と両立の介護は大変です。お金がない者は、家で介護するしかないと言われている世の中、家族に負担・迷惑をかけたくないです。生活保護者の方が入る施設はあるみたいで…介護制度・認定条件を見直し、施設を充実してもらいたい。子供が病気に(熱があると保育園はダメ)…大企業は休みが取れるが、小さな企業は休みづらいし企業側も困る…施設を充実したら女性もどんどん社会で頑張っていけると思う。 (女性・60歳代)
- ◆女性とのコミュニケーションはかなり気を使う。男性の立場も考え、行動してもらいたい。すぐに、セクハラ・パワハラとなる。又、男女平等は自分は厳しいと思う。育児は分担できるが、出産はできない。職場から離れるのは、メンバーからするとかなり負担が大きい！ (男性・30歳代)
- ◆男女平等は？男性は仕事、女性は家庭と子供を守る事。 (女性・70歳代)
- ◆現在の日本は、大まかに見て、利便性向上に走り過ぎて、心を育てる教育(家庭・学校・社会)がむしろ遅れてきているように思われます。まず、人を育てる基盤を社会全体で作りに上げていきながらの男女平等参画となってほしいと願います。合掌。 (女性・60歳代)
- ◆目的がよくわからない。 (男性・60歳代)
- ◆男性・女性と決めず、正しく見極める事だと思う。 (女性・60歳代)

- ◆市の会報や町内会の回覧等で、毎月テーマを決めて周知してもらおう。ポスターを掲示してもらい、知ってもらおう（事務所等）コミセン等でセミナーをやってもらおう。放送局等で特集を組み、放送してもらおう。 (男性・50 歳代)
- ◆一市民の声を聞くのは大事な事だと思います。取り組み頑張ってください。汚い話ですが、協力者（企業を含む）に少なからず報酬を出すと、もっと真剣に向き合うかと思っています。 (男性・30 歳代)
- ◆いつの時代も女性が弱い立場とか、社会的に不利として取り上げられていますが、最近では男女の立場が逆転していると思う程、女性に対する社会的環境は良くなってきていると思います。男女平等の世を進めるのであれば、女性が下と決め付けたような内容ではなく、その逆もあるのでは、と思考の幅を広げての取組みを願っています。 (男性・40 歳代)
- ◆子育て中に、室蘭から苫小牧へ移住しました。来てビックリしたのは、地域性なのか、女性の職場内での子育て中に働いている人に対する思いやりがない事でした。室蘭時代は、周囲に恵まれていたのだと感じました。結婚・出産による離婚率の高さは、職場内の思いやりの無さが原因だと思います。皆で支えあえるような人となっていけるよう意識改革が必要であると思います。 (女性・50 歳代)
- ◆気長に取り組む必要があると思いますが、社会（国家）、行政（地方自治体）、家庭、家族、個人（男女）それぞれの位置・立場等での取組みがあると思うので、少しずつでも法整備や社会環境の整備、そして個人の意識改革を進め、会社全体が改善して行く様に望みます。宜しくお願いします。 (男性・50 歳代)
- ◆ネットの普及で、色々世の中おかしくなってる気がする。別に平等でなくて、その人が出来ることをやればいいと思う。男でも女っぽい人、女でも男らしい人いるのでね。 (男性・30 歳代)
- ◆女性の社会参加は個人の自由だが、子供の躰などが軽視されていると思う事が多い。自分のキャリア、生きがい大事な人は、産まない方が良くとすら感じる人もいる。いずれ国を支える人材を育てるという意識が、社会全体を見ても低くなってきている。いくら自分が輝いても、将来を担う子供をまともに育てていないのであれば、本当の意味での社会参加にならないのでは？と言いたい。 (女性・40 歳代)
- ◆集計お疲れ様です。アンケート結果は何かで発表されますか？具体的にこのアンケートが、どのように生きるのかということはわからなかったです。（積極的な取組みの進め方も） (女性・50 歳代)
- ◆小学生の頃から男女平等で互いを尊重する教育を進めて行って欲しいです。女は、結婚したら仕事を辞め家庭に入り子供を産み育て、成人したらパートに出て（仕事をしながら）今度は親の介護をするというサイクルの時代は変えなければいけないと思います。 (女性・50 歳代)
- ◆大いに積極的に進めるべきだ。少子化対策を真剣に実施し、国・地方の発展維持に努めることが肝要である。 (男性・70 歳代)
- ◆全て男女平等は難しいと思いますが、平等を目指すことを考えると、やはり小学生時期から男女がコミュニケーションや様々な状況を想定し、出来る事・出来ない事を話し合い、そうした話し合いの中で男女平等の気持ちを見出す方法は如何なものでしょうか。家族でのコミュニケーションが大事と考えます。 (男性・60 歳代)

- ◆難しく、的確な解答が出来ませんでした。すみません。(女性・70 歳代)
- ◆男女平等とうたっている時点で、平等にはなっていない印象を受けます。出来る事が男女では違うので、何でもかんでも平等に…とはいかなくて当たり前。良くしようという気持ちでいろいろな年代・仕事・立場の人からの話を聞く場を持つてみると、色々な角度から話が広がるのではないのでしょうか。宜しくお願いします。(女性・40 歳代)
- ◆少子化対策というけれど、一番最初に保育所を増やすべきでは。これから産まれてくる事も大事だけれど、保育所に入れず働けない女性も多い。私の周りにも、4才になっても保育所に入れない子がいます。同世代の子と触れ合えず小学校に入学したら…と思うと、かわいそうになる。幼稚園では高いし、働けないし。だから保育所が必要。(女性・30 歳代)
- ◆役所で進めてください。(男性・60 歳代)
- ◆子供を安心して預ける事ができる保育園、幼稚園、児童クラブをもっと充実させてほしい。そして、預けても料金が高いと働いても生活は厳しくなるので、預ける料金をもっと低くして欲しい。(女性・30 歳代)
- ◆日本は先進国の中で最下位に近い国。もっと国が力を入れるべきです。口先だけでは何も進歩しません。地方からといますがお金がかかります。国へ訴えながら、いろいろ出来る事を考えていく事が大事だと思います。協力できる事はしていきたいと思っております。(女性・70 歳代)
- ◆家の中で起こっていることは、人に相談しづらい上、役所に話しても聞いてもらうことしか出来ません。電話で相談が出来るメモなどトイレに置いてあることが多いので、色んな所に増やしてほしい。(女性・30 歳代)
- ◆子どものひとりがハンディキャップをもっており、最近まで子育て(介護?)中心の生活でした。DVシェルターのお手伝いもちょっとだけしたこともあり、現在は学童保育のお手伝いをしています。通して思うことは、介護制度の充実を進めると、多くの事業所のヘルパーさんはシングルマザーの人が少なくはなく、祝日出勤などで子育てがままならない家庭がたくさんあります。育つ子どもたちも、その影響は大きいものです。もう少し子どもに手をかけられるのなら、この子は良く伸びるのと思う子がたくさんいます。以前、苫小牧は母子家庭が多い街と聞きました。母子手当などは評価していますが、女性の負担軽減のはずが立場の違う女性の負担になり、その中で育つ子どもの環境をもっと直視してほしいです。(女性・40 歳代)
- ◆そもそも何をする所なのかわからない。(女性・30 歳代)
- ◆男女ともに生活(時間・お金)にゆとりがあることが、何より大切だと思います。貧困や格差がある社会では、男女平等は難しいと思うし、根本的には性的少数者も含め全ての人の人権を(幸せになる権利も)大切にする社会を目指すことが、みんな平等に社会に参画できることに繋がると思います。(女性・50 歳代)

- ◆男女平等参画は？って感じです。もう少し積極的に働きかけてみてはどうですか？私はあまり男女平等と考えたことはありません。やれる人がやればいい…私はきっと今どきの人ではないのかもしれませんが。(女性・40 歳代)
- ◆このような調査をしたのであれば、無駄にせず、少しでも住みやすい社会になるよう取組んで下さい！(女性・30 歳代)
- ◆種々の制度があることは知っていましたが、沢山の制度を初めて聞きました。どの様な制度なのか、社会人の皆さんは知っているのか気になります。TVや雑誌などのメディアの方から知識を得てしまい、その結果が会社への不満、会社への居にくさにつながるのではないかと考えています。もっと会社・企業が積極的に制度の説明を行うことにより、更に男女が平等となる社会につながるのではないかと思います。(女性・20 歳代)
- ◆男女平等と言っても体の作りが違いますし、現在は女性の方が何かにつけて優遇されていると思います。(女性・70 歳代)
- ◆女性が結婚して子供を産んでからも安心して働ける様に保育園や育児休暇の充実など、これから結婚する人たちも安心して結婚・出産が出来る様、充分な制度を作ってほしいです。(女性・50 歳代)
- ◆結婚後、特に子供が出来てからの家庭環境を、夫婦の間や労使の間で整備できれば問題なく男女平等の世の中になると思います。国は子育てのための保育園の増設や企業への助成等、もっと積極的に取り組むべきです。アンケートの内容ですが、年齢別・家庭環境・職場環境等々で大きく変わると思うので検討願います。(男性・60 歳代)
- ◆男女同じと云う事はない。古い考えかも知れませんが、男には男しか出来ない事も有る。女には女でなければ出来ない事も有る。それぞれの役割が有る。一言に男女平等ばかり云う。自分の都合の良い方に持って行く、良くないと思う。例えば、男にはお産は出来ない、オッパイも飲まされない。女が赤ちゃんをしっかりと育てる。しつけも小さい内に愛情かけて…自分の事ばかり考え子育てするから、大人に成っても何か足りない。思う様に成らなければ人を殺しても平気。毎日どこかで殺人事件が報道されて、本当に嫌な世の中になりました。(女性・70 歳代)
- ◆男女平等という設定…全てを男女平等と考えるにあたり、それぞれの適合したものがあり、何から何まで単に平等と考えるのは無理があるのではないか？それぞれに見合った内容で良いのではないか？何に対しても不満を言う一部の人によって、自分のやっている考えに対する不満を持ち出して欲求ばかり言っているように思われる。本当の平等とは何かを考える必要あり。(男性・60 歳代)
- ◆働くということは、人生を送る上での1つの「生きがい」になると思います。女性が子供を産み、家庭で育児をしていく環境を整えていくためには、職場の理解であったり、法律そのものの見直しが必要かもしれません。日本は高齢社会ですが、女性が子供を産んだ後も安心して生活ができるような労働環境(男性も含めて)給与面などが無いと人口も増えていかないとします。(男性・30 歳代)

◆男女平等とか言ってるけど、最近レディースデーとか女性メインで男性は蚊帳の外な感じがする。友達が以前電車で痴漢したと疑われ、やりもしていないのに証拠が無い為に捕まる一歩手前まで行きました。結局女性の勘違いで済みましたが、わざと男をハメようとしてくる女性もいると聞きました。そういう女性に対しても、しっかりとした罰を与えるような制度を充実させて下さい。最近の女性ひいきには驚いています。(男性・20歳代)

## Ⅳ 調査票

### 男女平等参画に関する市民意識調査

該当する番号に○をつけてください。

※ 一部の設問中に用語の解説を入れておりますが、用語の定義には諸説あるため、一般的な意味を記載しました。



**あなたご自身のことについてうかがいます。**

問1 あなたの性別はどちらですか。(○は1つ)

- |      |      |
|------|------|
| 1 男性 | 2 女性 |
|------|------|

問2 あなたの年齢はどれにあたりますか。(○は1つ)

- |        |        |        |
|--------|--------|--------|
| 1 20歳代 | 2 30歳代 | 3 40歳代 |
| 4 50歳代 | 5 60歳代 | 6 70歳代 |

問3 あなたは結婚(事実婚含む)をしていますか。(○は1つ)

- |                             |
|-----------------------------|
| 1 結婚している(事実婚を含む)            |
| 2 結婚していたが、現在はしていない(離別・死別など) |
| 3 結婚したことはない                 |

問4 問3で「1 結婚している」を選択した方にうかがいます。

夫婦(パートナー)はともに働いていますか(非常勤・パート・アルバイトなどを含む)。(○は1つ)

- |              |                 |
|--------------|-----------------|
| 1 共働きである     | 2 どちらか一人だけ働いている |
| 3 どちらも働いていない |                 |

問5 あなたの世帯構成はどれにあたりますか。(○は1つ)

- |               |                   |
|---------------|-------------------|
| 1 一人暮らし       | 2 夫婦またはパートナーと二人のみ |
| 3 親と子の二世帯世帯   | 4 親と子と孫の三世帯世帯     |
| 5 その他(具体的に： ) |                   |

問6 あなたの職業・立場はどれにあたりますか。(○は1つ)

- |                 |                      |      |
|-----------------|----------------------|------|
| 1 勤めている(常勤)     | 2 勤めている(パート、アルバイトなど) |      |
| 3 自営業           | 4 家事専業               | 5 学生 |
| 6 無職(就業を希望している) | 7 無職(就業を希望していない)     |      |
| 8 その他(具体的に： )   |                      |      |

**男女平等に関する意識についてうかがいます。**

問7 あなたは、現在、次にあげるような場面で、男女の地位などは平等になっていると思いますか。(1)～(8)のそれぞれの項目について、あてはまる番号に○をつけてください。(各項目に○は1つ)

	男性が優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	差はない(平等である)	どちらかといえば女性が優遇されている	女性が優遇されている	わからない
(1) 家庭生活	1	2	3	4	5	6
(2) 仕事の間	1	2	3	4	5	6
(3) 学校教育	1	2	3	4	5	6
(4) 地域活動	1	2	3	4	5	6
(5) 政治や行政	1	2	3	4	5	6
(6) 法律や制度	1	2	3	4	5	6
(7) 社会通念・慣習	1	2	3	4	5	6
(8) 社会全体	1	2	3	4	5	6

問8 「男性は仕事、女性は家庭」という考えについて、あなたはどのように思いますか。(○は1つ)

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	わからない
「男性は仕事、女性は家庭」という考え	1	2	3	4	5



問9 家庭での役割分担について、あなたの家庭ではどのようになっていますか。(〇は1つ)

- |    |                                    |
|----|------------------------------------|
| 1  | 男性は仕事、女性は家事・育児を分担している              |
| 2  | 女性は仕事、男性は家事・育児を分担している              |
| 3  | 男女とも仕事をし、家事・育児は主に女性が担っている          |
| 4  | 男女とも仕事をし、家事・育児は主に男性が担っている          |
| 5  | 男女とも仕事をし、家事・育児も男女で分担している           |
| 6  | 男女とも仕事をし、家事・育児は第三者（親族やヘルパー等）の協力がある |
| 7  | 男女とも無職で、家事・育児は主に女性が担っている           |
| 8  | 男女とも無職で、家事・育児は主に男性が担っている           |
| 9  | 男女とも無職で、家事・育児は男女で分担している            |
| 10 | 役割分担はしていない（特に決めていない場合も含む）          |
| 11 | 仕事も家事・育児もすべてひとりで担っている（単身者含む）       |
| 12 | 男女ではなく、親と子で分担している                  |
| 13 | その他（具体的に： _____ )                  |

問10 次の(1)～(10)の役割について、あなたのご家庭では主に誰が担っていますか。(各項目に〇は1つ)

	主に男性 (夫、息子、 父など)	男性も女 性も同程 度	主に女性 (妻、娘、母 など)	わからな い	決めてい ない
(1) 生活費を得る	1	2	3	4	5
(2) 生活費の管理	1	2	3	4	5
(3) そうじ	1	2	3	4	5
(4) 洗濯	1	2	3	4	5
(5) 食事の支度	1	2	3	4	5
(6) 食事の後片付け	1	2	3	4	5
(7) 子育て	1	2	3	4	5
(8) 介護・看護	1	2	3	4	5
(9) 地域活動	1	2	3	4	5
(10) 近所付き合い	1	2	3	4	5

問1 1 家庭での役割分担について、あなたはどうかあるべきだと思いますか。

(○は1つ)

- |    |  |   |
|----|--|---|
| 1  | 男性は仕事、女性は家事・育児を分担する                    |   |
| 2  | 女性は仕事、男性は家事・育児を分担する                    |   |
| 3  | 男女とも仕事をし、家事・育児は主に女性が担う                 |   |
| 4  | 男女とも仕事をし、家事・育児は主に男性が担う                 |   |
| 5  | 男女とも仕事をし、家事・育児も男女で分担する                 |   |
| 6  | 男女とも仕事をし、家事・育児は第三者（親族やヘルパーなどのサービス）に任せる |   |
| 7  | 役割分担はしない（特に決めないという場合も含む）               |   |
| 8  | 仕事も家事・育児もすべてひとりで担う（単身者含む）              |   |
| 9  | 男女ではなく、親と子で分担する                        |   |
| 10 | わからない                                  |   |
| 11 | その他（具体的に：                              | ） |

問1 2 あなたは、男性と女性がともに、家事・子育て・介護・地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。

(○はいくつでも)

- |   |  |   |
|---|--|---|
| 1 | 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかる                  |   |
| 2 | 労働時間短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間をより多く持てるようにする |   |
| 3 | 男女ともに家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう、啓発や情報提供を行う  |   |
| 4 | 国や地方自治体の研修等により、男女ともに家事や子育て、介護等の技能を高める    |   |
| 5 | 男女ともに子育てや介護、地域活動を行うためのネットワークを作る          |   |
| 6 | 家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、男女ともに相談しやすい窓口を設ける |   |
| 7 | 事業所の協力のもと、男女ともに仕事と家庭の両立を支援する体制を整備する      |   |
| 8 | 特に必要なことはない                               |   |
| 9 | その他（具体的に：                                | ） |



**女性の就労についてうかがいます。**

問13 あなたは、次にあげるような項目で、男女は平等になっていると思いますか。(1)～(6)のそれぞれの項目について、あてはまる番号に○をつけてください。(各項目に○は1つ)

	男性が優遇されている	どちらかといえば男性が優遇されている	差はない(平等である)	どちらかといえば女性が優遇されている	女性が優遇されている	わからない
(1) 雇用形態	1	2	3	4	5	6
(2) 賃金	1	2	3	4	5	6
(3) 昇進・昇格	1	2	3	4	5	6
(4) 能力の評価	1	2	3	4	5	6
(5) 仕事内容	1	2	3	4	5	6
(6) 研修等を受ける機会	1	2	3	4	5	6

問14 あなたは、女性の仕事と家庭の関わりについて、どうあるべきだと思いますか。(○は1つ)

- 1 結婚や出産にこだわらず、仕事を続けるべきだと思う
- 2 結婚や出産後は仕事をやめ、育児が一段落した後、再び仕事に就くべきだと思う
- 3 結婚を機会に仕事をやめ、家事に専念すべきだと思う
- 4 出産を機会に仕事をやめ、家事に専念すべきだと思う
- 5 女性は仕事に就かないほうがよいと思う
- 6 各自で自由に決めればよいと思う
- 7 わからない
- 8 その他(具体的に: )

問15 あなたは女性が仕事をもつことについてどう思いますか。(○は1つ)

- 1 仕事をもたない方がよい
- 2 結婚するまでは、仕事をもつ方がよい
- 3 子どもができるまでは、仕事をもつ方がよい
- 4 子どもができたら仕事を辞め、子どもが大きくなったら再び仕事をもつ方がよい
- 5 仕事をもち続ける方がよい
- 6 各自の自由でよい
- 7 その他(具体的に: )

問16 あなたは、女性が仕事をもち続けていく上で、障害になると思われることはどれですか。(〇はいくつでも)

- |    |                             |
|----|-----------------------------|
| 1  | 男女がともに家事や育児、介護にかかわるという意識がない |
| 2  | 育児・介護休業制度が不十分である            |
| 3  | 労働条件が整っていない                 |
| 4  | 保育施設の数や内容が不十分である            |
| 5  | 企業が結婚・出産した女性を敬遠する傾向がある      |
| 6  | 家族の理解が得られにくい                |
| 7  | 職場の理解が得られにくい                |
| 8  | 男性に比べて賃金が安く、職種も限られている       |
| 9  | 女性自身の職業に対する自覚が不足している        |
| 10 | 障害は特にない                     |
| 11 | その他(具体的に： )                 |

問17 働いている女性にうかがいます。

あなたは、職場において、どのようなことにストレスを感じますか。  
(〇はいくつでも)

- |   |                               |
|---|-------------------------------|
| 1 | 長時間労働や休日出勤                    |
| 2 | 職場の人間関係(セクハラ・パワハラ・マタハラ等以外)    |
| 3 | 職場の人間関係(セクハラ・パワハラ・マタハラ等に関する事) |
| 4 | 家庭との両立                        |
| 5 | 労働条件(雇用形態・賃金等を含む)             |
| 6 | 自分のキャリアアップに対する不安              |
| 7 | 仕事に対して周囲から期待されること(プレッシャー)     |
| 8 | ストレスは特にない                     |
| 9 | その他(具体的に： )                   |

※「セクハラ」とは、セクシャルハラスメントの略で、職場などで、相手の意思に反して不快や不安な状態に追い込む性的・差別的な言動のこと。

※「パワハラ」とは、パワーハラスメントの略で、仕事上の上下関係や権利関係を不当に利用することにより、繰り返し精神的・身体的苦痛を与え、結果として同じ職場で働く人の人権や尊厳を侵害する言動のこと。

※「マタハラ」とは、マタニティハラスメントの略で、働く女性が、妊娠・出産・育児などを理由として、解雇や降格、自主退職を強要されるなど、職場で精神的・身体的苦痛を受けたり、不利益を受けたりする言動のこと。

問18 あなたは、これから女性が働きやすい環境をつくるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

- 1 男性の家事・育児・介護への参加を進める
- 2 長時間労働を見直すなど男性の働き方を変える
- 3 女性が働ける職場の増加や職業紹介を充実する
- 4 昇進、昇格や管理職登用の格差をなくす
- 5 パートタイムなどの女性の労働条件を向上する
- 6 再就職を希望する女性のための講座、セミナーを充実する
- 7 出産後も職場復帰できる再雇用制度を充実する
- 8 保育所や学童保育(児童クラブ)などの育児環境を充実する
- 9 育児・介護休業制度などの普及を図る
- 10 職場の意識改革などについて、企業に対する働きかけを行う
- 11 事業所内保育施設の整備を促進する
- 12 特に必要なことはない
- 13 その他(具体的に: )

**育児休業制度についてうかがいます。**

問19 育児休業制度について知っていますか(〇は1つ)

- 1 よく知っている
- 2 聞いたことがあり、内容もまあ知っている
- 3 聞いたことはあるが内容は知らない
- 4 全く知らない

問20 現在、勤めている方(非常勤・パート・アルバイト等を含む)にうかがいます。育児を要する家族がいる場合、育児休業の取得について、どのようにしたいと考えていますか?(〇は3つまで)

- 1 育児休業を取得したい
- 2 有給休暇などを取得して対応したい
- 3 仕事をなるべく休まずに、短時間勤務や時差出勤などで対応したい
- 4 保育所などの施設や第三者による託児サービスなどを利用したい
- 5 自分と家族で助け合って対応したい
- 6 家族に任せたい
- 7 特に考えてはいない
- 8 その他(具体的に: )

**介護についてうかがいます。**

問21 あなたと同居している家族の中に、介護を受けている人はいますか？  
(○は1つ)

- |      |       |
|------|-------|
| 1 いる | 2 いない |
|------|-------|

問22 問21で「1 いる」と答えた方にうかがいます。

介護を受けている人からみて、主に介護を担っている人は、どなたですか？(○はいくつでも)

- |                        |      |         |          |
|------------------------|------|---------|----------|
| 1 配偶者(事実婚含む)           | 2 母親 | 3 父親    |          |
| 4 娘                    | 5 息子 | 6 娘の配偶者 | 7 息子の配偶者 |
| 8 ホームヘルパーなどの在宅介護サービス   |      |         |          |
| 9 特別養護老人ホームなどの施設介護サービス |      |         |          |
| 10 同居していない親族           |      |         |          |
| 11 その他(具体的に： )         |      |         |          |

問23 あなたは、介護休業制度を知っていますか。(○は1つ)

- |                    |                       |
|--------------------|-----------------------|
| 1 よく知っている          | 2 聞いたことがあり、内容もまあ知っている |
| 3 聞いたことはあるが内容は知らない | 4 全く知らない              |

問24 あなたは、介護休業制度を利用したことがありますか。(○は1つ)

- |      |      |
|------|------|
| 1 ある | 2 ない |
|------|------|

問25 問24で「2 ない」を選んだ方にうかがいます。

あなたが介護休業制度を利用しなかった主な理由はどれですか。

(○は1つ)

- |                                     |
|-------------------------------------|
| 1 介護を受けている家族がない                     |
| 2 仕事と介護の両立ができたので必要なかった              |
| 3 主な介護負担者が仕事をしていなかったため必要なかった        |
| 4 主な介護負担者が仕事をやめた                    |
| 5 介護認定や雇用形態上の条件で対象とならなかった           |
| 6 介護休業中の賃金が出ないため利用しなかった             |
| 7 取れる雰囲気ではなかった(取った人が居ない、代わりの人が居ない等) |
| 8 その他(具体的に： )                       |

問26 あなたは、介護と仕事を両立するために、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

- 1 長時間労働の削減などの働き方の見直し
- 2 介護休業制度の周知と徹底
- 3 介護休業を取得している従業員がいる企業への補助制度の充実
- 4 介護休業取得条件の緩和
- 5 介護保険制度の見直し(介護認定条件など)
- 6 介護施設の充実
- 7 転勤等の勤務地の配慮
- 8 介護休業中の手当の充実
- 9 特に必要なことはない
- 10 その他(具体的に: )

**パートナーからの暴力等についてうかがいます。**

問27 あなたはこれまで配偶者(事実婚や離別・死別を含む)や恋人などのパートナーから、次のような行為を受けたことはありますか。(〇はいくつでも)

- 1 身体的な暴力を受けた
- 2 ことばの暴力を受けた
- 3 嫌がっているのに性的行為を強要された
- 4 避妊に協力しなかった
- 5 見たくないのにポルノ雑誌やビデオを見せられた
- 6 何を言っても無視をされつづけた
- 7 電話・電子メール・郵便物をチェックされた
- 8 大声で怒鳴られた
- 9 物を投げられた
- 10 生活費を渡さないなど、経済的に抑圧された
- 11 受けたことはない
- 12 その他(具体的に: )



問28 ドメスティック・バイオレンス（DV）をなくすためには、どのようにしたらよいと思いますか。（〇はいくつでも）

- 1 法律や制度の見直しを行う
- 2 相談や捜査、裁判などの担当者に女性を増やすなど、女性が被害を受けた場合届出しやすいような環境をつくる
- 3 被害者のための相談体制や保護施設を整備する
- 4 人権や男女平等についての学校教育を進める
- 5 若年者へ、人権や男女平等について、家庭で教育をする
- 6 行政がもっと啓発活動をする
- 7 被害者の自立支援を強化する
- 8 わからない
- 9 その他（具体的に： \_\_\_\_\_）

※「ドメスティック・バイオレンス（DV）」とは、配偶者（事実婚や離別・死別を含む）や恋人などのパートナーから、身体的・精神的・性的などの暴力をふるわれること

問29 性犯罪や買売春など、主に女性が被害や不利益を受ける問題をなくすためには、どのようにしたらよいと思いますか。（〇はいくつでも）

- 1 防犯カメラの設置箇所を増やす
- 2 相談や捜査、裁判などの担当者に女性を増やすなど、女性が被害を受けた場合届出しやすいような環境をつくる
- 3 被害者のための相談体制や保護施設を整備する
- 4 人権や男女平等についての学校教育を進める
- 5 若年者へ、人権や男女平等について、家庭で教育をする
- 6 行政がもっと啓発活動をする
- 7 過激な暴力表現のビデオやゲーム等の流出を制限する
- 8 女性の就労を支援する
- 9 わからない
- 10 その他（具体的に： \_\_\_\_\_）





**性的少数者(セクシャルマイノリティ)についてうかがいます。**

問30 性的少数者について、どの程度知っていますか？(〇は1つ)

- |           |             |          |
|-----------|-------------|----------|
| 1 よく知っている | 2 まあまあ知っている | 3 よく知らない |
| 4 全く知らない  |             |          |

※「性的少数者」とは、セクシャルマイノリティとも呼ばれ、同性愛者や両性愛者、性同一性障害など、性的指向や自認する性などが、非典型的な傾向を持つ人たちのこと。

問31 問30で「1 よく知っている」、「2 まあまあ知っている」と答えた方にうかがいます。

あなたの身近に、性的少数者の人はいますか？(〇は1つ)

- |      |       |         |
|------|-------|---------|
| 1 いる | 2 いない | 3 分からない |
|------|-------|---------|

**男女平等参画社会の推進についてうかがいます。**

問32 あなたは、男女平等参画の推進に、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

- |                             |
|-----------------------------|
| 1 啓発リーフレットの配布やポスター等の掲示による啓発 |
| 2 若年層への教育                   |
| 3 出前講座の実施                   |
| 4 講演会・セミナーの開催               |
| 5 ホームページやフェイスブックを利用した情報提供   |
| 6 図書やDVD等貸し出し資料の充実          |
| 7 推進企業への補助制度の充実             |
| 8 法律の整備                     |
| 9 家庭での話し合い                  |
| 10 子育て環境の整備                 |
| 11 介護制度の充実                  |
| 12 休暇制度の充実                  |
| 13 行政・企業・市民との連携             |
| 14 特に必要なことはない               |
| 15 その他(具体的に: )              |



問33 次の言葉のうち、あなたが見たり聞いたりしたことがあるものはどれですか。(1)～(11)のそれぞれの項目について、あてはまる番号に○をつけてください。(各項目に○は1つ)

	見聞きしたことがあり、意味も知っている	見聞きしたことはあるが、意味は知らない	何となく見聞きしたことがある	おそらく見聞きしたことはないと思う	見聞きしたことはない
(1) 男女平等(共同)参画社会	1	2	3	4	5
(2) 一億総活躍社会	1	2	3	4	5
(3) 苫小牧市男女平等参画都市宣言	1	2	3	4	5
(4) 日本女性会議 2017 とまこまい	1	2	3	4	5
(5) ジェンダー	1	2	3	4	5
(6) ワークライフバランス	1	2	3	4	5
(7) イクボス	1	2	3	4	5
(8) デートDV	1	2	3	4	5
(9) ダイバーシティ	1	2	3	4	5
(10) ケアメン	1	2	3	4	5
(11) LGBT	1	2	3	4	5

男女平等参画を進めるにあたり、ご意見やご要望がありましたらお聞かせください。

アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。



男女平等参画に関する市民意識調査報告書

苫小牧市市民生活部男女平等参画課

〒053-0021 苫小牧市若草町3丁目3番8号（市民活動センター内）

TEL (0144)84-4052 FAX (0144)37-2223

Eメール danjobyodo@city.tomakomai.hokkaido.jp